

立命館

父母教育後援会だより



A Magazine for Parents' Association Members of
Ritsumeikan University

2010年度
夏号

2010 Summer Issue

CONTENTS

02 父母教育後援会 会長 寄稿文「人と人との縁」

【特集】

03-11 逆境に負けない「立命館の学生力」を育てる

03 2009・2010年度 就職状況の概況

04 全国で見る、他大学と比較する立命館の就職率

05 学生インタビュー
「就職活動を通して学んだこと、感じたこと」

06 教学部長×キャリアセンター部長対談
「主体的な自己の形成と進路選択」

08 座談会「外国で、キャンパスで、世界と出会い、成長する」

10 立命館大学校友インタビュー
横田尚哉氏 (株式会社ファンクショナル・アプローチ研究所 代表取締役社長)

12-23 父母教育後援会 春のオープンカレッジ

13 進路・就職講演会

15 就職相談会

16 スキルアップ説明会

17 留学説明会

18 大学院進学説明会

22 学生生活講演会

24-35 正課・正課外活動で総合的に成長する学生たち

24 学生部長メッセージ
「正課外活動を通じた学生の成長」

26 正課・正課外を超えて成長する学生たち

28 データに見る学生実態

30 立命館のゼミナール訪問

34 施設紹介

36-55 報告・お知らせ

36 父母教育後援会総会

40 都道府県父母教育懇談会(兵庫県・長野県)

44 ホームカミングデー

47 Parents' Voices

48 保健センター健康通信

50 学生のスポーツ&イベント

51 学園トピックス

52 こんな場合はここへ

54 講座・展覧会のご案内

55 公費助成の取り組みへお礼と協力をお願い

立命館大学とご父母の皆さま、またお子さまとご父母とをつなぎ、
絆を結ぶ「父母教育後援会だより」の発刊にあたり、
千 宗室父母教育後援会会長より、ご寄稿いただきました。



茶道裏千家家元
父母教育後援会 会長

千 宗室

人と人との縁 えにし

様々な情報伝達手段が発達した現代社会においては、遠く離れた相手とのコミュニケーションも容易になり、私たちは時間的・空間的隔たりを越えて多くの人とつながることが可能になりました。しかし、その一方で、地域や家庭における人間同士の触れ合いはむしろ希薄になっているように思います。かつての日本では、互いに相手の佇まいを気遣いながら生活を営むなかで、ごく自然に秩序や譲り合いの心が育まれてきました。しかしながら、悲しい事件があつたを絶たない昨今の社会情勢を見ますと、私たちはどこかに大切なものを置き忘れてきてしまった気がしてなりません。

最近の若い人たちは、お互いが何もないところから関係を構築していくことに抵抗感を持っているようです。面倒くさい、失敗したらどうしようという気持ちでは、人との関わりを深めていくことはできません。人間関係というのは、空っぽの自分になって他人と向き合い、触れ合っていくのを繰り返すことで築いていけるのです。人と出会うこと、人と語らうことを恐れずに誰とでも素直に向かいあい、相手の良いところを見つけようとする気持ちを持つことで、人に対する気配りや優しさが生まれ、言葉のやり取りにも潤いが出てくるのではないのでしょうか。

私たちは、日々未知のものとの出会いを繰り返しています。今、世の中は情報量が非常に多く、パソコンや携帯電話があればすぐに情報を得られるため、誰もが簡単に答えを見つけられると錯覚しがちです。しかし、インターネットを通して、人が作った知識に触れるだけでは、それはかりそめのものに過ぎません。そこで得た知識に、さらにひと手間かけることで自分の中に残していくことができるのです。何かを知ろうとするためには、知ろうとする気持ち、人に尋ねる気持ちを持つ必要があります。尋ねるといことは、人に近づくということです。ありのままの自分で心を開いて向き合えば、相手もまた、心を開いてくれるようになるはず。そうならば、デジタル社会を通じて築いた縁よりも深い縁が、人と人が触れ合う中でしっかりと出来上がっていくはず。

逆境に負けない「立命館の学生力」を育てる

世界規模で続く経済不況の影響で、大学生は現在もお厳しい進路・就職状況に直面しています。そんな逆境でこそ問われるのが、社会で本当に必要とされる力です。立命館大学では、教学体制、学習支援制度、キャリアサポートなどを整備し、主体的に学び、自ら大きく成長を遂げる学生を後押ししています。個性あふれる学生、多様な学び、豊かな経験を得て、社会で力強く生き抜く力、立命館ならではの「学生力」が育ちます。



2009年度 就職状況の概況

厳選選考が強まり、コミュニケーション力、人間性、ビジョンが問われる採用。

2008年秋に起こったいわゆる「リーマンショック」の影響を受け、2009年度の就職状況は、極めて厳しいものでした。大学生・大学院生を対象とする全国の民間企業の求人総数は、前年の94.8万人から72.5万人と23.5%も減少しました。採用選考や内々定の時期が早期化する一方、最終選考での不合格者が増え、就職活動の長期化にも拍車がかかっています。

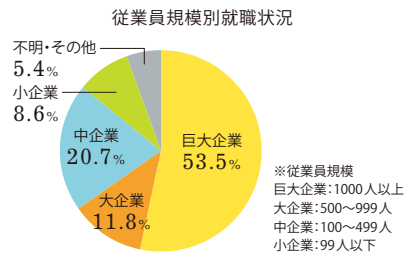
本学では全卒業・修了者の98.5%の進路を把握しています。その結果、こうした厳しい状況にあっても就職決定率(※1)は93.4%、進路就職決定率(※2)は83.6%と、高水準を

維持。昨年度と比べても各々-2.4%、-5%と微減にとどまりました。

文系の学生は安定志向が顕著で、就職活動においても大手・有名企業を中心にエントリーする傾向が見られました。採用においては、対人関係を重視し、コミュニケーション力や組織活動の力を試す企業が増えています。加えて職務遂行能力だけでなく、価値観やビジョンが求められる傾向も高まっています。技術系については、特に近年採用の大幅圧縮が見られます。採用においては、学部生は基礎専門能力やコミュニケーション力、人物が重視され、大学院生

は、研究・技術力とともに人間力が問われることが多いようです。またビジョンや成長意欲、職業意識の高さも重要な採用判断基準となっています。

2009年度大企業への就職状況



PLACEMENT DATA 2010

2010年度 就職状況の概況

立命館だけに寄せられる求人は増加。あきらめずに続けることが大切。

2010年度の就職活動は、大手企業を中心とした選考がひと段落したところです。6月以降も準大手、中堅企業に舞台を移して採用選考が続けられます。厳選採用はますます強まり、依然として厳しい就職状況に変わりはありません。2011年3月卒業生を対象とする民間企業の大卒求人倍率は、1.28倍と昨年同時期よりさらに減少。求人総数も58.2万人と、14.3万人も減りました。

加えて公務員試験の受験者数も増えていきます。国家公務員Ⅰ種の一次試験では、受験者数が25%も増加した反面、合格者数は昨年より10%も減少しました。国家公務員Ⅱ種、地方公務員においても競争倍率が高まることが予想されます。国家公務員試験、司法試験、公認会計士試験、教員採用試験といった難関試験の本学の合格者は、例年全国有数の実績を誇ります。しかしそれでも本年度は、昨年以上に険しい道のりとなることでしょう。

知名度の高い大手企業への集中傾向は、さ

らに高まっています。そんな中苦戦しているのは、単独で就職活動を行う学生です。こうした学生は経験値が高まりにくく、不合格が続くと就職活動をあきらめてしまったり、安易に進路を変更する例も見られます。

一方で本学への求人数は、7986件(2009

年10月~2010年4月)と、昨年度より11ポイント増えました。本学独自の求人依頼の結果、6月現在、さらに約1200件の追加求人情報が届いています。例年学生の60%が内定を得るのは、実は6月~12月です。だからあきらめず、就職活動を続けることが大切です。

公務員合格状況

国家公務員・地方公務員の合格者数は全国の大学でも有数。

立命館大学は例年多数の公務員合格者を輩出しています。その成果は全国の大学でもトップレベルです。多くの学生が国家公務員や都道府県・市町村などの地方公務員に合格しており、そのほとんどが上級職です。

●2009年度合格実績

国家公務員Ⅰ種試験……22名(全国私大5位)
国家公務員Ⅱ種試験……145名(全国私大4位)

●主な公務員実績

外務省専門職……1名
裁判所事務官Ⅱ種……28名
国税専門官……74名

●地方公務員の決定状況(主な自治体)

京都府…7名 静岡県…2名 神戸市…4名
滋賀県…5名 福井県…2名 名古屋市…6名
大阪府…6名 富山県…2名 横浜市…2名
兵庫県…5名 岡山県…2名 広島市…7名
奈良県…6名 広島県…1名 福岡市…1名
和歌山県…2名 山口県…2名 札幌市…1名
岐阜県…1名 東京都…9名 松山市…4名
愛知県…4名 京都市…15名
三重県…2名 大阪市…2名

司法試験

2009年度新司法試験合格者数 全国第10位!

2006年度から第1回新司法試験が開始され、2010年度までには旧司法試験と併行で実施されます。

●2009年度合格実績 新・旧司法試験合格者合計……61名

公認会計士試験

人気の高い高度専門職、公認会計士への多数進出。

98年以降、例年2桁の最終合格者を輩出しています。近年は、在学生の健闘が目立っており、2009年度は在学生16名が最終合格を果たしました。

●2009年度合格実績 公認会計士試験合格者……37名

教員採用試験

関西・大都市圏を中心に、高い合格実績。

2009年度では、延べ109名の合格者が出ており(既卒を含めると276名)、教員養成系大学を含めると全国有数のレベルとなっています。

●2009年度採用状況(主な自治体)

京都府……60名 奈良県……7名 千葉県……9名
滋賀県……19名 和歌山県……2名 愛知県……20名
大阪府……36名 東京都……6名 三重県……9名
兵庫県……24名 神奈川県……18名 広島県……7名

※は、府県下の政令指定都市合格分を含む数字

(2010.3.31現在)

PLACEMENT DATA 2010

全国で見る、他大学と比較する立命館の就職率

全国の有名私立・国立大学の中でも屈指の高い就職率を誇る。

立命館大学は、他の有名私立・国立大学と比べても全国屈指の高い就職率を誇ります。2009年3月の卒業生を対象とした就職率は86.4%と、全国の主要な私立・国立大学の中で第4位と、好結果を残しています(週刊東洋経済「大学四季報」より表2)。とりわけ特徴的なのが有力企業への就職者数の多さです。「会社規模」「知名度」「学生の人気」が高いと位置づけられる企業410社への就職者数を見ると、2007年度には早稲田大、慶応大に次いで全国で第3位になるなど、日本を代表する企業へも多くの学生を輩出しています(週刊エコノミスト「9/23号」より表1)。

このように「就職に強い立命館」であり続ける理由の一つに、キャリアサポートの手厚さが挙げられます。「2011年版大学ランキング」では、進路・キャリア教育

に関わる事務職員力において全国第2位の評価を得ています(表3)。キャリアセンターでは、独自に企業にアプローチして求人を募るとともに、立命館大学生だけのための就職セミナーやガイダンスを主催し、企業と大学生のマッチングを促進しています。また全国各地に本拠地を置く有力企業を招いた採用セミナーも開催。Uターン、Iターンを希望する学生も支援しています。

加えて学生の進路把握率の高さも欠くことのできない強みです。キャリアセンターでは、98%を超える学生の進路を把握。個別に就職相談に乗り、各々の適性や希望を見極めた上で一人ひとりに合ったサポートを行っています。

キャリアセンターの支援のみならず、立命館大学でしか得られない多様な経験

や学びのすべてに、立命館大学生が企業から選ばれる理由があります。全国・海外から集まった個性豊かな3万人もの学生と出会い、育む多様な価値観、世界観もその一つ。またインターンシップ、留学、ボランティア活動など学外や海外で学ぶプログラムも用意。学力だけでなく多様な見識、能力を養うことができます。エクステンションセンターでの資格取得や難関試験合格の支援体制も充実しています。さらに教学とキャリアセンターが連携し、低回生からキャリア教育を実施。早い段階からキャリアをデザインし、形成する素地をつくっています。こうして全学を挙げて就職支援、キャリア教育を組織的に展開することが、学生の就職を大きく後押ししているのです。

主要な私立・国立大学の主要企業への就職状況(2007年度)

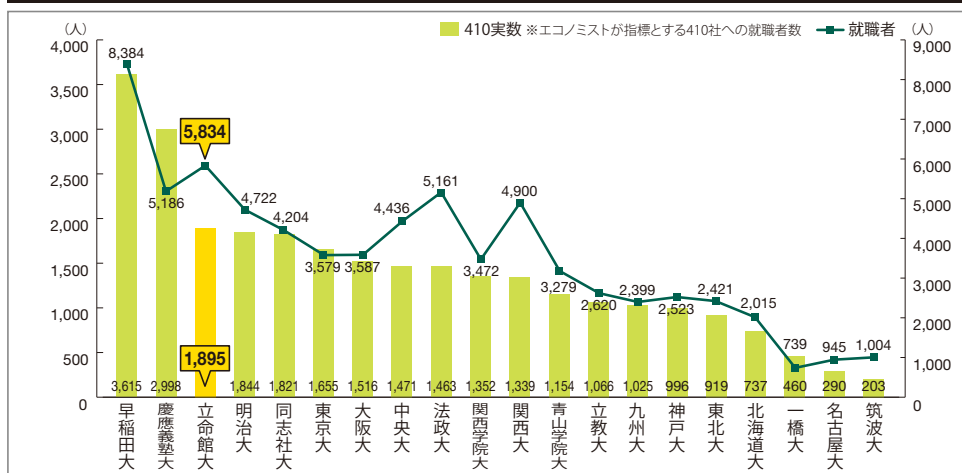


表1 週刊エコノミスト2008年「9/23号」毎日新聞社出版

主要な私立・国立大学の就職率と総学生数(2008年度)

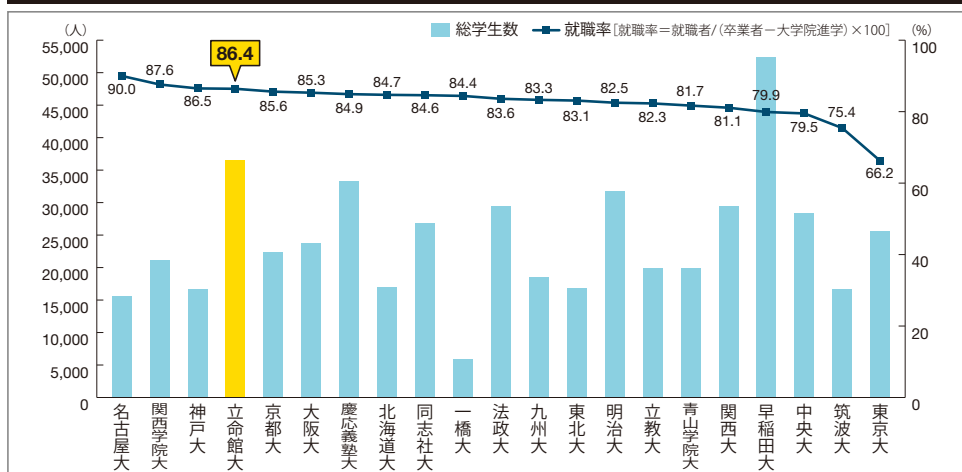


表2 週刊東洋経済2009年10月24日号「大学四季報」東洋経済新報社出版

事務職員力が優れている

進路・キャリア教育		
	大学	人
1	金沢工業大	92
2	立命館大	47
3	明治大	34
4	立教大	29
5	中央大	15
6	法政大	13
	武蔵野大	13
8	同志社大	12
9	日本大	11
	早稲田大	11
11	関西大	10
	豊田工業大	10
13	桜美林大	8
	京都産業大	8
	慶應義塾大	8
16	国際教養大	7
	神奈川大	7
	関西学院大	7
19	近畿大	6
	国際基督教大	6
	中京大	6
	名古屋商科大	6
	名城大	6
	山梨学院大	6
25	一橋大	5
	広島大	5
	亜細亜大	5
	産業能率大	5
	専修大	5
	安田女子大	5
31	山口大	4
	追手門学院大	4
	日本福祉大	4
	広島経済大	4
	広島修道大	4

表3 2011年版大学ランキング朝日新聞出版

STUDENT

学生インタビュー

INTERVIEW

山田雅也さん

文学部 4回生
製薬会社 MR 職内定



めてくれました。今振り返れば、私を思いやり、真剣に向き合ってくれたからこそその厳しさだったのだと分かります。こうした

コピーライター志望から 人とかかわる営業職へ

私が就職について真剣に考え始めたのは、3回生になった頃でした。最初は「言葉」で人を動かすことに魅力を感じてコピーライターを志望。半年間、民間のコピーライター養成講座に通いました。ところが次第に覚えるようになったのは、「おもしろくない」「何かが違うな」という違和感。コピーを考えるのは、孤独な作業です。「もっと人とかかわりたい」という気持ちが膨らみ、実は、私は「言葉」にではなく、言葉を通じて人とコミュニケーションをとることが好きなのだと思います。講座を終了した10月、志望は、人とか

に参加し、業界・企業研究をする一方、キャリアオフィスで自己分析を深めることに費やしました。年明けから採用試験が本格化します。筆記試験、面接と、4月までに約50社を受験。しかし1社からも内定を得ることはできませんでした。

ショックや徒労感は大きかったけれど、ここであきらめるわけにはいきません。企業の採用活動が第二期を迎える4月以降、もう一度、自分を見直すことから始めました。役に立ったのは、キャリアオフィスのスタッフの方に相談に乗っていただいたこと。客観的な判断を仰いだことで、自分の強みをアピールしたつもりが実は面接官にうまく伝わっていなかったことや、内定を得たいばかりに本来の自分を曲げて

就職活動を通して挫折を乗り越え、成長し、希望の進路をつかんだ。

かわる営業職へと変わっていました。自分が本当は何をやりたいのか。最初から目標のはっきりしている人は多くありません。関心のあることに挑戦し、真剣に向き合ってみる。その経験を経たからこそ、進路がはっきり見えてきたのです。

50社から不採用通知を受け取る

10月からは、学内で開催されるセミナー

Masaya Yamada



いたことに気づかされました。

自分のこだわりや長所を素直に伝えられるようになって、面接官の反応は、目に見えて変わりました。そして6月、3社から内定通知を受け取ることができました。

コミュニケーションとは 「人となり」そのもの

私が目指したMRは、営業職の中でも特に「人とかかわり」が重要な仕事です。また営業成果が新薬開発に役立つなど、医療という非常に重大な側面で人に貢献できるところにも魅力を感じています。

「人とかかわる仕事」においては特に「コミュニケーション能力が重要」といわれます。就職活動を通して実感したのは、「コミュニケーション」はスキルではなく、「人となり」が表れるものだということです。サッカー少年だった私は、中学・高校時代、監督・コーチにずいぶん厳しい指導を受けました。反発したこともあったけれど、先生方はそんな私のことも真正面から受け止

人とかかわった経験の一つひとつが人格の核となり、「人の役に立ちたい」「人と真摯に向き合いたい」といった私のコミュニケーションの根源を培ってくれたのです。

評価されたのは、成長の可能性

コミュニケーション能力だけではありません。就職活動を始めた当初、私は「自分にはアピールできる強みが何もない」と感じ、自信を持てませんでした。けれど企業で求められるのは、突出した才能ではありません。内定後、ある面接官からこんな言葉をいただきました。「君は面接を重ねる中でどんどん成長していった。私たちは、そんな君の今後の成長に期待しています」と。

就職活動では、何度も試練に遭い、挫折を味わいます。けれど模索したり、人とかわる中でこそ成長し、その人だけの強みが養われていくのです。後輩の皆さんもそれを信じて就職活動に臨んでほしいですね。

主体的な自己の形成と進路選択

—小集団での学びと自主活動を通じた経験、つながりを土台に

春日井 敏之 教学部長、文学部教授



前田 信彦 キャリアセンター部長、産業社会学部教授

司会 キャリアセンター次長 浅野 昭人

依然として厳しい状況の続く雇用情勢。そうした社会状況に左右されず、目標を見出し、希望の進路をつかむために、学生は大学生活をどう過ごし、何を身につけるべきなのか。教学、そしてキャリア支援の立場から、学生の成長を支援する大学の取り組みについて語り合いました。



「団体戦」で学び、成長する場 —小集団教育と自主活動

司会 2008年秋のいわゆる「リーマンショック」以降、新規学卒者に対する企業の求人倍率は著しく下がりました。公務員についても同様です。国家Ⅰ種・Ⅱ種を含めて志願者は増えているにもかかわらず、採用枠は減っているのが現状です。少しずつ景気が回復傾向を見せる中で、今年4月以降、ようやく巨大企業を中心にこれまで控えていた採用を増やす動きが出てきました。今年5月末までに立命館大学に寄せられている求人数も、昨年に比べて111%と若干増えています。しかしギリシアに端を発したヨーロッパの経済危機が取りざたされるなど、先行きは依然として予断を許しません。こうした状況の中、今年も多くの学生たちが、就職活動を続けています。お二方は、現状をどう見ておられますか。

春日井 多くの学生が今、「生きづらさ」を抱えていると感じています。一つには、厳しい社会情勢の中で就職が決まらないなど「努力が報われにくい」という生きづらさです。もう一つは、同じような困難を抱えている青年が身近にいるのにそれを共有できず、孤立しているという「つな

がりの乏しさ」からくる生きづらさです。キャリア教育も含めた大学教育の課題の一つは、こうした孤立しがちな「学生をつなげる」ことだと考えています。

司会 悩みや苦しみを友達や先生に打ち明けられない、キャリアセンターも活用できない。そんな学生が就職活動でも苦戦しているようです。そうならないために、大学はどう支援しているのでしょうか。

前田 本学には、「団体戦」で学ぶ機会が数多くあります。課外自主活動もそうです。自主ゼミやサークル活動など、学生が主体的に運営に取り組む活動や、PL^(※1)といった、学生同士が就職活動を支援し合う仕組みもあります。「団体戦」のいいところは、互いに話せる仲間ができること。たとえ内定がなかなか得られなくても、仲間との対話の中で「なぜ落ちたのか」と客観的に考え、善後策を考えられるようになります。活動そのものの中でも失敗することがあるでしょう。挑戦と挫折を繰り返す中でこそ、人は成長します。こうした主体的な活動を通して自己を成長させた学生は、就職活動でも結果を出せる可能性が高まります。

春日井 正課においては、「小集団教育」が、「団体戦」の役割を果たします。本学には、「基礎演習」など1回生から30人程

度の小集団で学ぶクラスがあります。小集団教育が学びの中軸となり、それが2~4回生のゼミへとつながっていきます^(※2)。学生はそこに居場所を見出し、仲間や教員と学び合い、悩みや葛藤を共有します。小集団教育が、学生の成長と自立を促す場として機能するのです。もちろん、学力の質を保証するという点でも小集団教育の役割は大きいものがあります。

前田 低回生のうちから他者との濃密な関わりを意識する場面を、多く経験することが、結果として、就職活動時に企業からの「社会とどのように関わっていききたいか」という問いのこたえにつながるのだと思います。

就職対策ではない4年間で 希望の進路につながる

司会 ところがさまざまなことに挑戦しているにもかかわらず、就職活動になると、自分の取り組みやそこで身につけた能力を言葉にできない、相手に伝えられない学生も見受けられます。

春日井 あれもこれもと欲張って手を出さず、結局何をしたいのかが分からなくなったり、何を果たしたのかを確認するところまでいかないと、取り組むこと自体を目的にして疲れてしまう学生も少な

※1 PL：プレイスメントリーダー。学生による就職支援の取り組み制度
※2 学部によってゼミ開講回生は異なります。

くありません。

前田 たくさんプログラムがありすぎて、どれを選べばいいのか分からず、立ちすくむ学生も増えているように感じます。そうした学生を支援することが今後の大学の課題かもしれません。

春日井 社会で求められるのは、目に見える結果よりもむしろ、手ごたえのある学びや経験、つながりを経て、何を得ていったのかというプロセスです。それは、たとえばプレゼンテーション能力のような一方向のスキルに留まりません。相手の意見も聞きながら、内容や気持ちを理解した上で自分の意見も主張できる双方向のコミュニケーション能力など、社会や企業の中で本当に必要な力が問われているのです。

前田 そこには一人の市民として、社会の中で責任を果たし、国や社会を自分たちの手で作り上げていこうという意味や行動力も含まれます。それはいうなれば立命館が大切にしている「地球市民」という意識を育てること。就職という眼前の目的からは一見遠いようですが、こうした自己を確立することこそ、企業や社会から、何より人生において必要とされることだと思います。

春日井 そうですね。自己を形成していく上で大切なことは、正課や課外における学びや体験を振り返り、自分や他者にとっての意味づけを行い、言語化して伝えていくことです。

就職活動経験を正課の学びにフィードバックする

司会 さて一方では就職活動の早期化と長期化が進んでいます。就職活動が3回生の夏頃から4回生の後期にまで伸びることもままあり、その間は思うように授業に出られない事態も発生します。こうした中で、「1回生から4回生までつながる教育」は実現できるでしょうか。

前田 正直なところ大学だけの取り組みでは、難しいのが現状です。企業に採用活動そのものの見直しを求めていくことも、大学の責任の一つではないでしょうか。

春日井 大学での学びと就職活動を個別に考える必要はありません。就職活動も成長の機会の一つと捉え、そこで経験し

た挫折や喜び、葛藤などを大学に持ち帰り、仲間と共有することも学びの一環となるはず。ゼミがその場になると考え、交流会等を意識的に行っています。

前田 学外で得たものを再び大学に戻って正課の学びに生かす。その繰り返しが重要ということですね。

春日井 その通りです。たとえば、4回生をゼミに呼び戻し、全学部で卒業論文、またはそれに相当する成果の提出を必修化することについても検討をしています。

グローバル人材の養成へ一違いを認め合う地球市民、多文化共生

司会 国際化が進展する現在、企業からもグローバルな素養を備えた人材を求める声が高まっています。大学はそれをどうとらえていますか。

春日井 これまではグローバル化というと、主に日本の企業が海外へ進出していく文脈の中で語られてきました。しかし今日では、外国人労働者や留学生を迎え入れ、お互いに違いを認め合っていく多文化共生が課題になっています。国境や言葉の壁を超えて、平和の担い手、地球市民として学生同士が互いに理解し合う。大学における学びを通してつながりが深まればと考えています。

前田 グローバル展開している日本企業の人事担当者は、学生時代に少しでも多くの人（価値観）と出会い、他者と協同する経験を積んできた学生に期待を寄せているとおっしゃることが多いです。毎日の学生生活の中で、アンテナを立てつつ、新しいこと、未知なことにチャレンジしていく意欲を、本学学生には大切にしてほしいですね。

わが子の進路選択と保護者の役割

司会 最後に保護者の皆さんにメッセージをお願いします。

春日井 進路選択の時期に、保護者の皆さんにとっての最大の課題は、「子離れ＝わが子を信じて見守る」と「求められた範囲で可能な援助を行う」ことです。「子どもは自分が思うほど大人じゃないけど、親が思うほど子どもじゃない」「あまり、『今日どうだった』と言わないで、自分か



春日井敏之



前田信彦

ら話すのを待ってほしい」…ゼミ生の言葉です。子どもの相談相手は、親でなくてもかまいません。友達や教員、サークルの仲間といった誰かとつながり、または夢中になる何かを持っていることを確認したら、後は信頼して見守ってやることではないでしょうか。もしわが子が挫折したり悩んでいるような時は、親自身の人生をリアルに語ってあげてください。同じような時期、親は挫折や葛藤の中をどのように凌いで生きてきたのかを。

前田 同感です。親子関係は十人十色。セオリーなどありません。あえて言うなら、「待つ」こと、そして「聴く」ことだと思います。親と話せる内容は友人とも違いますが、社会に出る前に親子で話す機会を持つことも重要だと思います。

座 談 会

外国で、キャンパスで、 世界と出会い、成長する



まず自己紹介を兼ねて、
所属している団体や留学経験に
ついてお聞かせください。

奈良 留学生チューター「TISA^(※)」の代表
をしています。私たちの主な活動は、立命
館大学で4年間学ぶ正規留学生の生活・学
習を支援すること。そのほか国際交流イベ
ントを企画・運営したり、学内外で国際理
解を深める活動も行っています。

パク TISAで副代表を務めています。同時
に私自身も韓国からの留学生です。

鹿屋 留学生を支援するTISAとは異なり、
“留学アドバイザー”は、留学に興味を抱
く立命館大学の学生を対象としています。
私は2回生の時、アメリカ・ボストンで短
期留学を経験しました。帰国後の2008年
後期に“留学アドバイザー”が発足。初代
の代表になりました。

廣田 そして現代表が私です。メンバー
は、主に留学経験者。大学が提供する留学・
海外情報だけでなく、現地へ行ったからこ
そ分かる情報や、留学のおもしろさを当事
者の視点で学生に伝え、留学への理解を深
める活動を行っています。

奈良 TISAを知ったのは、カナダのサイモ
ン・フレーザー大学で海外研修を経験して
帰国後、「大学でも国際交流に関われない
か」と模索していた頃。自分のためになる
だけでなく、留学生の役に立てるところが

「いいな」と思いました。

パク 私は日本語教師になる夢を抱いて
来日しました。でも当初は日本の生活に
なじめなくて。辛い思いをしていた時、出
合ったのがTISAでした。TISA主催のイベ
ントに参加して「大学生活を楽しもう」と
思えるように。同じ留学生として辛さや悩
みの分かる私が役に立てたらと思っています。

鹿屋 私は高校の時から海外へ行きたい
という気持ちを持っていました。でも当
時はかなわずじまい。大学から奨学金と
いう後押しを得て、実現することができ
ました。

廣田 私の場合は1回生の時、大学の留学
説明会に参加したのがきっかけです。周囲
の友達の多くが留学を経験していて、「お
もしろいよ」と聞いた影響も大きかったで
すね。1年間、留学に備えて英語を勉強し、
1セメスターの間、オーストラリアの大学
で学ぶプログラムに参加しました。

各々の活動や留学で
印象に残っていることを
聞かせてください。

奈良 思い出深いのは、昨年秋に開催した
「国際交流ハイキング」というイベントで
す。留学生に京都を楽しんでもらおうと、
観光ツアーを企画。準備に3カ月以上を費

やしました。当日はTISAのメンバーを含め
て179名が参加。参加者からの「楽しかつ
た」「ありがとう」という言葉が嬉しかった。
大きな達成感を得ることができました。

パク 私は今年の夏のイベントの責任者
を任されています。手配などで学内外の
方々と交渉する際、言葉の壁にぶつかるの
が悩みの種。奈良さんをはじめ、いつもサ
ポートしてくれる仲間がかけがえのない
存在です。

鹿屋 私は企業経営やマネジメントに関
心を持っています。ボストンは、メジャー
リーグレッド・ソックスの本拠地。そこで
スポーツビジネスの現場を垣間見たこと
が、おもしろかったです。スタジアムのマ
ネージャーを訪ね、観客を楽しませる大切
さや集客を増やす戦略についてリサーチ
しました。留学期間はたったの1カ月。事
前に自分なりの目標を立て、下調べを万全
にして臨んだことで、充実した濃密な時間
を過ごすことができました。

廣田 留学中は、文化や経済など多様な側
面から日豪関係について勉強したほか、英
語力の習得に力を注ぎました。「照れたら
負けだ」と自分に言い聞かせ、現地の人に
積極的に話しかけるよう心がけました。お
かげで英語力はもちろん、行動力や決断力
も身につきました。

※ TISA : Tutors for International Students Assembly

いまやどんな企業で働いていても、また生活する上でも、世界と触れずに過ごすことはできない時代になっています。ところが近年、中国・韓国をはじめアジア各国の留学生が増えている反面、日本人の留学生は減少しています。これは大学だけでなく、日本、そして世界の未来を考える上でも由々しき状況と言わざるを得ません。これからの日本を、そして世界をリードしていくために、ぜひ高い国際性や異文化理解力を身につけて欲しい。世界と出会い、異文化に触れる経験は、人としての成長にもつながります。そのために、立命館大学は、高い国際性を育む制度・環境を整えています^(※)。今回は、留学や課外活動を通して世界に触れ、成長を遂げた学生4名に、国際交流の大切さを語っていただきました。

廣田俊之さん

経済学部 3回生
留学アドバイザー代表

経験した留学プログラム：
立命館・マコーリー大学
「日豪関係プログラム」



奈良朋子さん

文学部 3回生
TISA 代表

経験した留学プログラム：
海外スタディ
(カナダサイモン・フレーザー大学)



パク・ジョンスさん

文学部 2回生 TISA
韓国人留学生



鹿屋美月さん

経営学部 4回生
留学アドバイザー

経験した留学プログラム：
立命館・昭和ポストン
「文化・社会調査プログラム」



**留学や国際交流を通して
得たものは？**

鹿屋 日本人だから、女性だから、そんな肩書や属性にとらわれなくなりました。フィルターをかけず、相手を受け入れることで、どんな人とも臆せずコミュニケーションを取れるようになったと感じています。

廣田 同感。留学中、生活していた寮には、オーストラリア人のほか、韓国、中国、ヨーロッパ、アメリカなど世界各国の留学生が暮らしていました。生活習慣も人によって実にさまざま。その中で文化や価値観の違いを認め、理解し合うすべを培いました。

パク 私にとっては、日本人そのものが異文化でした。最初に戸惑ったのは、日本人特有の遠回しな言い方。でも次第にそれは、相手を思いやるがゆえの表現だと理解できるようになりました。外国で暮らすことが、異なる文化や人を理解する広い視野の獲得につながると実感しています。

奈良 TISAに入るまでの私は、人前に立つのが苦手でした。けれどイベントで留学生を誘導したり、会議の際には、嫌でも皆の前に立ち、大声で呼びかけなければなりません。思い切って声を出した時、自分自身の殻を破れた気がしましたね。

鹿屋 留学アドバイザーになったことで、

学内でもさまざまな国籍の学生と知り合うチャンスが増えました。英語で発表する授業の前にアドバイスを求めたりと、正課の学びにおいてもプラスになっています。

**ご家族や周囲の支えを
感じることは？**

パク やはり留学費用や生活費など、金銭的なサポートにはとても感謝しています。また月2、3回の電話で「ご飯、ちゃんと食べてる?」という母の声を聞くだけで、元氣になれます。

奈良 私も実家の母親とよく電話で話します。家族のみんなが私のしたいことを理解し、応援してくれることへの感謝の気持ちを忘れないようにしたい。だからTISAの活動も、学業も、全力で取り組んでいます。

廣田 金銭的サポートはもちろん、「やりたいことに挑戦しなさい」と、行動範囲を広げてくれる両親に感謝しています。また大学の友達や幼なじみなど、友達にも刺激やエネルギーをもらっています。

**他の学生へのメッセージを
お願いします。**

奈良 TISAの活動を通して、学内にいながら国際交流を体験できることはもちろん、企画・運営で苦労することでコミュニケー

ション能力や協調性、責任感が養われ、自分自身が成長できます。ぜひTISAの活動に参加してください。

パク 外国や異文化を知ることで、一気に視野が広がります。怖がらずに勇気を持って国際交流に挑戦して欲しいですね。

廣田 外国に行くと、日本に興味のない人、日本人を知らない人にもたくさん出会います。そういう人と理解し合う過程を身をもって体験できるのが留学の醍醐味の一つ。また外国から日本を眺めることで、自分のことや日本のことを客観的に捉えられるようにもなります。経験する価値は大いにあると思います。

鹿屋 私も同じ気持ち。初めてボストンに降り立った時の、文字通り目の前がパーッと開けるような感覚は忘れられません。それまで映像や本を通して知っていた情報も、目で見て、体で感じるると新しい発見がたくさんあります。視野がグローバルに広がったことで、卒業後の進路も海外展開している企業を志望するようになりました。また就職活動でも、自分を見つめる力やコミュニケーション力を生かすことができました。思い切って挑戦すれば、必ず得るものがあるはず。ぜひたくさんの人に留学を経験し、この感動と成長を体感して欲しいですね。

[※]立命館大学には多様な留学プログラムがあり、年間2000名を超える派遣枠を用意しています。2010年度現在、国際部主管の全ての留学プログラムに奨学金制度(給付制)が用意されています。
[※]2009年度国際化拠点整備事業(グローバル30)採択:文部科学省が指定。留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材の養成を図っている大学を、海外の学生が日本に留学しやすい環境を提供する国際化拠点として認定。



横田尚哉さんは「ファンクショナル・アプローチ」(以下、ファンクショナルと略)という発想技術を用いて、公共事業の無駄を洗い出し、本当に必要なものだけを造るよう公共事業を改善する、業界屈指のコンサルタントです。10年間で扱った公共事業の総額は1兆円にのぼり、縮減提案したコストの総額は2000億円超という実績を持つ自称「改善士」。業界を問わず広く注目され、現在も全国から問い合わせが殺到しています。「何のため? 誰のため?」を追求し「ファンクション(機能、役割)」の視点で物事の本質を見極め、現在は建設のみならず、企業などの改善につながるよう、このアプローチを広めています。人と同じことを嫌う「異端児」という横田さんは公共事業に加え、サラリーマン時代には慣例となっていた職場内のルールを改め、仕事の取り組み方も改善するなど、あらゆる場面で「工夫」を忘れません。横田さんにお話を伺いました。

ファンクショナル・アプローチとの出会い

「ファンクショナル」は目的を追求しながら物事の問題を見直す手法です。1947年に米国・GE(ゼネラル・エレクトリック)社で生まれました。このアプローチは、主に技術分野で用いられている20世紀の三大技術の1つ「VE(バリュー・エンジニアリング=価値工学)」でも使われています。米国では広く活用されていますが、日本では技術分野以外ではほとんど知られていないのが現状です。

このアプローチは至ってシンプルな手法です。電車で例えると、走る本数を単純に減らすと輸送力は低下します。しかし、少ない本数でも各駅停車と急行を組み合わせると、同じ本数でも輸送力は向上しますよね。山登りに例えても、多くの荷物を担いで山を登ると大幅に体力を消耗しますが、必要最小限にすると軽々と頂上へたどり着きます。公共事業も身軽になれば、多くの事業が進んでいくのです。そういった無駄をなくすため、役割や機能、すなわちファンクションを追求していくのがこの技術で、役所の方と徹底的に意見交換しながら、公共事業を改善に導いていました。

見えてしまった2020年の危機

卒業後、大手建設コンサルタント会社のパシフィックコンサルタンツ株式会社に入社し、橋梁の設計を担当していました。色々な橋を設計し、シビルエンジニア(土木技術者)として公共事業に携わっていましたが、その中で「自分がやっていることは自然破壊なのか」と割

り切れない気持ちになることがありました。そして、自分は環境を守る“エコ・シビルエンジニア”になり、1996年から単独で活動を始めました。橋の設計は、担当する技術者によって変わるものなので、それなら私が設計するものは、限りなく自然に認めていただける範囲で造ろうと決めました。そして1997年に出合った「ファンクショナル」が公共事業に使えるツールだと確信し、これを極めようと幾度か米国を訪れて様々な事例を学び、自分なりにアレンジしました。

「ファンクショナル」を広めようと動き始めた2003年、経営担当部署に異動になりましたが、これが転機でした。バブル崩壊後、公共事業は縮減していましたが、改めて世の中の未来について考えると、危機的な状況が見えたのです。これを私は「2020年問題」と名づけますが人口減少、生産人口減少、税収減、高齢者率増加、福祉増加…そして公共事業は減少。加えて、高度経済成長期に多数造られたコンクリート建造物の寿命(約50年)の「更新」のピークも2020年で、この状況では新しいものなど造ることができません。

自社の存続、そして公共事業や地域住民の未来のためにも、役所に対して住民の視点に立った公共事業の必要性を提案しました。苦戦でしたが、ファンクションを追求し、説得を続ける中で、何とか1地域でモデルとなる事例ができました。そうなる急速に広がり、「ファンクショナル」はわずか3年で国内50%の地域に普及するほど伸びていったのです。

既に公共事業の分野ではこのアプローチが広がっています。私は次のステップへ進むべく、2010年3月にパシ

フィックコンサルタンツ社から独立し、株式会社ファンクショナル・アプローチ研究所を設立しました。「30年後の子どものために、輝く未来を残したい」を使命とし、日本の国力を高めるため、広く企業や人に「ファンクショナル」を働きかけています。

「道草、寄り道、回り道」で発見を求めた少年時代

「回り道しないですぐに帰ってきなさい」と子どもを叱る親がいますが、道草は大切だと思います。今は世の中が危険だから、そう言う気持ちも分かりますが、



よこた・ひさや

1964年 京都に生まれる
1977年 立命館中学校 入学
1980年 同 卒業
立命館高校 入学
1983年 同 卒業
立命館大学理工学部 入学
1987年 同 卒業
パシフィックコンサルタンツ(株) 入社
2010年 (株)ファンクショナル・アプローチ研究所 創業
現在に至る

■現在

(株)ファンクショナル・アプローチ研究所
代表取締役社長
CVS*(Certified Value Specialist、国際バリュー・スペシャリスト)の資格保有者。

*VE(バリュー・エンジニアリング)に関連する資格で最も困難とされるこの資格は世界で約900名、日本ではわずか123名(2010年1月現在)の登録者しかいない。VEコンサルタントを行う上で求められるスキル、経験、知識が豊富にあり、倫理的にもその称号にふさわしい者に与えられる。

Hisaya Yokota



何のため？誰のため？ 大切なのは本質を見極める視点

株式会社ファンクショナル・アプローチ研究所 代表取締役社長

横田尚哉

さん (1987年 理工学部卒)

改善士

父母の皆さまが子どもの頃、寄り道で得た発見はありませんでしたか？道草は何かがあるんです。私は寄り道から、何でも遊びに変えようとする「力」が身に付いたと思います。冒険好きで、決められた道を進むのがとにかく嫌いです。そんな人間だから会社のルールに従わないこともありました(笑)。しかし、ルールはあくまで最低限決められていることであって、時には更新が必要だと思ふのです。ルール違反は怒られますが、やってみれば面白いかもしれません。怒られることを恐れず、とにかくやってみることに意味があると思います。

会社では、社内で慣例化されていた土曜出勤に染まらないよう、自分のワークスタイルを貫き、それがモデルとなって同僚へと広がったこともあります。週休2日の会社に入ったというプライドがありましたから、納得いかない働き方には当然従いません。ただ、仕事を楽しみに変えるような工夫は、常に念頭に置いて

ています。苦しんだら面白くないし、苦しいことでもやり方次第で楽しくなるのです。それも、少年時代の寄り道から培った「遊びの技術」が活きているのかもしれません。

大切なのは目的を考えること

家庭では子どもが考えることを尊重してほしいです。幼い頃は「どうしてどうして？」と聞きますよね。しかし、いつの間にか「手段」を知りたがる子どもへと変わってしまいます。論文一つとっても「どうやって書こうか」と手段を求め、「何のために書くのか」を考えません。「卒業するため」に論文を書くのでしょうか。せめて家では目的を考えるように日ごろから教育してほしいですね。

「How to」の教育では、子どもが求めるのも「How to」。社会に出て「やり方を教えてください」「マニュアルをください」では、すぐに限界がきます。「な

ぜ働くのか？なぜ立命館を選んだのか？誰のため？何のため？」。小さい子に問いかけるよう、家庭で「ファンクション」を実践してください。それなら誰でもできますよね。大学生からでも全然遅くないですよ。

振り返ると、私は親から「自分で考える力」を伸ばすように育てられていたと思うのです。常に父は自分に試練を与え、決して一気に潰そうとはせず、負かせそうで負かせない距離感を保ってくれました。何も教えてくれないし、助けてもくれません。それなら自分でやる、と反発ばかりしていて、気付けば考える習慣が身に付いたのかもしれない。また、中学、高校、大学の計10年間を、自由な校風の立命館で学んだことも「遊び心」の育成につながったのだと思います。人のつながりや信頼関係が構築される「立命館ファンクション」は、今でも私の原動力になっています。

SPRING



2010年度 春のオープンカレッジ



OPEN COLLEGE 2010

IN KINUGASA CAMPUS & BIWAKO KUSATSU CAMPUS

6月6日(日)、衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスで、「2010年度春のオープンカレッジ」が催されました。

今年は、「立命館創始140年・学園創立110周年」を記念し、ご父母、校友、学生、地域の方々に感謝し、互いの絆をいっそう深めるための「ホームカミングデー」も同日に実施し、ひときわ賑やかなキャンパスでの開催となりました。

プログラムは、「進路・就職講演会」、「就職相談会」、「スキルアップ説明会」、「留学説明会」、「大学院進学説明会」、「学生生活講演会」など。

いずれの会場もご父母があふれ、お子さまの学生生活や、就職や進学といった将来に対する関心の声が聞かれました。前日の5日(土)には「父母教育後援会総会」が行われ、今年度の事業計画と予算案が承認されました。

進路・就職講演会 (1～3年生対象)

衣笠

花王株式会社の人材開発部長井上直樹氏を招いて開かれた進路・就職講演会。「激動のグローバル時代に求められる学生像」と題して、経済と雇用のグローバル化が進む今、企業が求める人材や、学生の企業選びについて、実践的な立場からお話いただきました。

グローバル時代における 日本企業の戦略

我々のように消費財を主としたビジネスを展開する企業のメガトレンドとしては、「新興国を対象にしたマーケティング」「ウェブや通販などの新しい消費者」「地球環境問題への対応」の3つが挙げられます。

花王のように人口に比例して売上げが伸びる商品を扱う企業は、今後人口が増えるBric'sといった新興国などが重要なマーケットになっていきます。

こうしたさまざまなトレンドのなかで、多くの企業は、「10年後、20年後にはこういことをやっていきたい」という意気込みのある人を採用したいと考えています。



大学生活の出来事を 具体的な事実として分析する

ウェブで応募を受けつけ、書類選考に通った学生に企業説明会の案内をする。このようなインターネットを使用した採用活動が当たり前となり、面接を終えた学生のブログから、他の学生が面接内容

を入手できる時代です。

しかし大切なのは、自分の大学生活を具体的な事実として捉え、自分の頭で考えること。面接で突っ込んだ質問をする、その答えが表面的なものだとすぐわかります。

花王が求める ともに働きたい人材像

我々がまず面接で聞くのは、「なぜ花王に入社したいのですか」ということです。それは、花王で働きたいと心から思う学生に来てほしいからです。風土、文化、経営理念、やり方は企業によって違うので、企業の価値観と自分の就職観や個性を合わせることが大切です。本当に志望している学生は、我々のことを勉強してくれています。

花王が社員に求めるものは、大雑把に言うと、「挑戦意欲」「専門性」「国際感覚」「協働」「倫理観」の5つ。「当たり前なことを当たり前に行える」かどうかは重要なポイントです。この点では、日本企業の求める人材像に大きな違いはないと思います。

たとえば、「挑戦意欲を持っていますか?」と面接で尋ねた時、我々は、学生が自分のこととして具体的に話せるかどうかを見ます。今までにどんな失敗を経験し、それをどのように克服したのか。どんな経験でも整理・分析していないと、自分のものにはなりません。

専門性を見る場合は成績を尊重しますが、取り組みや知識については具体的に聞きます。この場合、自分の言葉でやってきたことを愚直に話すことが大切です。

国際感覚なら、語学力や海外経験よりも、多様な人々とコミュニケーションをとってきたかを重視します。そして、将来海外で働きたいという意欲のある人を望みます。

協働する力も非常に重



要です。企業は組織なので、誰かとコミュニケーションをとって仕事を進めなくてはなりません。自分の思いを伝え、納得してもらえ努力をし、信頼をもらえる人が求められます。企業は「この人と働きたい」と思える人を採用します。

倫理観については、残念ながら最近入社してくる人の中には基本的な生活マナーやルールにルーズな人がいます。企業としては、それでは困ります。

志望企業に足を運び 自分の肌で感じる事が大切

毎年、新卒採用者の約3分の1が退職すると言われています。理由は、「思っていた会社と違う」「我慢ができない」というもの。就職活動の目的は入社ではありません。会社と社員がお互い成長できるよう、長期間同一企業で働いてほしいと思います。

早期退職にならないためには、企業選びや自分のしたい仕事を間違えないことが大切です。まずは「働きがいとは何か」を考えてください。次に、その企業に共感し、そこで働く自分がイメージできるか。社員はどんな人たちかを知ることも参考になります。

志望企業が見つかったら、できるだけその商品、サービス、社員とふれ合ってください。インターンシップに参加したり、先輩と話したり、企業訪問をするなどして、情報だけに惑わされず、自分の目で見て、肌で感じとることをお勧めします。



進路・就職講演会 (1～3回生対象)

BKC

日本が誇る世界企業の一つ本田技研工業株式会社の人事採用グループでグループリーダーを務める中西貴之氏をお招きし、「激動のグローバル時代に求められる学生像」をテーマに、現在の就職活動の傾向から、企業が求める人材像、親としての役割などについて、幅広く語っていただきました。



業界・企業選びにおいては“場の違い”の把握が大切

“今どきのシュウカツ”の特徴の一つとして挙げられるのが、就職活動の長期化です。3回生の春にガイダンスや企業セミナーが始まりますが、選考がスタートするのは、当社を含む倫理憲章に賛同する企業の場合、4回生の4月。本当に長期化しています。

情報過多であることも大きな特徴です。それゆえキャリア不安が起りがちですが、実は求人倍率は1.28倍と、氷河期に比べれば良い状況にあります。またインターネット上に正しい情報、正しくない情報が混在し、学生たちが目先のことに左右されているという印象も否めません。イメージ先行、歪んだ就業観で業種・企業を選ぶ傾向があるように感じます。

グローバル時代の企業選びにおいて重要なのは、“場の違い”を知ることで考

えます。ひと言に「グローバル戦略」と言っても、当社のようにさらなる開拓を模索する会社、これから海外に出て行く会社、あるいは提携という形で海外進出を図る会社など、各社スタンスが異なります。スタンスが異なるということは、活躍の場も、やることも異なるということ。さらに日本国内の産業構造が、製造業を太い柱とし、それを支援するという形で成り立っていることを踏まえ、そのなかでの各業界の立ち位置も把握し、「どこで何をやるのか」という自分自身の立ち位置を考える機会を持ってほしいと思います。

企業が求める人材は、本質的には今も昔も変わっていない

経済産業省が社会人に必要な力として提唱する「社会人基礎力」には、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」などがありますが、決して突飛なことではないと思います。昔と比べても、大きく変わっていないのではないのでしょうか。

当社を含む多くの企業が求める人材像についても、同じことが言えると思います。当社が求める人材像として掲げる項目は、大きく4つ。「夢と志の実現に向け全力を尽くせる人」「自発的、積極的に行動し、プロセスを大事にする人」「柔軟な思考発想で物事に取り組める人」「互いに違いを認め合い尊重できる人」です。たとえば40年前と比べて言い方こそ変わってはいませんが、基本的な部分は何も変わって

当社の中で周囲から「アイツやるな」と思われている人材に共通する素養を挙げるとすれば、熱いハートとクールな頭脳、客観的な洞察力、創造的思考力、状況適応力、問題解決力といったものでしょうか。これらも、多くのグローバル企業において共通するものではないかと思います。



学生生活を通じて培われる“人間力”こそが採用のカギ

先ほどふれた情報過多の影響もあり、学生たちは「資格を取らないと就職できないのではないか」と表面的なことにとらわれがちです。またエントリーシートの書き方や面接での受け答えなどについても、テクニック志向に流れる傾向にあります。そうならないために不可欠なのが、正しい方向へと導く大人の存在です。

当社をはじめとする多くの企業が面接で見極めようとしているのは、“人間力”にはかなりませぬ。そして、人間力を高める上で重要となるのは、やはり学生時代です。学生時代は、挫折を経験し、踏み出す勇気を培う機会であり、世の中を知り、自分が社会とどう関わっていくかを考える機会でもあります。学生の皆さんにはぜひ、情報に流されることなく、自分なりの考え方を形成できるよう、充実した学生生活を送ってほしいものです。



就職相談会 (4回生以上対象)

衣笠

全体会では、世界に広がる経済不安により、厳しい就職状況が続いていることが報告され、キャリアセンター前田信彦部長より、2010年度進路・就職の現在の状況と、今後の就職支援について具体的に説明されました。その後の学部ごとの個別相談会では、保護者の疑問や不安を解消すべく、ていねいな質疑応答が行われました。

採用活動の本格化はこれから

「現在、大手企業の選考がひと段落し、就職活動が続ける学生たちは今後、準大手、また中堅企業に舞台を移すことになります。積極的な採用活動の本格化はこれからです」と説明されました。一方で「学生の就職活動の動向は、知名度の高い大手企業への集中傾向が強まり、初期



段階で不合格となるケースが例年より増加しています」とも報告。「単独で就職活動を行う学生は、周りや情報を共有しないために経験値が高まりにくく、結果として過度な自信喪失に陥ることがあります。絶対にネガティブにならず、諦めないで」と語られました。

また公務員についても「今年の国家公務員Ⅰ種一次試験の合格者数は大幅ダウン。大学生の志願者数は増える一方、こちらも非常に厳しい状況です」と述べられました。

相談窓口を活用し 団体戦で挑む事が大事

次に話題は、求人状況に移りました。今年の求人倍率は全体で1.28倍、従業員

1000人以上の企業で0.57倍と依然として厳しいものの、一方で1000人未満の準大手企業では2.16倍、立命館大学においては、昨年度に比べて16%求人が増えるなど、改善の兆しも見え始めています。「例年6月から年末までに就職先が決まる学生は、約60%。5人に3人はこれから内定をもらうということです。諦めずに活動を継続してください」と話されました。

「就職活動は『個人戦』だと考えられがちです。けれど落ちた時に話せる仲間や、相談する相手が力になることもあります。『団体戦』で臨むことが大切なのです」として、「常時窓口を開設し、さまざまな支援企画を行っているキャリアセンターを積極的に活用してほしい」と勧められました。

続いて学部ごとに分かれて個別相談会が実施されました。

就職相談会 (4回生以上対象)

BKC

企業による厳選採用が続くなか、昨年以上に厳しい状況となっている現状を踏まえながら、キャリアセンター平井英嗣部長より、2010年度の求人情報、それを受けてのキャリアセンターの支援策について説明されました。その後の学部別相談会では、就職活動に関する質疑応答が行われました。

採用状況の最前線と 今後の見通しについて

まず、2010年度の就職戦線の状況について報告されました。「長続きするか否かを見極めるという意味では企業での厳選主義が続いており、厳しい状況であるということに変わりはありません。リーマンショック以降、国家公務員Ⅰ種の採用試験への応募者が増えており、そちらも大変厳しくなっています」と解説。「とはいえ、求人倍率は1.28倍と決して悪くはなく、従業員1000人以上の大手企業では昨年よりも採用数が増えています。また1000人未満の企業では採用が減少しているものの、求人倍率は2.16倍と、マッチングさえできれば仕事があるという状況です。本学にも4月までで約8000件の求人

をいただいております。キャリアセンターの求人の開発と学生の頑張りがあれば、83.6%という昨年度の進路就職決定率を上回るのではないかと考えています」と、今後の見通しが述べられました。

多彩かつ柔軟な支援で 希望の進路・就職を実現

続いて、キャリアセンターの支援対策が紹介されました。学生の状況を把握した上で、カウンセリング、マッチングを行うことを基本としながら、採用情報入手するための合同企業説明会、第一次選考も兼ねた予約型キャンパス説明会など、さまざまな企画を立体的に実施しています。さらに就職活動の長期化についてもふれられました。「学生たちは大きな



ストレスや不安を抱え、その中で迷ったり悩んだりすることも少なくありません。本人の考え方を踏まえたカウンセリングで、自らが就職活動に踏み出し、進路の選択をできるように支援していきたいと考えています。ご家庭でも、本人のやる気を大切にしながらサポートしてあげてください」と、相談に乗る際のアドバイスが語られました。

スキルアップ説明会

BKC

真の国際人の育成を目指して多彩な外国語講座・プログラムを提供するCLA（言語習得センター）より、目的別に設置された語学講座について説明されました。また幅広い分野におけるスキルアップのほか、公務員試験合格や国家資格取得をサポートするエクステンションセンターから、全国でも有数の実績を誇る各種講座が紹介されました。

CLA 講座

祐伯敦史スポーツ健康科学部准教授が登壇し、CLAの目的や現状、講座の特長について述べられました。「CLAは正課の授業プラスαのものを提供するために設立されました。現在2000名を超える学生が受講。授業の空き時間を有効に活用でき、共通の目的を持つ仲間とともに学びます。経験豊富な講師陣の中には、大手企業などで研修を担当している者もあり、『就職後に活かせる英語を身につけたい』といった学生の要望にも応えられる体制を整えています」と、そのメリットを解説。さらに、就職活動に英語を生か



したいと考える学生が多く受講しているTOEIC®講座については、「レベル別編成となっており、リピーターの学生も多い講座。時間が取れない学生のために直前対策講座も実施しています」と、詳細が語られました。

そのほか、北米への留学や大学院進学を目指す学生に向けたTOEFL®講座、資格試験にとらわれず英語でのコミュニケーション力を身につける少人数英会話講座、衣笠キャンパスで実施されている、英語以外の語学を学ぶ初修外国語講座などについての説明を通して、CLAのきめ細かい支援体制が紹介されました。

Student's Voice



近藤 侑央さん
経営学部4年生

留学を目指して、1回生の時にTOEFL®講座を受講しました。当初はTOEIC®で450点前後、TOEFL®で460点前後でしたが、受講後、交換留学に必要な500点以上にアップ。アメリカへの留学を実現できました。さらに帰国後、3回生の春には、TOEIC®で945点をマーク。第一志望の商社から内定をいただくこともでき、講座を受けて本当に良かったと思っています。

エクステンション講座

エクステンションセンターより、まずはその全体像が説明されました。「講座は、公務員講座、公認会計士講座、法曹講座、就職支援講座、資格講座の大きく5分野に分けられ、BKC・衣笠両キャンパスで年間約7000名もの学生が受講しています。就職支援講座としてはビジネスマナー講座などを、資格講座としては宅建講座やその他の国家資格に向けた講座などを開講。各種講座において、市価よりも安価で受講できる体制を整えています」と、述べられました。

引き続き、5分野の講座の詳細についての活用方法が解説され、「キャリア支援という観点からサポートを行っており、講座以外にも、各業界の第一線で活躍して

いる方を招いてのセミナーや講演会を実施しています。キャリアに対する視野を広げるためにも活用していただきたいと思います。大切なのは、目標やビジョンを持つこと。それらがなければモチベーションを維持することはできません。同様に就職活動においても、それらを考えることが求められています。資格はキャリアを実現していくための通過点という意識を持った上で、積極的に活用してほしいと思います」と、述べられました。



Student's Voice



丹羽 渉さん
経営学部4年生

2回生前期に受けたFP講座をきっかけに、「金融の知識を身につけたい」と考えるようになり、後期には証券アナリスト講座を受講しました。安易な気持ちで始めた私ですが、講義を通して、自分が何に興味があるのかを自覚できたことが最大の収穫です。第一志望の銀行から内定を得ることもできました。今後は取得した二つの資格を生かし、仕事で最適なソリューションを行っていきたいと思います。

留学説明会

衣笠

世界26カ国以上、121の協定大学と、2,000名以上の募集人数を誇る立命館大学の海外留学制度。留学に希望や関心を持つ学生のご父母で埋まった会場では、自分に適した留学プログラムを見つけて、しっかりと準備をすることが留学後の成果につながるという具体的なアドバイスが伝えられました。

留学を通して 豊かな自分を創る

まず堀江未来国際教育推進機構准教授から、海外留学の意義や準備などについて述べられました。「学生からよく聞かれるのは、『留学は将来や就職に有利か』『英語が話せるようになるか』ということです。その答えは、『とにかくやってみる』です。留学を通して自分のしたいことを選んでいく過程が、成長につながるのです」。

留学を通して獲得できる国際的資質については、「一つにはコミュニケーション能力があげられます。留学後の学生は外国語だけでなく、自分の意思を明確に述べる日本語運用能力も高まります。それは、就職にも有利に働いているようです。次に文化や物事の多面性に対する深い理解、問題解決能力、多文化環境で発



揮できるリーダーシップなど。これらはすべて社会で問われる能力です」と説明されました。

加えて留学前の準備の重要性が強調されました。「準備の仕方でも留学後の成果に違いが出ます。まずは留学したい気持ちを具体的に考えること。自分をよく知る、家族とよく話し合う、留学先について自分で情報収集を行う、普段の学習をしっかりとすることがポイントです」と語られ、さらに帰国後、学内の国際交流や英語開講科目の受講を通して、いっそうの向上を目指すことも勧められました。

こまめな情報収集で 万全の準備を

次に国際教育センターから各プログラムが紹介されました。「レベル別にイニシエーション型(初級)、モチベーション向上型(中級)、アドヴァンスト型(上級)に分かれ、期間は、2週間から2年間まで。新規のプログラムも随時開発されています。また先輩から後輩へ情報を伝達する仕組みも整っており、留学相談ブースでは留学アドバイザーが疑問・質問に対応しています。そのほか留学先での生活や注意

点を指導する渡航前のガイダンスや奨学金制度も充実しています」と解説されました。

さらに応募・派遣の手続きの注意点として、「長期・上級レベルのプログラムほど募集の時期は早くなります。応募時期などの情報については、国際教育センターで配布される各種パンフレット・募集要項やホームページ、掲示板をチェックしてください。どのプログラムに応募するにも、応募レポートが課され、明確な志望動機や計画をアピールする必要があります。また本学での成績も審査の対象となります」と述べられました。卒業に関わる相談は各学部事務室、就職活動との兼ね合いについてはキャリアオフィスが対応することも加えられました。

続いて3名の学生による留学体験談が披露され、最後に質疑応答の時間も設けられました。



Student's Voice



根来好星さん

異文化理解セミナー
モンテレイ工科大学コース
文学部4回生

授業はすべてスペイン語。宿題も毎日ありますが、放課後に現地で日本語を学ぶ学生がサポートしてくれました。週末は2泊3日の小旅行に行き、孤児院訪問も実現するなどメリハリのある充実した日々でした。

留学で学んだことは、日本文化や自分を客観的に見ること、積極的に動くことの大切さ。親にも感謝の気持ちを素直に伝えられるようになりました。

Student's Voice



佐伯雄大さん

立命館・UBC・ジョイントプログラム
UBC2年目派遣プログラム
国際関係学部5回生

「世界で話される言語で、世界の人々に対等につきあえる人間になる」という目的を抱いて留学。目的達成のために、本学から来ている他の学生とは適度な距離を保つことを心がけました。ついていけなかった授業は、ボイスレコーダーで聞き返し、単位を取得。一方で週末は大自然を満喫しました。国境を超えた友情・語学力・度胸・多様な価値観を得たことが、収穫でした。

Student's Voice



水田明里さん

アメリカン大学との学部共同
学位プログラム(AU-DUDP)
法学部4回生

留学中は、山のようにチャンスがありますが、行動しなければ何も始まりません。勉強以外にもインターンシップやボランティアに参加するなど、常にアンテナを張って情報をキャッチすることが大切です。留学で培ったのは、「自立心・自己マネジメント能力」「コミュニケーション能力」「積極性・行動力」。この3つの力を就職活動の原動力かつアピールポイントにしました。

大学院進学説明会

衣笠

文社系においても、大学院でより専門的な技能や知識を身につけて社会に出ようとする学生が増えています。

衣笠キャンパスでは、文社系大学院、および法科大学院（ロースクール）の説明会が開催されました。

いずれも大学院のカリキュラムやプログラムの長が紹介されたほか、学び方や心構え、修了後の将来についても言及されました。

文社系大学院

今年度からスポーツ健康科学研究科が、来年度からは映像研究科（仮称）が増設され、全部で17の研究科を抱える立命館大学大学院。説明会では、春日井敏之教学部長から文社系大学院についての現状が説明されました。

「先日学生向けの大学院説明会を開催しましたが、例年より1.5倍から2倍近く参加者が増えています」と話され、大学院で2年、あるいは5年学び、より専門的な技術や技能、知識を身につけて社会に出ようとしている学生が多くなって

いるという現状が伝えられました。ただし「就職の厳しさからひとまず逃れようと大学院へ進学しようという発想では、結局大学院での生活はまっとうできない。高い志が大切です」とも繰り返し強調されました。

卒業後の進路については、大学院を卒業したからといって圧倒的に有利だとはいえません。しかし大学院でどのような生活、研究、学びをしたかと語るに相応しい中身を膨らませられる環境が豊かにあるので、そこを強みにすれば、有利に展開で



きると語られました。

また私学であるが故に学費が高いという点についても触れられました。約40%の院生が、何らかの形で奨学金を受けているという内実を説明。学費の全額または半額、4分の1相当を減免するなど、私学のなかでも手厚い奨学金を用意していることが説明されました。「確かに経済面について課題はありますが、なじんだ学習環境で学びを継続する強み、研究環境、周りにいる研究仲間たちは、本学ならではの強みです」と述べられ、多くの学生が志を持って研究科へ進学してくれることを願っていると伝えられました。



Student's Voice



塩谷摩耶さん
社会学研究科
博士課程前期課程
1回生

世界中で起きている日本の漫画やアニメブームについて研究しています。大学院の魅力は、自分の勉強に没頭できることと、教員との距離が近いところ。学生も学びに対するモチベーションが高く、何気ない会話のなかで知識の幅や考え方がどんどん広がっていくのを実感しています。強い意志があれば、あらゆる可能性を広げられるのが、社会学研究科のいいところです。

Student's Voice



馴田文雄さん
法学研究科
博士課程前期課程
2回生

大学院には、学部からの進学者だけでなく、留学生や社会人などさまざまな人が在籍し、極めて多様性に富んでいます。演習ではみんなで討論し合い、さまざまな考え方や視点を身につけることができます。また一人ひとりに机と本棚が用意され、研究に没頭する環境も整っています。卒業後は地元・高知県で地方公務員になり、大学院で学んだことを生かしたいと思っています。

Student's Voice



田中有美さん
文学研究科
博士課程前期課程
1回生

学部3回生の頃、大学院への進学を決意しました。経済的な問題がありましたが、両親と相談した結果、4回生と大学院の授業を並行して受けられる進学プログラムを受験し、1年早い修士号の取得を目指すことで決着。さらに奨学金をいただいたことも支えになりました。経済面でのサポート体制が充実しているのも大学院の魅力の一つです。



法科大学院

「私立京都法政学校」として100年の法学教育の歴史を持ち、2004年、全国的に法科大学院が設置されると同時に開校した立命館大学法科大学院。説明会では、今年度の入試担当である倉田原志副研究科長が、法科大学院の全体像を説明しました。

最初に開校当初から定員150名(既修者コース100名、未修者コース50名)を保ってきましたが、来年度より130名(既修者コース90名、未修者コース40名)に設定されることが報告されました。これについては「全国的な動きであり、全国でも2割程度が削減されています。教員の数は変更しませんので、よりていねいな教育・指導ができ、授業の規模は改善されることとなります」と解説されました。

次いで、法科大学院の理念「地球市民法曹を養成する」を挙げ、立命館大学の教学理念である「平和と民主主義」を、法曹分野で具体化するのが法科大学院であり、目指すはグローバルな視点と鋭い人権感覚を備え、さまざまな分野で活躍する市民のための法曹であると説明されました。そのために、未修者コースでは1年次に基本的な知識を身につけ、2年次では20名程度の少人数授業できめ細かく指導、3年次には実務を意識した総合演習や科目を配置し、特に実務総合演習や先端・展開科目についての工夫を凝らしていると述べられました。また「先端・企業法務」「国際・公共法務」「生活・人権法務」とい

OB's Voice



岡田健一さん

法科大学院
(法学既修者コース)
2006年度新司法試験合格
大阪弁護士会所属

法科大学院の一番の特徴は、少人数の演習中心の授業であること。毎回膨大な量の資料を渡され、次回までに理解を深めておく必要がありますし、必ず一度は当てられるので予習・復習をしなければ、授業についていけません。勉強に取り組む環境は充実しています。周りの学生の真剣な姿を見て自分のモチベーションも上がりますし、それに応える設備も整っています。私は1期生として卒業し、現在弁護士となって3年目です。司法試験に合格しなかった同期や後輩たちも、公務員や大手企業など様々な分野で活躍しています。来年度から司法試験制度が変わり、法科大学院に行かなくても受験できるようになりますが、議論できる仲間や多様な専門知識を持つ先生方との出会いは法科大学院だからこそだと思います。

う3つの先端・展開科目を備え、法曹家として専門領域を身につけられること、また各分野には実務家の専任教員も配置され、充実した環境にあることが紹介されました。

加えてワシントンにあるアメリカン大学ロースクールと提携し、夏休み休暇中にワシントンに滞在して現地学生と議論したり、授業を受け、実務や現場を体験するプログラムも用意しています。法科大学院でも、アメリカから招いた先生が英語で講義する科目を設定。「グローバルな視点を持ち、より国際化に対応する資質と能力を兼ね備えた人材育成に力を入れている」と強調されました。

続いて司法試験合格までのサポート体制について述べられました。1週間に90



分、先生にいつでも質問できる「オフィスアワー」、関西で活躍する弁護士による司法試験対策や無料添削を受けられるエクステンションセンターの「弁護士ゼミ」などが紹介されました。最後に、入試方式や競争率、学費・奨学金についても説明されました。



大学院進学説明会

BKC

理工学研究科、テクノロジー・マネジメント研究科 (MOT大学院)、経済学研究科・経営学研究科・スポーツ健康科学研究科を含めた社系大学院の3つに分かれて進学説明会が開催されました。いずれの研究科においても、大学院で身につけられる高い専門性が社会から評価されていることが示されました。また現在、大学院で学んでいる前期課程・後期課程の大学院生が登壇し、学習と研究について語り、大きく成長している姿を披露しました。



MOT大学院

立命館のMOT大学院は、関西で唯一の本格的なMOT大学院であり、また3年間で「理工学」と「技術経営」の2つの修士号を取得できるダブルマスター制も備えています。まず講演に立った青山 敦



教授から、立命館のMOT大学院が「就職に強い」理由が明かされました。それは、多くの企業が求める



「コミュニケーション能力」と「主体性」を高度に育成できることにあります。「ディスカッション形式の講義や、文系、理系、留学生など多様な学生との交わり、社会人学生との交流、企業の生の経営課題にふれるプラクティカムなどを通して、こうした力が鍛えられます」と解説。その結果、進路も多様に広がるのが分かります。「理工系出身者が、研究開発職だけでなく、コンサルティング会社や金融企業に就職する例も少なくありません。また技術の価値を理解しながら営業や経営に携われる文系出身者も、多くの企業から求められています」と述べられました。その上で「問題意識を持って自ら考え、主



体的に行動し、社会や人に貢献したいという気持ちを持ってMOTに進学してほしい」と結ばれました。

また入試制度やカリキュラム、奨学金などについても説明されました。

模 擬 講 義

中村 パナソニック、ソニーなど高い技術力を持った日本企業が今、世界市場で苦境に立たされています。それはなぜか、どうすればいいのかについて学ぶのがMOTです。

鈴木 たとえば私は、マーケティング理論の一つである「キャズム理論」を勉強しています。これはまさに今、インターネット業界などで注目されている理論です。MOTで今日的な問題にも取り組むことで、コンサルティング会社に就職した後にも生かせる知識や考え方を身につけられました。

中村 経営学部出身の私がMOTで得た最大の収穫は、「技術の価値」を理解できるようになったこと。技術の価値を理解した上で事業戦略を考えたり、エンジニアと議論



しながら製品を作り出したりする力は、今後のキャリア形成にもつながるはずです。

鈴木 文系、理系学生、外国人、社会人などさまざまな知識や背景を持った学生と議論するなかで、視点が広がったのも、ここで学んだからこそだと思います。



中村 綾太さん

MOT大学院
2回生
三菱商事株式会社 内定



鈴木 麻子さん

MOT大学院
2回生
トーマツコンサルティング
株式会社 内定

理工系大学院

まず市木敦之理工学部副学部長から理工系大学院の概要と進学の意義が説明されました。理工系大学院は、現在基礎理工・創造理工・情報理工の3つの専攻に分かれています。



加えて2012年に向けて大学院の再編を目指し、議論を進めていることが明かされました。

次いで「大学院での学びや研究を通して、諸科学の知識や理工系の基礎学力と情報処理能力、さらに主体的に問題を解決する力やコミュニケーション能力、プロジェクト遂行能力、マネジメント能力といった社会で求められる能力が育まれます。また広い人脈を培うこともできます」と、大学院で学ぶメリットが挙げられ

ました。

昨今の厳しい就職状況にあっても、一部上場企業への就職率は、学部卒に対して大学院卒が明らかに高い割合を示しています。国家公務員I種試験合格者の多くも、大学院修了者が主流を占めています。近年特に一流大学を中心に大学院進学者が増加傾向にあることも語られ、「目標の決まっている人はもちろん、まだ明確に進路を定めきれない人も、ぜひ大学院へ進学してほしい」と勧められました。また入試制度についても解説されました。



Student's Voice



澤田育則さん
理工学研究科
博士課程後期課程
1回生

現地調査やサンプル採取など、自分の目で事実を確かめ、分析する。そんな研究のおもしろさに魅了され、大学院へ進学しました。大学院には、研究に専念できる環境が整っている反面、自分で考え、主体的に行動することが求められます。研究を通して専門知識はもちろん、変化を見逃さない観察力や諦めずに継続する力が身につきました。またティーチングアシスタントを経験したことで、指導能力が養われたことも収穫でした。

社系大学院

石井秀則教学部長から、経営学研究科、経済学研究科、スポーツ健康科学研究科のほか、公務研究科、MOT大学院など社系に関連する立命館の大学院が紹介されました。社系大学院では、高度専門職業人となる能力や資格取得を目指すことができます。「経済学研究科では、世界のビジネスフィールドで活躍できる国際的な経

済知識の養成や、税理士資格取得をサポート。主に留学生を対象に、英語で学べるコースも設置しています。また公務研究科では、国家の重要な施策立案にかかわる国家公務員を目指すための学びが充実しています。その一方で、研究者となる道もあります」と示されました。

就職に際しては、大学院修了者には当

然学部卒業生以上の能力が問われます。「大切なのは、主体的に、アクティブに2年間を過ごすこと。そうすればきっと大きな成長を遂げられるはずです」と語られました。



Student's Voice



加藤佳奈さん
経営学研究科
博士課程後期課程
1回生

大学院の後期課程でサービスの国際化について研究しています。近年、サービスの国際化はファストフードに代表される標準化の方法によって飛躍的に進展しました。一方で、顧客ごとにカスタマイズされたサービスにも注目が集まる今日、多様なサービスの国際化のあり方を探っています。本研究科の国際色豊かな環境によって、英語力やディスカッション力が磨かれました。

Student's Voice



中野 謙さん
経済学研究科
博士課程後期課程
3回生

食糧自給率の問題に関心を持ったのは学部3回生の時。現在は研究者を志し、持続可能な食糧生産について研究しています。大学院では、海外までフィールドワークに出かけるなど研究の醍醐味を存分に味わっています。専門的な問題や学問領域について踏み込んで議論できる仲間がいるところが大学院の魅力。指導教官との距離も近く、きめ細かく指導していただいています。

Student's Voice



沖村優輝さん
経済学研究科
博士課程前期課程
1回生

税理士を目指している私にとって、専門知識を学ぶことに加えて、税理士の試験科目をいくつか免除される点が大学院進学理由です。学部時代より授業数が減った反面、授業の密度は格段に濃くなりました。強制されない分、自主的に学ぶ姿勢が必要です。試験対策に留まらない幅広い領域を学ぶので、税理士にならなくとも、社会の多様な分野に通じる専門性を養えると感じます。

学生生活講演会

衣笠

衣笠キャンパスでは、平岡和久・学生部副部長（政策科学部教授）が「大学で伸びる学生の力」というテーマで講演。大学の多様な環境を生かして、学生が「総合的な人間力」を身につけることの重要性を語りました。また目標達成のために、苦難を乗り越えて成長した学生の体験談も披露されました。

大切な大学生の時期

大学時代は、自立（自律）と人間形成のための重要な時期です。社会に羽ばたく前の培養期間として、試行錯誤や失敗が許される反面、親からの経済的・精神的サポートや、自己決定させるためのアドバイスも必要です。

では、なぜ大学で学ぶのでしょうか。理由の一つは、大学が学問・教育の自由と真理を探究する場だからです。若者に社会の発展に必要な教養や知の力を身につけさせることは、大学の使命でもあります。二つめには、大学が多様な他者との相互行為の場であるからです。地域や社会、海外とつながりのある大学で、多様な学生や教職員と関わり協働することが重要なのです。立命館大学は、総合大学です。学生は、社会の縮図のような環境の中で、



自らの可能性を伸ばし、それぞれのストーリーをつくっていくことができます。

大学卒業時に求められる力とは

文部科学省は、求められる「学士力」として、「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」を、また経済産業省は社会人基礎力として、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を挙げています。また「社会力」とは、門脇厚司筑波大学名誉教授が提唱する、「人と人がつながって社会をつくっていく力」です。社会力が身につくと、学問においても良い成績を修めることができます。

立命館大学では、「10年後にどういう大学を創造するか」という議論を重ね、「総合的な人間力」を学生に身につけてもらおうとしています。具体的には、「確かな学力」「社会をつくる力」「地球市民（多文化を理解して平和と相互尊重の精神に基づく行動力）」です。そのために、正課・課外活動を通じた自主的学びや取り組み、オリター活動をはじめとするピア・ラーニング（学

生同士の学び合い）を支援しています。

学生が成長する場面

学生は、自分で決めた目標を苦勞して乗り越えた時にこそ成長します。集団のなかで議論し、他者と協力して何かをやり遂げた時の達成感が力



になるのです。過去のアンケート結果によると、学生が成長したと実感した場面の多くは、「卒業研究（専門の勉強）」「課外活動」「友人との交流」においてでした。

どんな学生にも、大学生生活のなかで苦難や挫折を乗り越えてきたストーリーがあります。本日は3名の学生にそれぞれの学生生活のストーリーを語ってもらいます。

最後になりますが、父母の皆さまにお願いしたいことがあります。自立を目指して模索し、行動する子どもの姿を見守ってあげてください。あまり口出しせず、一人の大人として接することが、子どもの成長につながります。

Student's Voice



東野和香子さん

法学部2年生
法学部自治会オリター団
(1年生の学生生活、学習活動を支援する組織)

新入生歓迎祭典の模擬店の店長に立候補し、オリターさんに助けてもらって学生生活への希望がふくらみました。今、オリター活動をしているのはその経験があったからです。大学生活では、教職、エクステンションなど学部の勉強以外にも広く窓口は開いていますが、それを使いこなすには自分から動く力＝自主性が大切だと思います。

Student's Voice



辻本知佳さん

文学部3年生
軽音楽部 部長

2年生の夏、軽音楽部の部長に抜擢されました。部員200名、50以上のバンドがあるので、最初は自分が部長でよいのだろうか悩みました。自分がどう動くか、何が求められているのかを考えるようになり、自分ひとりで組織を動かしているのではないということを実感しました。学園祭では昨年とは違う味を出して、もっと自分が理想とするような部長になれるよう努力したいと思っています。

Student's Voice



秋山 翔さん

産業社会学部4年生
2009年度京都学生祭典
実行委員会 実行委員長

京都学生祭典の実行委員長を務め、1000人以上の仲間たちと祭典を創ったことが4年間の一番の思い出です。実行委員長を引き受けることを迷って先生に相談した時、「迷っているならしんどいほうを選べ」というアドバイスをもらい、背中を押されました。支え合う仲間の大切さ、人と関わることの楽しさを強く感じ、成長できました。

学生生活講演会

BKC

BKCの学生生活講演会は、白石晴樹学生部副部長の司会のもと、パネルディスカッション形式の講演会となりました。正課と課外の両方で活発に活動する4名の学生がパネリストとなり、学生生活を通していかに成長したかを語り、またそれを後押しする教職員やご父母の存在について意見を述べました。

司会



白石晴樹

学生部副部長・生命科学部教授

パネリスト



杉浦有美さん

経済学部3回生
音楽サークル“PEACE”所属



北西高志さん

生命科学部3回生
美術研究部所属



小口健太さん

理工学部4回生
内燃機関研究会所属



金本紗季さん

理工学部3回生
環境サークル“Reco.Lab”所属

正課・課外の両方が 学生を成長させる

白石 大学には、多様な学生が会えるコミュニティが数多くあります。正課での学びはもちろん、クラブ・サークル、学生生活のほか、地域の方々との交流も盛んです。正課で幅広い教養や専門知識が養われると同時に、課外活動では対人コミュニケーションやリーダーシップ、問題解決能力、主体性や協調性、チャレンジ精神などが磨かれます。学生の成長においては正課・課外のいずれもが重要です。まずパネリストの皆さんに、学生生活の中で「成長した」と感じることをうかがいます。

小口 世界に誇りうる自動車を日本で作るのが、私の夢。成長を感じるのは、「何事も尻込みせず、やってみよう」と思えるようになったことです。夢に近づくため、サークル活動以外に、自動車メーカーの講演会や展示会などに積極的に参加するようにしています。全国どこへでも足を運び、その際には企業の人とも臆せず話そう心がけてきました。

金本 エコ活動に取り組む私たちのサークルでは、自分たちで企画を出し合い、議

論して活動内容を決めています。そうしたなかでプレゼン能力やリーダーシップ、コミュニケーション能力が育まれました。

杉浦 音楽サークルでも自分たちで演奏会の企画や曲目を決めます。100名近い部員と意見を交わすうちに、多様な人とコミュニケーションをとれるようになりました。

北西 私もサークル活動を通して自主性が身についたと感じています。目的、方針を立て、行動する。そうした力が伸びました。

理解し、見守る父母の存在が 苦しい時の支えに

白石 悩んだり、苦しんだりしたことは？

小口 毎日サークル活動に授業、課題などがぎっしり詰まっていて、時間が足りないのが悩みです。疲れた時に相談にのり、理解してくれる両親が励みになっています。

金本 私も、授業とサークル活動のほか、エクステンション講座を受講し、アルバイトもしているため、睡眠不足の毎日です。直接相談しなくても、夜そっとコーヒーを差し入れてくれたりすると、両親に気にかけてもらえているという安心感を覚えます。

北西 サークルで、人をまとめる難しさに直面した時が苦しかった。モチベーションも個性も違うメンバーをまとめ、同じ方向を向いて活動するにはどうしたらいいのか、リーダーとしてずいぶん悩みました。

杉浦 仲の良い友達同士でも、時にはサークル活動をめぐって意見が対立することがあり、悩んだことがありました。諦めずに話し合いを重ねることで、より深く分かり合えるようになりました。

教職員と身近に接する 学びの環境が成長につながる

白石 教職員と接する機会はありますか？

小口 レーシングカーをキャンパス内で走らせるなど、サークル活動では、しばしば学生オフィスの職員の方に相談する機会があります。いつも学生のことを第一に考え、サポートしてくださる心強い存在です。

杉浦 立命館は、研究室の先生との心理的な距離が近いと感じます。指導教官の先生は、研究や勉強だけでなく、将来についても話を聞き、指導して下さいます。

白石 ご父母にしてもらって、うれしかったことは何でしょうか？

金本 何といっても食事を用意してくれることをありがたく思っています。

北西 「いつも笑顔で、やりたいことを貫きなさい」と言ってくれた言葉が嬉しかった。いつも何かを始める時には、この言葉を肝に銘じています。

白石 学生の成長には、正課・課外の活動、そして教職員とのかかわりなども大きな影響を及ぼします。ぜひお子さまにも、大学でさまざまな活動に挑戦するよう勧めていただければと思います。



Beyond/Borde

正課外活動を通じた学生の成長

学びと成長にとっての 正課外活動の役割

立命館大学に学ぶ約3万3千人の学生のうち、大学が把握している課外自主活動団体についてだけでも、約半数の学生が加わって活動しています。大学の部局が組織している学生スタッフ、学生間の自主的集まりや大学外の団体などへの参加も考慮に入れば7割程度の学生が何らかの正課外活動を行っているものと推測されます。学生の学びと成長を語る際には、ともすれば正課での学びにのみ目がいきがちです。しかし正課での学びが進むのは、実はこのような正課外活動が正課で学ぶための前提的力を養成していたり、具体的現実との関係で実践していたりすることによる側面も大きいのです。正課での学びが多様に展開しているものの、依然として正課では得られない力を正課外活動の中で獲得しています。

立命館大学の課外自主活動は、他の大学と比べてその参加者数が多いというだけでなく、組織的な取り組みに優れているという際立った特徴も持っています。様々な大学のサークルが集まった組織の事務局を担っていることも多く、たとえば京都学生祭典のような大学横断的な取り組みでは、その中心を担っているのは本学の学生であったりするのです。それは社会的視野をもつことにもつながり、ここに、立命館学生文化の育つ土壌があります。そのため大学も、直轄の企画を実施するとか個別学生を支援するということよりも、学生たちが自主的・集団的に取り組むことを支援するという形での支援を積み重ねてきています。



人との「係わり」を避けない 活動経験の重要性

学生の成長にとって正課外活動に取り組むことが必須であると私は考えています。その理由は、正課外活動で学生が様々な力を培っているからでもあります。しかしそれだけではなく、第一に、青年期の学生にはその意欲や学びのスタイルが少しのきっかけで短期間に大きく変動するという特徴、また、他人に干渉したくないという現代学生の気質、がみられるからです。第二に、立命館大学に学ぶ学生の特徴である多様性を、個々の学生の学びと成長につなげたいと思うからです。

私はかつて60人強の学生を一回生から四回生まで継続的にヒアリング調査をしたことがあります。また、現在策定している新中期計画に資するために、四回生の学生にこれまでの大学生活を振りかえってもらうヒアリングを行いました。そこで見えてきたことは、入学時には高い意欲をもっていた学生も、後から振りかえれば、あるいはまわりから見れば「些細な」きっかけによって意欲を失ってしまったり、逆に、少しのきっかけで意欲が急上昇していく姿でした。意欲が急上昇する契機には様々なものがあるのですが、多くの学生が語ってくれたのは他人からの刺激によるものでした。先輩、同学年の友人、後輩、専門的志向をもっている者についてはその道のプロ、地域の人々、等等。正課の中でこれらの刺激を受けることもありえますが、圧倒的に多数は、正課外活動の中で受けたものでした。そのような人を「見た」だけでは効果はありません。「係わる」ことが必要です。ところが現代学生は、他人に干渉しない干渉されたくないという気質をもっていますので、「係わる」ことを避けようとしています。正課外活動の中において、係わらざるを得なくなることが重要であると思うのです。

多様な人々に係わることができる点で立命館大学は他の大学にない利点を有しています。第一に、学生の出身地が多様です。関西圏出身者は全体の半分にすぎず、全国から学生が集まっていることが、関西私学の中で際立っていると同時に、全国的にも有数の比率になっています。第二に、国際学生の多さもあげられます。立命館アジア太平洋大学ほどの比率ではありません。



学生部長・法学部教授 佐藤敬二

んが、1000人を超える国際学生が正規学生として学んでいますし、短期の学生としてまた多数の国際学生が学んでいます。第三に、得意とする領域の多様な学生が学んでいることです。多様な入試形態を採用することで、それぞれに得意な領域をもった学生が集まってきています。その他にも、年齢層、経歴、志向など、様々な面での多様性をあげることができます。この多様な学生たちが相互に影響しあうという面において十分な効果を挙げているとは言いづらいのも実情です。正課における工夫も必要ですが、正課外活動に期待されることは大きいと思っていますのです。

正課外活動を通じて培う力

正課と正課外活動の両方を通じて、学生は学び成長していきます。正課においても、従来は正課外活動で行っていたような訓練や自主的学びを組み込むことが増えていますし、正課外活動



においても正課に連動した内容であることもありますので、両者はボーダーレスです。しかしあえて、昔ながらの講義形式の正課と、組織的にもしっかりとして

自主的活動を行っている正課外活動を比較した場合、正課外活動を通じてこそ培うことのできる力をいくつか指摘することができます。

第一に、それが自主的活動であることから、企画力、行動力、応用力、積極性、といった力が培われます。正課の場合には、教員主導で学生は受身になりがちです。教員は教育のプロですから教育効果があがるように企画されたものが提示されるため、学生はそれにしたがって学んでいれば力がつくこととなります。それに対して、正課外活動では自らが企画していくこととなります。多くの学生にとっては初めての経験でもあり、容易

ではありませんが、人間として、あるいは社会にでてから必須の能力を身に付けることができるのです。

第二に、組織的活動であることから、組織性、精神面での成長(耐性、自己肯定感)といった力が培われます。自ら組織活動を行うことは、楽なことではなく、とりわけ人間関係において多くの困難に遭遇します。大学に進学する目的として友達を作りたいと答える学生が増えていますが、通常の友達つきあいだけだと、お互いに嫌なことは避けて通るということも多くみられます。とりわけ、社会に出てからはこのような関係が多くなります。しかし、正課外活動においては人間関係と格闘せざるをえず、ここで得られるものは学生期にだからこそその貴重なものであると思います。

第三に、倫理性、社会性(対人関係や調整力)を得ることができます。学生はこれまで「子ども」としての位置にいましたが、大学では、そして正課外活動を進めるにあたっては、自立した人間であることが求められます。ここから倫理性、社会性を獲得することができるのです。

大学による支援の考え方

このような正課外活動を促進することは、学生の学びと成長を果たすことを目的としている大学の重要な役割です。立命館学園が策定に向けて議論を続けている新中期計画においては、立命館大学では次のような考え方で正課外活動を支援しようとしています。

全学生を対象とし、学生による自主的・集団的取り組みを支援することを基本とし、大学は参加できる仕組みの可視化や施設も含めた条件整備に力をそそぎ、成長を学生自身が認識し評価できる仕組みを整える、という視点で支援していきます。その上で、全学生が何らかの正課外活動に取り組むこと、社会への発信と連携を促進して地域交流と連携・国際交流と連携が盛んとなる状況をつくること、団体の活動水準の高度化とそれを通じた社会の発展に貢献すること、をめざしています。父母の皆様からも、積極的にご援助をいただけますようお願いいたします。

Beyond/Borde

正課・正課外を超えて成長する学生たち



[びわこ・くさつキャンパス]

青木洋士さん (情報理工学部4年生)

所属 情報理工学部プロジェクト団体ロボカップ部門 Ri-one^{*1} 所属 (開発担当) / プログラミングコンテスト部門 RiPro^{*2} 所属 (2年生で部門長)、3年生で団体長を経験

進路 大学院進学を希望



プログラミングの面白さを体験したことが学部選択の契機に

高校時代、物理部に所属していました。友人に誘われて「パソコン甲子園」に出ようと思い、独学でプログラミングを学び、全国大会に出場しました。結果は惨敗でしたが、プログラミングの面白さに魅かれ、大学で専門的に勉強したいと思いました。

Ri-one、RiPro との出会いと経験

新入生オリエンテーションの時、プロジェクト団体の存在を知りました。自分のやりたいことにマッチしていたので、即入部を決めました。Ri-oneは、世界大会にも出場する実績を持っていて、とても魅力的に感じました。2年生になって、RiProの代表、Ri-oneの開発担当を経験しました。Ri-oneは、世界大会連続出場がかかっていたため、プレッシャーは大きかったです。途中、部の運営について部員同士で意見の食い違いがあり、部員がやめてしまうという事態になりましたが、残ったメンバーで力をあわせて世界大会に出場することができました。RiProとの両立も大変でしたが、力をつけることができたと思います。

団体長として組織をまとめる貴重な経験

3年生になり、プロジェクト団体の団体長に選出されました。団体長になって、組織全体をまとめる責任、自分たちがチームを率いていく、という自覚をもって行動することの大変さと重要性がわかりました。また、プログラミングに興味を持って始めた活動でしたが、チームワークが最も大事だということを実感しました。例えば、Ri-oneが世界大会に出場するには、開発、英語での学術論文作成、

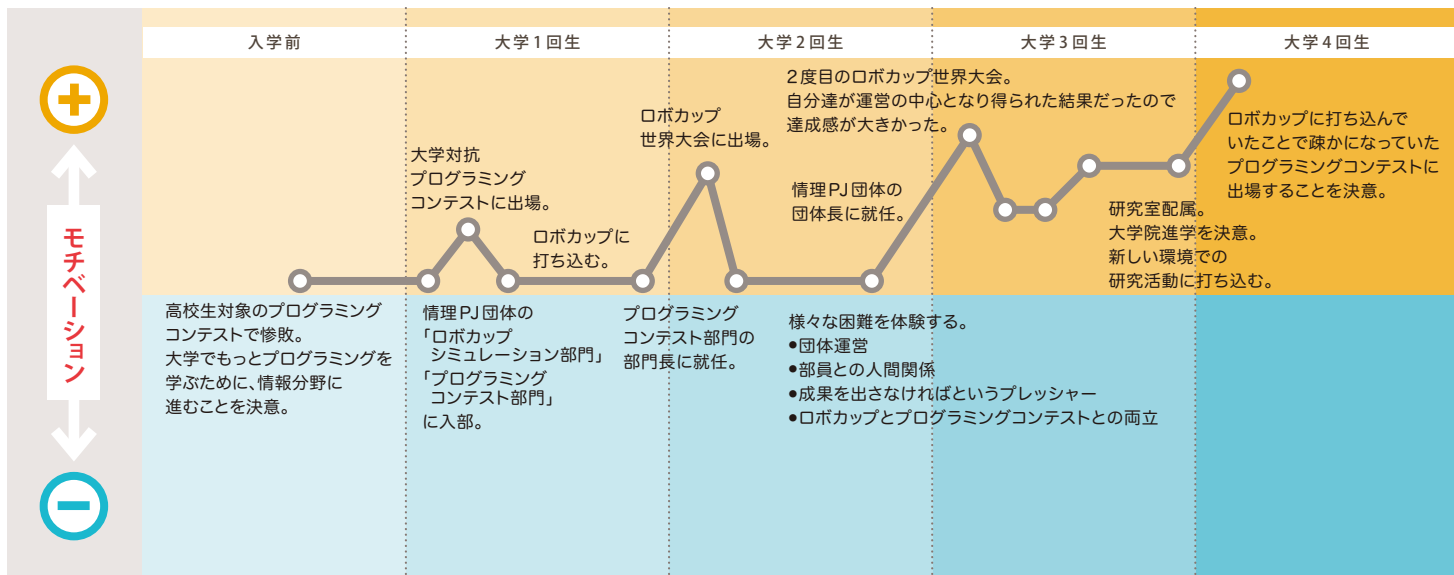
大会出場のための環境整備などいくつかの課題があります。それらの課題に皆で取り組まなければ良い結果は出せません。私は、団体長・上回生として、皆で協力できる体制を作るために尽力しました。高校の部活動では、気のあう仲間と楽しく活動していましたが、大学のプロジェクト団体の活動は違いました。考え方の異なるチームメイトと意見交換してものごとを決めていく経験、他のメンバーの意見を尊重する姿勢などを学びました。チーム内で意見が食い違い何度も壁にぶつかりましたが、その度に、話し合い、目標を確認しながら活動したことが最も成長につながったと思います。

正課で理論を学び、プロジェクト団体で実践

プロジェクト団体の活動での活動は、正課での学習にとっても刺激となっています。正課では理論を学び、プロジェクト活動で実践を積むことができました。プロジェクト団体のメンバーは、実験の授業や研究室(4年生の卒業研究)でもリーダーシップを発揮しています。今後は、大学院に進学して、情報理論を研究して、研究職を目指したいと考えています。将来のことを考えたときにも、プロジェクト団体の活動で培った経験が活きると思い、後輩にもそのことを伝えていきます。

***1 Ri-one:** ロボカップ世界大会優勝を目標に活動。現在、ロボカップシミュレーションリーグのサッカーとレスキューの2リーグに参加。

***2 RiPro:** プログラミングコンテストで上位入賞を目標に活動。新入生にプログラミング言語講習会を実施。



本学では、クラブ・サークル活動、学部の授業とも関連した分野でのプロジェクト活動など正課外活動がさかんに行われています。今回は、正課外活動への参加を通して学生が成長していく姿をご紹介します。



[衣笠キャンパス]

山田歩美さん(文学部4回生)

所属 英語研究会(ESS) 2009年度副部長

進路 民間企業から内定



ESSで広がった視野

ESSへの入部のきっかけは、留学生との交流ができるサークルで、外国人への苦手意識を払拭したいと思ったからでした。大人数の部員や留学生との交流経験や活動から、これまでにないほど人間関係・行動範囲が広がりました。

自分への挑戦

1回生のときは、留学生との交流があっても何を話したらいいのかわからず、そんな自分に嫌気がさしていました。2回生になる際に、与えられている機会を生かして自分の苦手を克服しようと、留学生と友達になることを目標にしました。言葉の違いだけに捉われないで態度も合わせて意思疎通を図ることを目指しました。もともと引っこみじあんで、それまでの自分では考えられなかった行動でした。全く話そうともしなかった1回生のころを思うと、自分なりに工夫をして苦手を一つ飛び越えることができた大きな時期だったと思います。

部員一人ひとりの部への関わりを中心に考えた運営

3回生で副委員長になりました。特に意識したのは、入部した部員への配慮でした。責任者を務めた勧誘活動では、ただ人数を追うだけの勧誘ではなく「新入生の立場にたった勧誘」を目指しました。部員みんなが同じ気持ちで勧誘ができるようにマニュアル作りもしました。また、入ってくれた部員の団結力がつくような企画を考え実行しました。現在も後輩たちが、サークルの将来を考えて活動を行ってくれています。自分が心がけたことが、後輩たちに影響を与えていると思うと、とてもうれしく思います。

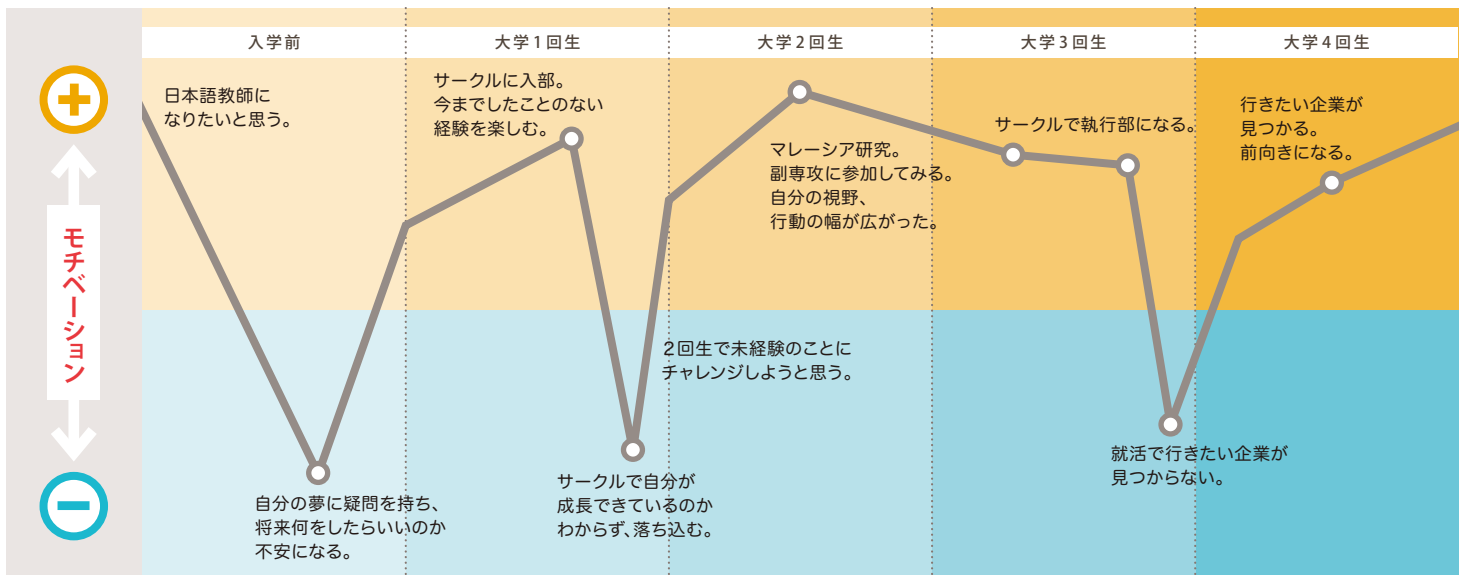
正課と課外活動の両方で実感した成長

正課では、シェークスピアのハムレットの研究をしています。ハムレットでは、なぜなかなか復讐を果たさないのかという心の動き・葛藤を考え分析していく過程に面白さを感じました。

ESSの活動では、集団で何かをしていく、議論をして一つの答えを出すということで、身についたもの多と感じています。執行部として活動し、会議で問題点・課題を抽出し、それを解決していく力、議論する力が身につきました。また、様々な取り組みに参加して自分に対して自信を持てるようになりました。正課とクラブ活動の両方が自己成長につながっていると思います。

就職活動を通して感じた大学生生活の重要性

就職活動をはじめた頃は、先が見えず不安でした。しかし、自分が経験した3年間に後悔はなかったので、諦めずにその都度、今までの行動を冷静に分析することを繰り返しました。サークルでの自分の役割や成長を振り返ることで、自分自身を知ることができ、その結果出会った「自分に合う」と感じる企業に内定を頂けました。就職活動は大学生生活の集大成だと感じ、自分が何を学び、成長できているのかを、大学生生活中に意識することが大切だと思いました。現在は残りの大学生生活を使って、さらに自分を高められるような経験に挑戦しています。このような姿勢や行動力がついた背景には、サークルの活動を通して出会った人たちの言葉や姿勢が大きく影響していると思います。



データに見る 学生実態

今回は日本学生支援機構奨学金（以下、「奨学金」と記述）を受給して2010年3月に卒業された皆さんからいただいたアンケート（満期者アンケート）の集計結果について、その一部をご紹介します。

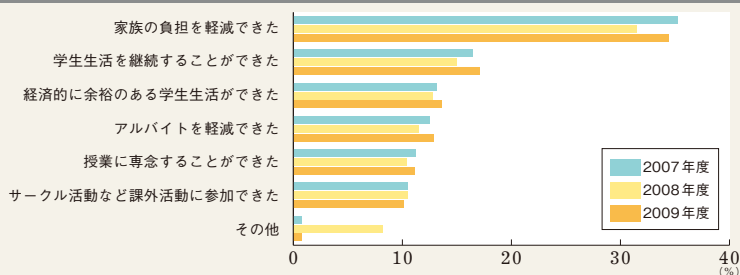
実施時期：2009年12月
対象人数：2,867人
回答人数：2,753人
回答率：96%

DATA 01

奨学金の役立ち度

回答で一番多かったのは「家族の負担軽減」(34.4%)で、例年3割を超える回答となっています。2番目に多いのは「学生生活を継続することができた」で17.1%の回答でした。その他の回答を見ても、奨学金が学生生活を送る上で、非常に有効だったことがうかがえます。

奨学金はどのような点で役立ったか（複数回答可）

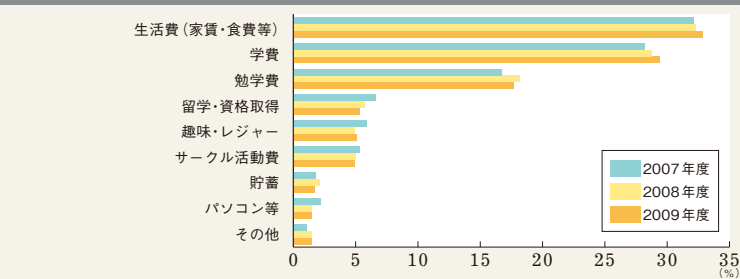


DATA 02

奨学金の使途

回答で一番多かったのは、「生活費（家賃・食費等）」(32.9%)、次に多かったのは「学費」29.4%で、この構図は経年的に見ても変わっていません。3番目に多かった回答「勉強費」17.7%を合わせると80%になります。

奨学金を何に使いましたか（主なもの2つ）



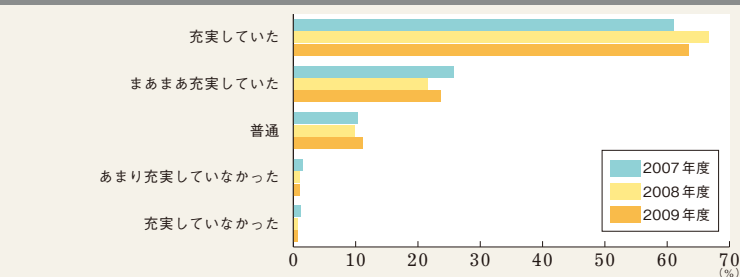
DATA 03

奨学金での学生生活の充実度

奨学金受給者が卒業するにあたり、奨学金を受給したことによって学生生活が充実していたかどうかをきいてみました。

「充実していた」「まあまあ充実」が87.1%で、例年非常に高い満足度となっています。

あなたの学生生活は充実していましたか

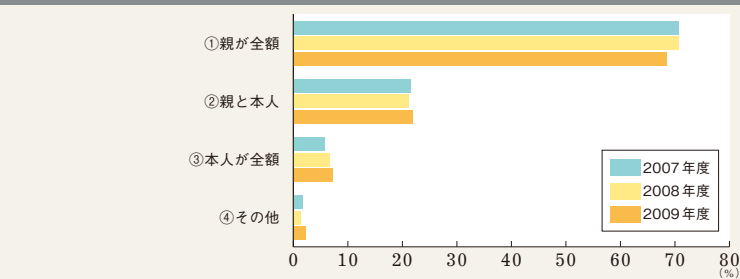


DATA 04

学費の負担者

「親が全額」が68.5%で、若干ですが減少しました。一方で、「本人が全額」が徐々に増加しています。

学費負担

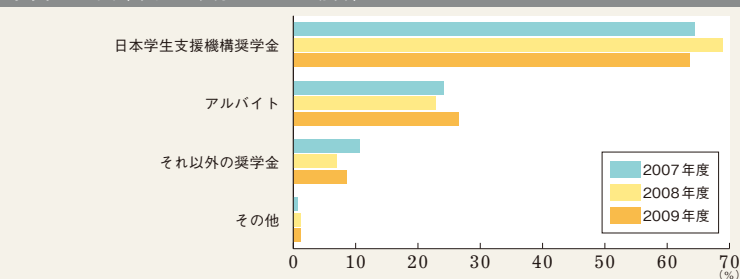


DATA 05

学費の工面

学生本人が学費の全額あるいは一部を負担している場合の収入源は「日本学生支援機構奨学金」が63.6%と圧倒的に多くなっていますが、経年で見ると減少傾向にあります。一方で「アルバイト」が増加しています。

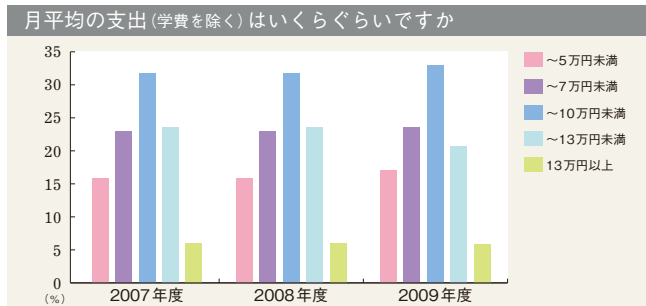
学費の工面（本人の負担がある場合）



DATA 06

自宅外通学者の生活費支出(月額)

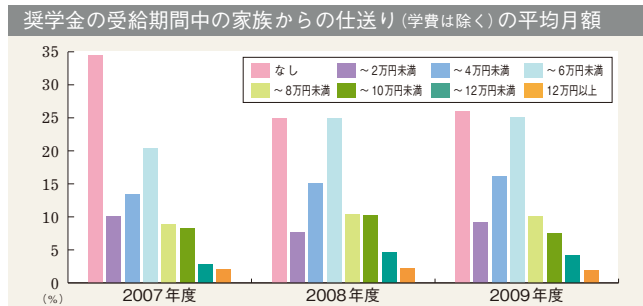
最も回答が多かったのは7万円～10万円未満で、32.9%となっています。平均値もその間にあります。2009年度学生生活実態調査(立命館大学生協)では平均が約12万円となっていることから、奨学生は支出を抑制する傾向にあると思われます。



DATA 07

自宅外通学者の親からの仕送り月額

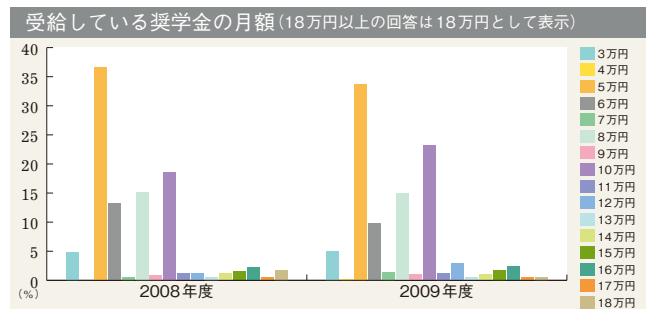
2万円以上～8万円未満の間に平均値があります。2009年度学生生活実態調査(立命館大学生協)では平均が7万円台になっており、仕送り額についても奨学生の場合は少なくなっています。「仕送りなし」が26%となっており、以下の「8.受給月額」や「9.アルバイト」との関連が考えられます。



DATA 08

奨学金受給月額

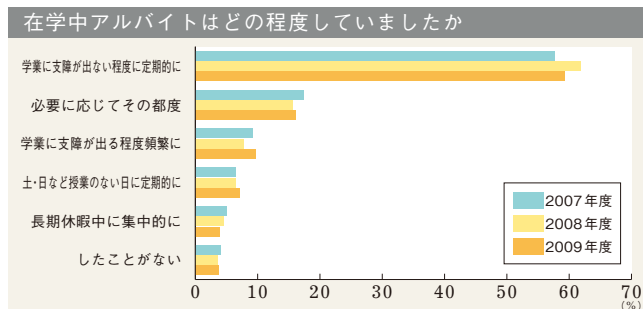
奨学金月額5万円が33.7%で最も多くなっています。月額10万円以上を受給している者が3割以上(34.2%)で、前年比5.4%増となっています。



DATA 09

アルバイトの程度

「学業に支障のない範囲」が約6割(59.3%)となっています。一方で、約1割(9.7%)が「学業に支障が出る」ことを認識しつづけていました。



アンケートに寄せられた声

- 大学在学中、奨学金をありがとうございました。奨学金があったからこそ、バイト代と奨学金のみで4年間生計を立てることができました。お金の困ることが、そこまでなかったのが、勉強にも打ち込み本当に充実した4年間を過ごすことができました。これからも多くの苦学生の強い味方として門戸を広くし助けになってほしいと思います。(文学部・女)
- 奨学金制度のおかげで充実した学生生活が送れました。本当にありがとうございました。(政策科学部・男)
- 奨学金制度がなければ、大学生活を送ることはできませんでした。感謝しています。無利子貸与の枠をもう少し増やしてほしいです。(経済学部・男)
- 私は奨学金がなければ、進学はできませんでした。本当にありがとうございました。充実した4年間でした。ただ、奨学金を無利子で貸し出した方がより多くの人に学ぶ機会が増えると思いました。(経営学部・女)
- 4年間、奨学金を貸与していただけたことで、学業に専念することができ、親への負担を軽減することができました。(理工学部・男)

奨学金を受給してきた学生たちは、総じて奨学金を効率よく活用しており、奨学金を中心に学生生活を組み立てていることをうかがい知ることができました。

「奨学金の使途」について、いろいろと話題になることがあります。このアンケート結果で見る限り、学生たちは奨学金をその趣旨に合致した使途で活用していることがわかります。また、勉強とアルバイトを含む学生生活において、大きくアルバイトに依存することもなく、バランス良く学生生活に必要な収入を得ることによって、親の負担を軽減しながら学業や課外活動などにがんばっている姿が浮かび上がってきました。この学生たちの卒業後の活躍を心から応援したいものです。

奨学金の充実を

日本学生支援機構奨学金(旧日本育英会奨学金)は国の奨学事業であり、公的な制度のなかでは最も採用数が多く、貸与月額も高いことから経済援助として大きな役割を果たしています。種類は第一種奨学金(無利子)と第二種奨学金(有利子)があり、本学ではほぼ3人に1人がこの奨学金を受給しています。

残念ながら2010年度の日本学生支援機構奨学金(第2種)の内示数(日本学生支援機構への大学からの奨学生推薦可能数)は大幅に減少しました。日本学生支援機構の説明によると、予約採用(高校時代に予約して大学入学後に採用)の予算を大幅に増やしたことによる、とのこと。それは、大学を目指す高校生には励みになるという点においては大事なことですが、昨今の景気不況のあおりを受けている在学生にとっては大変厳しいものです。アンケート結果に見たように、これほど学生生活に役立っている奨学金の更なる充実を求めて、日本学生支援機構や関係方面への働きかけを行っていききたいと思います。

(学生オフィス)

衣笠
キャンパス

徳川ゼミ(法学部)

徳川ゼミ 法学部 徳川信治教授 ゼミテーマ: 国際社会における法的諸問題

徳川ゼミのテーマは「国際社会における法的諸問題」。このゼミでは、実際に起こった事件を対象にして、原告、被告、裁判官に分かれて模擬裁判形式でゼミを進め、活発な論争が繰り広げられています。徳川教授にインタビューし、ゼミ取材しました。

ゼミ紹介

ディベートから培うコミュニケーション力

法学部 3回生 袴田健紘 さん



一球 入魂。徳川ゼミを一言で表現するとすれば、このことばがもっとも相応しいのではないのでしょうか。週に一度開かれる国際法ディベートはとにかくアツク、ディベートの材料となるレジュメをゼミ以外の時間を活用して作成し、いざプレイボール。ゼミ生4名で構成されているチームが、大学の教室というフィールドで鎬を削って日々、

切磋琢磨しています。議論をまとめる者、積極的に発言する者、資料を読み込む者など、それぞれが自分の役割を自覚しながら、全員野球でディベートが行われる教室は熱気に包まれます。

白熱する議論をまとめる監督は、徳川先生。学生からは「熱血インテリ」と呼ばれる名将です。厳しさの一方で、時には優しく、学生が積極的に学ぶ姿勢に全力で応えてくれることに加え、ディベートでは白熱する議論にひとつの道

筋を示してくれる先生です。授業外でも、学生生活の悩みや就職相談など、気さくに学生目線で相談に乗ってくださいます。

観客として、3回生のディベートを観戦している4回生も強力な味方。既に一年間、徳川ゼミで学ばれた先輩として、いつも助言や指摘をしてくれます。ディベートの準備で行き詰まった時に、そっとアドバイスしてくれる頼もしい存在でもあります。このように、徳川ゼミはゼミ生・先輩・先生が全員でスクラムを組んで、国際法という学問を学んでいく、温かいゼミなのです。

ディベートは言葉のキャッチボールだと思います。いかに相手である聞き手に自分の主張を伝えるか。そして相手がそれをきちんと受け取って、どれだけその主張に反論することができるか。徳川ゼミでは、言葉のキャッチボールを通して、一步一步コミュニケーション力を身につけています。ゼミで培ったコミュニケーション力を、12月の関西国際法ゼミディベート大会でぜひ発揮したいです。そして、卒業後はそのコミュニケーション力を使って、仕事に挑んでいきたい。職場というフィールドに舞台を移して。

Schedule <予定>

3回生

2010.4	国際法概論の講義 思考トレーニング
2010.5	模擬裁判スタート
2010.夏	ゼミ旅行(沖縄) ゼミ合宿
2010.11	3回生レポート構想報告
2010.12	関西国際法ゼミディベート大会
2011.1	3回生レポート提出



徳川教授はゼミ生が学ぶ姿勢を全力でサポートしている



模擬裁判形式で国際法ディベートを繰り広げるゼミ生たち



グループで作戦を立て、論争のポイントを探る

Interview

人権の国際的な保障が及ぼす国内法への影響

私の研究テーマは「人権の国際的保障とその国内法への影響」です。中でも、現在は「ヨーロッパの人権保障」を中心に研究しています。今、ヨーロッパでは人権保障に関する裁判の仕組みが大きな転換期を迎えています。その流れが及ぼす国内法への影響を追究しています。

ヨーロッパでは47カ国が「ヨーロッパ人権条約」に加盟しています。その下に「ヨーロッパ人権裁判所」があるのですが、これは各国の最高裁判所の判決に不服であれば、個人が直接申し立てできる機関です。この人権裁判所によって、各国の域を超えた「ヨーロッパのスタンダードな人権基準」が作り上げられています。

一方で、そういった動きが「各国国内法にどういった影響を与えるのか」「その判決はどのように執行されていくのか」といったことが問題視されています。さらに、訴えが多すぎて人権裁判所が対応し切れていないのも実情です。年間の申し立て数はおよそ4万件にもものぼるのですが、この裁判所には47人の裁判官しかいません。すべてを解決するのは物理的に無理な状態で、こうした仕組みそのものの変化が求められています。私はこの枠組みの動向について研究しています。

ヨーロッパの統合のカギを握る「人権」

また、この人権裁判所の動向は、ヨーロッパの統合にも大きく影響します。ヨーロッパでは今、EU(ヨーロッパ連合)が、政治的にもヨーロッパの統合を強化しようという流れになっていますよね。2009年12月に発効された「リスボン条約」の策定では「人権に関する項目の適用」が問題になりました。ヨーロッパにおいて「人権」がこれからどのような役割を果たしていくかは、今後の重要な課題なのです。これは、ヨーロッパでは多くの研究者が扱うテーマなのですが、日本ではあまりスポットが当てられてきませんでした。

こうした「人権」問題の法実状を話しますと多くの学生が関心を示します。それでは「アジアの人権保障」はどうか、と。こういっ

Profile

徳川信治 (とくがわ しんじ)

法学部教授

1990年立命館大学法学部卒業、1995年立命館大学大学院法学研究科博士後期課程を修了。法学博士。(財)世界人権問題研究センター研究員を経て1996年に本学へ。研究分野は「国際人権法」「国際法」。趣味は早朝の散歩と、妻が点てる茶を味わうこと。所属学会は国際法学会、世界法学会、民主主義科学者協会法律部会、国際経済法学会、国際人権法学会。



た関心が、法曹、大学院進学や外交官など国際分野への就職といった進路につながっていくこともあります。

“鬼ゼミ”で化けるゼミ生

ゼミは、学生の能動性を養うために、グループ編成や模擬裁判で扱う事件・運営も彼らに決定を委ねています。私のゼミは“鬼ゼミ”と称されており、ゼミの時間外での学習作業が要求されます。ゼミ発表の前などは遅くまで、学内のラウンジで資料作成や裁判の作戦ミーティングを行っている姿を目にします。本当に彼らは忙しいと思います。そのため、ゼミの時間はリラックスして模擬裁判にチャレンジできる環境にしようと努めています。

しかし、この厳しい学習環境の中で、1年も経てば、全員が驚くほど成長します。いや、“化ける”といった方が正解かもしれません。彼らはグループワークによって切磋琢磨し、知識やディベート力を身に付けています。こうした集団活動の中で成長していくという経験は就職活動の自信にもつながっていると思います。

ゼミでは、法的思考や論理的思考能力を身につけることに加え、人とのつながりを意識してほしいですね。書くこと、訴えること、聞くこと、討論することは、いずれも人とのつながりがないと成り立たないのです。ゼミ生一人ひとりが集団の中でどう成長していくのか、とても楽しみです。

Student's Voice

役割の幅を広げたい

法学部 3回生 古川悠太 さん



このゼミを通じて「グループの中で自分がどのような役割を果たすべきか」「どうすればその役割を上手くこなせるのか」を頻りに考えるようになりました。ゼミには積極的な人、落ち着いた人、国際法の知識が深い人もそうでない人もいますが、その中で、それぞれの長所を活かすことが、より良い学びの環境づくりにつながると感じます。ゼミでは随時グループ分けを行い、時には積極的でないメンバーが集まって議論が進まないこともありますが、そんな時は、それまでのグループで上手くまとめ役をこなしていた人を参考にしながら、自分が苦手とする役割にも挑戦するなど、単に知識を得るだけでなく、自分の役割の幅を広げることも意識しています。

Student's Voice

仲間を信頼し、難題を乗り越える

法学部 3回生 中西由貴 さん(右)
檜水里沙 さん(左)



私たちは過去の判例を用いて模擬裁判をしています。自分のグループの主張をどのようにまとめ、組み立てるか、またそれをどのように裁判官に伝えるかが、難しいところです。初めは事件を理解することや論点を見つけることさえ、ままならない状態でした。しかし、先生や先輩に助けられ、どうにか乗り越えてきました。グループワークは個々の予定が合わないことや、意見の相違など、たくさんの問題が生じます。しかし一人では何もできません。グループワークだからこそその難しさはありますが、仲間を信頼し、協力して取り組むことで、乗り越えられることがたくさんあります。これからもっと仲間との信頼関係を深め、ゼミ活動を楽しんでいきたいです。

編集
後記

模擬裁判形式で運営される徳川ゼミでは、原告と被告のグループにそれぞれ分かれて論争が展開されている。「自分が集団でどのような役割を果たしたのかを実体験する場にしてほしい」と徳川教授は言う。教授の座右の銘は、出身の広島市立舟入高校の校訓でもある「己に徹して人のために生きよう」。ゼミでは、ゼミ生一人ひとりの職分の全うが求められる。

山田ゼミ 経済学部 山田彌教授 ゼミテーマ: サービス経済の研究

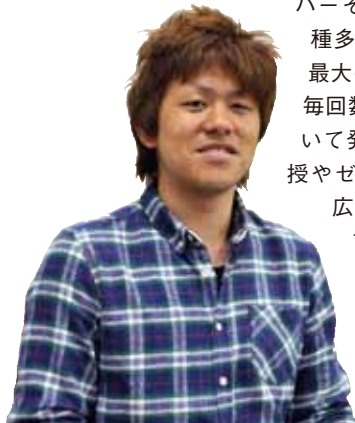
山田ゼミのテーマは「サービス経済の研究」。ゼミ生たちは、観光やレジャー、医療・福祉など、広くサービス経済化に関連する問題について様々に研究しています。山田教授のお話をうかがい、ゼミ取材しました。

ゼミ紹介

「サービス経済」について多種多様に研究

経済学部 3回生 辻和也さん

山田ゼミでは「サービス経済の研究」をテーマに研究しています。人数は28人です。2回生では3~5人のグループに分かれて研究し、3回生になると個別に取り組みます。このゼミでは広い範囲のテーマ設定が可能で、ゼミメンバーそれぞれ取り組むテーマは多種多様です。これが、山田ゼミの最大の特徴です。ゼミの進め方は、毎回数人が自分の研究テーマについて発表し、それを受けて山田教授やゼミ生同士の質疑応答が繰り返される、といった流れで行われています。山田教授は細かい部分まで優しく、時には厳しく指摘してくださり、私たちはその的確なアドバイ



スから、あらためて研究方法や、その方向性について詰め直しています。また、各自が研究しているテーマは、12月に行われる経済学部のゼミナール大会で発表することも刺激になっており、全員が真剣に取り組んでいます。

山田ゼミは、ゼミ生同士の仲が良く、定期的な飲み会や、夏休みや冬休みのゼミ旅行など、非常に楽しくゼミが運営されていると思います。山田教授は明るく、私たちが主催する飲み会にもよく参加してくださいます。教授のその話しやすい人柄もあってか、ゼミの雰囲気はとても良く、ゼミ生もほとんど休むことはありません。

これからは、各自が経済学部のゼミナール大会で良い成績を残せるよう研究に励み、時にはイベントを開いて、よりまとまりのあるゼミにしていきたいと思っています。そのためにも勉強と遊びのメリハリはつけていきたいと思っています。



優しく、時には厳しく指摘する山田教授



個性的な研究テーマに挑戦するゼミ生たち



発表後は真剣な意見交換が繰り返される



Schedule <予定>

3回生

2010.4	3回生論文のテーマ選定と発表、および作成
2010.7	中間発表 ゼミ合宿
2010.12	論文完成 ゼミナール大会
2011.1	論文発表

Interview

サービス大国への変身がカギ

私は主に統計学の観点からサービス経済について研究しています。先進諸国と同様に日本経済もサービスの進展が著しいことはご周知の通りで、就業者やGDPで見ると、第3次産業が日本経済の7割を占めるようになりました。私たちの暮らしや地域経済もサービス化の流れの中にあり、国際的にもサービス分野が中心になりつつあります。英米などの斜陽工業大国はいずれも輸出型サービス産業の発展に基づくサービス大国へと変身することでサバイバルに成功してきました。工業大国日本もまた、変身に成功してサービス大国として再生していく必要があります。

サービスとモノづくりが高度に一体化する時代

輸出型サービス産業の国際競争力の基盤は、高度な知的、および技術的基礎に基づいた高付加価値型の経済力であって、このような分野はまさに先進経済諸国間の経済競争の主戦場でもあります。製造業とサービス業が双発のエンジンとなって発展することが日本の生き残る唯一の道といっても過言ではないでしょう。

いま、先進国のモノづくりにとって、「いいモノを安く」で競争する時代は終わり、いかに革新的な製品・サービスを開発・提供できるかが勝負になっています。任天堂の「Wii」やアップル社の「iPod」などがその典型です。製品の斬新な使い方、あるいは新しいコンセプトが重要で、サービスとモノづくりの高度な一体化が求められる時代なのです。

これまでは日本人だけの閉じられたシステムが工業国家日本の成功のカギでさえあったかもしれません。しかし「国境なき経済」が開発される現代、サービス大国への道ではそうはいかない。世界中のヒト、モノ、カネ、情報を引きつける開放的で自由な魅力ある国、社会、そして企業にしていくことが必須になるでしょう。ゼミでは、サービス業や製造業などで活躍する人材育成に力を入れています。

議論から広がる研究の幅

私は37年間、本学で教員として勤めており、学生には立命館の歴史について話すこともあります。時代ごとの危機に直面する中で、それを乗り越え、発展している本学は、私のゼミでは格好の題材です。企業の生き残りにもやはり革新が重要です。現状維持の発想では、維持すらできないでしょう。世界的にみても設立時からずっと同じ業種だけで成り立っている企業がほとんどみられないことから分かるように、時代の流れに応じた斬新な対応が必要なのです。

私のゼミでは、産業政策や技術政策などの制度のあり方、観光やレジャー、教育、医療・福祉、情報といった様々なサービス産業について、さらにサービス化と雇用問題など、サービス経済に関連する問題について、ゼミ生が自由に研究しています。フィールドワークも盛んで、比較的身近な問題を扱うため、研究意欲にもつながっていると思います。その一方で、議論では物足りなさを感じます。議論によって研究の幅が広がるのですから、ゼミ生にはもっと突っ込んだ意見交換を期待したいですね。

Profile

山田 彌 (やまだひろし)

経済学部教授

1967年神戸商科大学商経学部管理科学科卒業。1972年神戸大学大学院経済学研究科経済学博士課程修了。研究分野は経済統計学、計量経済モデル分析、産業連関分析、労働生産性、産業連関モデル、大学、地域、産業連関、近畿圏、計量モデル、国際リンク。環太平洋産業連関分析学会、日本経済学会に所属。1998年から3年間、本学経済学部長を務める。生活信条は「縁を大切に」。



Student's Voice

自分が調べたいことを思い切って研究

経済学部 3回生 松尾栄祐 さん



2回生時に山田教授のご指導のもと、「立命館大学が草津市に誘致されたことによる経済波及効果」というテーマについてグループ研究しました。山田教授からの多くの助言や専門的視点からの鋭いご指摘を受けながら、メンバーで役割を分担、協力して研究を進めた結果、ゼミナール大会で賞を受賞することもできました。山田ゼミはアットホームで、よい環境だと思います。また、経済の中のサービス部門という幅広い分野を研究するゼミなので、個々人の研究テーマにある程度の自由度があり、自分が調べたいことを思い切って研究しています。

Student's Voice

楽しみながらもやる時はやる!

経済学部 3回生 近藤綾香 さん



山田ゼミは「楽しみながらもやる時はやる!」という姿勢を持った、メリハリのあるゼミだと思います。ゼミでは一人ひとりが興味のあるサービス産業の分野から研究テーマを決めています。そのため、それぞれに個性があり、自分の研究テーマ以外の発表でも興味深く、とても勉強になります。また、山田教授のご指摘やご質問は研究の大切なエッセンスとなります。発表する際に質問やアドバイスをしあうなど、同じゼミ仲間同士だからこそこの学びが、ここにあるのだなと思っています。

編集
後記

縁を大切にする山田教授の趣味は「研究室で学生と駄弁(だべ)ること」。人生相談も頻繁だ。そんな学生との距離が近い教授のもとには、歴代のゼミ生から毎年、約250通の年賀状が届いている。そして、結婚式の招待も多いという。これらはすべて「ゼミの“アフターサービス”の効果です」。サービス経済の研究者らしく、こう例えて笑った。

施設 紹介



衣笠キャンパス

図書館



Navigator

松本梨沙さん
文学部 3 回生

図書館の開館時間は、開講期平日 8 時 30 分～22 時、土日 10 時～17 時。人文科学系、社会科学系の資料のほか、文庫や新書も所蔵しています。座席数は約 1900 席、グループ閲覧室や MMR (マルチメディアルーム) もあり、資料の閲覧のほか、学習・教育・研究に幅広く活用されています。

将 来は司書を目指しています。ライブラリストアッフになったのは、司書になる上で勉強になるということはもちろん、何より本が大好きだからです。スタッフとしてだけでなく、時間があればここへ来て、本を読んだり、レポート作成や調べものをしたりしています。学術関係の資料が充実していることはもちろん、小説や実用書、絵本もあります。必要な本を探したい時は、検索ルームへぜひ来てください。また「今月の特集」として、私たちライブラ

リストアッフが 11 冊のお勧め本を紹介するポスターを掲示しているので、それもチェックしてほしいですね。

友達と一緒に勉強するなら、グループ閲覧室がお勧めです。3人以上で申請すれば、誰でも利用することができるので、活用してほしいです。

私は宮沢賢治が好きで、ゼミでも研究対象にしているので、彼に関する本をよく手に取ります。3回生になって就職活動が目の前に迫ってきてからは、「進路・就職コーナー」にもよく行くよう

になりました。ここと「読楽コーナー」の二つは、父母教育後援会からのご支援で設置されたものです。父母の皆さんに改めて感謝いたします！

あと、ぜひ活用してほしいのが、AVルームです。CNNを視聴できるほか、映画やドキュメンタリーなどのDVD・ビデオを観ることができます。また新聞コーナーも人気があります。日本の新聞だけでなく、世界各国の新聞が読めるので、一人暮らしをしている学生や留学生でいつも賑わっています。

分からないことがあったら、気軽に声をかけてくださいね！

国内外の新聞が 20 種類以上。そのほか、新着のグラフ誌なども読むことができます。

グループ閲覧室は、資料を手に、皆で話し合いながら勉強するのに最適。でも女子が集まれば、話はついつい脱線気味!?





ひわこ・くさつキャンパス

ユニオンスクエア

- ▶ カフェテリア
- ▶ フードコート



Navigator

奥野修平さん
経営学部 3 年生

ユニオンスクエアカフェテリアの営業時間*は、平日の10時30分～21時30分、フードコートは平日の8時15分～17時。BKCの食堂の中でも多様なメニューが揃います。また200円台から食べられる朝食、留学生などの要望に応える「ハラル・エスニック食」、体育会各クラブの体力強化のための特別メニュー「アスリート食」もあります。

*カフェテリアは土曜日にも営業しています。

平 日の夜8時。ここユニオンスクエアの2階は、我がアメリカンフットボール部やラグビー部、バスケットボール部など体育会系クラブの選手たちであふれます。目当ては、「アスリート食」。栄養士さんが毎回、栄養のバランスを考えた献立を作成してくれるので、一人暮らしをしている選手には特にありがたいですね。なにせ体重100kg級の選手の体力づくりを支えるのですから、ご飯の量も半端ではありません！白米以外に、玄米ごはんをチョイスする選手も多いで

すね。一食当たり2000～3000kcalもある食事が、みるみる減っていくところは、もう圧巻です！

もちろん朝から夜まで一般の学生でも賑わっています。遅くまで、研究やサークル活動をしている学生も重宝しているようです。昼食にもよく利用します。量り売り(1.2円/g)の「おぼんざいパー」や、20種類以上ある小鉢(60円～)などおかずが充実しているから、栄養のバランスも取りやすいんです。とはいえやっぱり手が伸びるのは、ガッツリ食べられるどんぶり。お気に入

りは、豚塩カルビ丼(Mサイズ367円)。マヨネーズをかけて、ガツとかき込む瞬間が、最高です！僕らはあまり食べないけれど、フルーツやスイーツ、ベーカリーエリア(8時15分～17時)もあって、デザートやおやつに利用する学生は多いです。とにかくメニューが豊富。時期によっては「企画もの」も登場します。「九州・沖縄フェア」では、サターアンダギーも並んでいました。

この学食でパワーをもらって、今シーズンは絶対日本一を勝ち取ります！



マネージャーとして、
選手をサポートしています！

体を大きくするために、食べることもトレーニングのうち。納豆と卵でどんぶり飯一杯は余裕！?

デザート代わりは、大好きなこれ！
フライドポテトです。



2010

父母教育後援会総会

春のオープンカレッジ、ホームカミングデーの前日にあたる6月5日(土)、

「2010年度立命館大学父母教育後援会総会」がグランドプリンスホテル京都で開催されました。大学選出役員、父母委員合わせて125名が出席。

昨年度の事業・決算報告と、本年度の選出役員や事業計画・予算案が報告され、承認を得ました。

また春日井文学部教授による「記念講演会」、さらに懇親会も実施されました。



■ 総会記念講演会



春日井敏之文学部教授が、「大学での学び、生活と自己形成—認めるというかかわり方」と題して、青年期の若者の特徴を明らかにしながら、大学での学びと生活、親子のかかわり方等について講演されました。まず大学では、「人間との関係」「自然との関係」「文化との関係」等からエネルギーをもらいながら、正課や課外を超えて幅広く学んでほしいと語り、こうしたつながりが実感できれば、仲間と一緒にがんばったり、必要な

時には孤独に耐えて一人ががんばることもできると強調されました。

次に、大学生、青年期の発達課題を「自己形成と社会参加」と規定し、「大学での学びと経験を生かし、身近な人々とながら、社会・世界の課題と向き合っていくといった『志の形成』、社会で働くための職業意識・能力・人間形成といった『キャリアの形成』、他者とかかわり、市民として生きるための『シチズンシップの形成』を大切にしてほしい」と説かれました。

一方で、現代の若者が感じている「生きづらさ」にも触れて、一つには厳しい社会的・経済的な環境によって努力が報われにくくなっていること、二つには同じような悩みや葛藤を抱えているながら、共有できずに孤立感を深めていることが根底にあると解説。

乳児期から青年期に至る発達過程に言及し、「思春期・青年期は、揺れるからこそ、折れずに凌ぐことができる」と語られました。

最後に「わが子が生まれた時、誕生そのものが喜びであり、親はエネルギーをもらったはず。それをわが子に返していくことが子育てではないでしょうか」として、「過度の期待をかけず、わが子が苦戦しているときほど、一生懸命やっているのですから、味方として、信じて認めて見守ってほしい」と結ばれました。



■ 総会・懇親会



記念講演会の後、父母教育後援会総会が行われました。冒頭に父母教育後援会名誉会長を務める川口清史立命館総長・立命館大学長が登壇。学園の現状を報告すると

もに、それを支えてくださるご父母の皆さまへ深い感謝の意を表しました。

大学選出役員が紹介されたのについて、各議題について報告されました。公務のために欠席された千宗室父母教育後援会会長に代わって2010年度副会長候補の今西清裕委員が司会を担い、進行しました。

父母教育後援会幹事長の石井秀則教学部長が2009年度の事業、決算報告、今年度の事業計画と予算案などについて報告し、すべての議題の承認を得ました。次いで2010

年度新たに選出された都道府県委員が紹介されました。総会後には、懇親会が開催され、今年度の父母教育後援会事業を円滑にすすめるために父母委員と大学選出役員が懇親を深めました。



■ 2010年度 大学選出役員

(敬称略)

役職	学園役職	新任	氏名	役職	学園役職	新任	氏名
名誉会長	総長・学長		川口 清史	顧問	生命科学部長		谷口 吉弘
副会長	副総長・副学長		上田 寛		薬学部長		北 泰行
	副総長・副学長	○	飯田 健夫		スポーツ健康科学部長	○	田畑 泉
顧問	理事長		長田 豊臣	幹事長	教学部長		石井 秀則
	教学担当常務理事		中村 正	幹事	教学部副部長	○	池田 伸
	学生担当常務理事		國廣 敏文		学生部副部長		白石 晴樹
	総務担当常務理事		森島 朋三		キャリアセンター副部長		高山 茂
	法学部長		二宮 周平		図書館副館長	○	高倉 秀行
	経済学部長	○	松原 豊彦		国際部副部長	○	中川 優子
	経営学部長		齋藤 雅通		教学部次長(衣笠担当)		徳永 寿老
	産業社会学部長		佐藤 春吉		教学部次長(BKC担当)		本村 廣司
	国際関係学部長		板木 雅彦		学生部次長		北田 正知
	政策科学部長		本田 豊		キャリアセンター次長		浅野 昭人
	映像学部長		大森 康宏		図書館次長		武山 精志
	文学部長	○	桂島 宣弘		国際部事務部長		相根 誠
	理工学部長		坂根 政男		社会連携部長	○	縄本 敏
	情報理工学部長		大久保英嗣				

■ 2010年度 父母教育後援会役員一覧

(敬称略)

役職	都道府県	新任	氏名	役職	都道府県	新任	氏名	役職	都道府県	新任	氏名
会長	京都府		千 宗室	委員	東京都		松野 真弓	委員	岡山県	○	赤木 周一
副会長	京都府		今西 清裕			永井 勇			市川 昭		
監事	滋賀県		桑原 淳子		神奈川県		小川 恭子		広島県		坂田 睦子
	京都府		馬場 慶子		○	近藤 肇			内海奈美江		
常任委員	滋賀県	○	小林 浩子		山梨県	○	望月 雅樹		山口県		西丸 隆
		○	高橋 和雄			鈴木 徳明			○	江藤 龍夫	
	京都府	○	石原 純子		栃木県		中里 光江		香川県	○	松下 俊一
		○	野村 一雄		○	横松 盛人				田邊 昌寛	
	大阪府		日浦 良夫		群馬県	○	岩井 泉		徳島県		西野 陽一
		○	船引 玲子			鹿沼 玉代				逢坂 伸司	
	兵庫県		太田 勝之		長野県	○	勝野 恒彦		高知県	○	江渕 美佐
		○	水野 敏行			北林 芳枝			○	里見 律	
	奈良県	○	西田 裕紀		新潟県		坂井 信博		愛媛県		越智由香里
		○	熊木 尚子			皆川 卓夫			○	寺谷 瑞枝	
	北海道		長江 千恵		富山県	○	上田 晋介		福岡県		石津 博睦
		○	工藤久美子			吉井 哲三				花田 泰典	
青森県	○	村上真理子	石川県			喜多 仁嗣	佐賀県		○	天本 豊	
	○	福土 雅巳			半座磨利子				諸岡 讓		
岩手県		佐々木 稔	福井県	○	田中 保雄	長崎県		木下健一郎			
	○	平井 孝典		川口 恭央			川原 直勝				
秋田県	○	幸坂 金光	岐阜県	○	松田 慶子	熊本県		荒木 通			
		根田 明樹	○	中野 浩之			坂本 省一				
山形県	○	伊藤 顕治	静岡県		寺尾 立	大分県	○	賀未慎一郎			
		横山 敏子		深田 真紀			豊村 浩子				
宮城県		大宮 邦枝	愛知県		花井 義一	宮崎県		湯浅まき子			
		小山 順子	○	隅田 洋一			元日田 勉				
福島県	○	小林美紀子	三重県		小村 寿郎	鹿児島県		濱田 時久			
		星 俊光		中西 清司			卷木 春男				
茨城県		井坂 正典	和歌山県	○	辻 美和	沖縄県		仲里 雅之			
	○	深谷 正史		三木 貴行			島 貞夫				
千葉県	○	黒川 忍	鳥取県		赤坂 葉子						
		中牟田満子		池淵 建夫							
埼玉県		沼田 好晴	島根県		小村 健実						
	○	三ヶ島佐恵子		寺本 稔							

■ 2009年度 決算

収入の部	(単位:円)	
項目	予算額	決算額
経常収入	361,140,000	363,874,192
会費収入	360,000,000	362,970,000
過年度会費収入	0	
卒業生父母資料費収入	250,000	284,000
預金利息収入	250,000	75,144
基金積立金利息収入	150,000	55,048
有価証券利息収入	490,000	490,000
雑収入		
前年度繰越金	82,575,947	82,575,947
収入の部 合計(A)	443,715,947	446,450,139

支出の部	(単位:円)	
項目	予算額	決算額
I. 事業費支出	342,000,000	321,693,991
1. 懇談会開催事業支出	94,360,000	107,563,270
2. 学生教育支援事業支出	194,850,000	162,508,492
3. 会報・学園案内広報事業支出	23,190,000	23,636,235
4. その他事業支出	29,600,000	27,985,994
II. 管理費支出	39,700,000	33,697,243
III. 予備費支出	35,015,947	
IV. 父母教育後援会基金積立金繰入支出		
当期支出合計(I+II+III+IV) (B)	416,715,947	355,391,234
次年度繰越金 (A) - (B)	27,000,000	91,058,905

■ 2009年度 事業報告

(1) 懇談会事業

- 1 総会**
5月16日(土)リーガロイヤルホテル京都にて開催。全国47都道府県から93名の父母委員に加えて、大学選出役員など総勢123名が参加した。
- 2 春のオープンカレッジ**
5月17日(日)衣笠・BKCの両キャンパスにて開催。「学生生活講演会」、「進路・就職講演会」、「留学説明会」、「スキルアップ説明会」、「就職相談会」、「大学院進学説明会」、「キャンパス見学会」を実施。両キャンパス合わせて2,361名が参加した。
- 3 都道府県父母教育懇談会**
5月31日(日)～7月26日(日)全国47都道府県49会場で開催。全会場で5,663名の父母が参加した。全国的に参加者の増加傾向はあるものの、従来、他の地域に比べて低い傾向のあった近畿圏での参加者が急増した。

- 4 秋のオープンカレッジ**
11月21日(土)衣笠・BKCの両キャンパスにて開催。午前「学生生活講演会」、「進路・就職講演会」、「アカデミック講演会」を、午後「学部別懇談会」を実施。両キャンパス合わせて2,168名が参加した。
- 5 アカデミック京都ウォッチング**
11月22日(日)京都歴史回廊協議会特選コース1コース、本学教員と京都の歴史・文化・街を訪ねるコース9コース、学生ガイドと巡るコース3コースの計13コース520名の規模で実施した。父母からは440組804名の参加申し込みがあった。

(2) 学生教育支援事業

- 1 正課等教育支援**
 - ①サブゼミアワー活動支援:各学部基礎演習・専門演習等でのフィールドワーク、サブゼミアワーを利用した初年時に必要なスキルアップのための講座取組み、1回生小集団の成果発表の場である報告会・大会等の実施に支援した。
 - ②表彰制度支援:各学部・インスティテュートにおいて正課等で顕著な実績をあげた学生796名を表彰した。
 - ③入学式典開催支援:入学式において、学生団体の活動等に対して支援した。
- 2 課外活動支援**
 - ①全学行事支援:応援グッズの作成や、地方でおこなわれる試合等へ応援バスを配車するなど、学生への応援事業や学園祭等の全学行事に支援した。
 - ②シャトルバス支援:BKC-衣笠キャンパス間のシャトルバスの乗車料補助を行った。
- 3 進路就職支援**
 - ①就職活動支援:キャリアフォーラムの実施(全国11会場)、SPI模擬試験受験料補助、PLACEMENT GUIDEの作成、父母キャリアデザインブックの作成、スチューデント・ネットワークの構築(JACA懇談会の開催)に支援した。

- ②資格試験等図書支援:進路・就職関係および資格取得資料図書、低回生からの社会観・労働観を涵養する図書、一般教養や読む力を育成する図書の購入に支援した。
- 4 国際交流支援**
 - ①留学生支援:留学生の国民健康保険料の補助において、232名から申請があり支援した。
 - ②国際交流支援:国際交流バスツアーなど日本人学生と留学生との交流事業や、留学アドバイザーによる留学支援事業などに支援した。
- 5 奨学金支援**
 - ①修学援助奨学金支援:学費負担者の死亡により修学することが困難なものへの援助において、年間30名の出願があり、有資格者30名全員を採用した。
 - ②家計急変奨学金支援:学費負担者の病気・解雇・倒産等により家計が急変し、修学が困難なものへの援助において、年間247名の出願があり、有資格者101名を採用した。

(3) 広報・通信事業

- 1 父母教育後援会だより(会報)の発行**
父母会だより「夏号」を2009年8月に、「冬号」を2010年2月にそれぞれ33,000部発行した。
- 2 ホームページのリニューアル**
2009年4月にホームページのリニューアルを実施した。大学や学生生活のタイムリーな話題の提供や進路・就職等、父母の関心の高い情報を提供できるコンテンツを作成し、ホームページの充実をはかった。

- 3 立命館大学父母教育後援会「入会のおしり」の配付**
父母会員全員に送付し、父母教育後援会の概要、年間を通しての事業、各種問い合わせ先等を紹介した。
- 4 キャンパスカレンダーの配付**
父母教育後援会作成の「キャンパスカレンダー」を父母会員全員に送付して、学年暦、学校行事などのキャンパス情報の共有をはかった。

(4) その他

- 1 成績表の送付**
5月に2～4回生、10月に1回生にそれぞれ成績通知表を送付した。
- 2 入学記念品の作成・贈呈**
入学記念品として、「キャンパスカレンダー」を作成し、新入生全員に贈呈した。

- 3 卒業記念品の作成・贈呈**
卒業記念品として、アクアローテーションクロック(置時計)を作成し、卒業生全員に贈呈した。

■ 2010年度 予算

収入の部

(単位:円)

項目	10年予算額	説明
経常収入	360,595,000	
会費収入	360,000,000	(年会費@ 10,000円、入会金@ 5,000円)
過年度会費収入	0	
卒業生父母資料費収入	280,000	卒業生父母の会
預金利息収入	80,000	
基金積立金利息収入	60,000	
有価証券利息収入	175,000	学園債権利息をもとに計上
雑収入		
前年度繰越金	91,058,905	
収入の部 合計(A)	451,653,905	

支出の部

(単位:円)

項目	09年度決算額	10年予算額
I. 事業費支出	321,693,991	357,420,000
1. 懇談会開催事業支出	107,563,270	108,375,000
2. 学生教育支援事業支出	162,508,492	195,800,000
3. 会報・学園案内広報事業支出	23,636,235	23,645,000
4. その他事業支出	27,985,994	29,600,000
II. 管理費支出	33,697,243	39,700,000
III. 予備費支出		35,000,000
IV. 父母教育後援会基金積立金繰入支出		
当期支出合計(I+II+III+IV) (B)	355,391,234	432,120,000
次年度繰越金 (A)-(B)	91,058,905	19,533,905

■ 2010年度 事業計画

(1) 懇談会事業

1 総会

6月5日(土) グランドプリンスホテル京都
対象: 父母教育後援会役員

2 春のオープンカレッジ

6月6日(日) 衣笠・BKC両キャンパスで開催
概要: 各種講演会・説明会を実施
対象: 父母教育後援会会員

3 都道府県父母教育懇談会

5月30日(日)～7月19日(月)
各都道府県49会場で開催(愛知および大阪は文社系と理系で別日程で開催)
概要: 全体会・グループ別懇談会を実施
対象: 父母教育後援会会員

4 秋のオープンカレッジ・委員懇談会

11月20日(土) 衣笠・BKC両キャンパスで開催
概要: 午前各種講演会、午後学部別懇談会を実施
対象: 父母教育後援会会員

5 アカデミック京都ウォッチング

11月21日(日)
対象: 父母教育後援会会員・卒業生父母の会会員

(2) 学生教育支援事業

1 正課等教育支援

①サブゼミナール: 『学びのコミュニティ』の創造に向けて』に対して支援する。
②表彰制度支援事業: 正課等において、優れた成果をおさめた取組みを対象とした表彰制度に支援する。
③入学式典開催支援事業: 2010年度入学式典の開催に支援する。

2 課外活動支援

全学的な文化・スポーツに対する応援(応援グッズ、応援バス、応援学生派遣等)、父母や市民の共感を得られる行事や学園祭などの全学行事、キャンパス間シャトルバスの運行や乗車料補助等に支援する。

3 進路就職支援

就職活動事業に対する支援および、進路・就職関係、資格取得の資料、低回生からの社会観・労働観を涵養する資料、一般教養や読む力を育成する資料の購入等の図書購入事業に支援する。

4 国際交流支援

①留学生支援事業: 国民健康保険料の補助をする。
②国際交流支援事業: バスツアー・交流企画(日帰り、宿泊、学内外企画)に支援する。
留学アドバイザーによる海外留学支援活動に支援する。

5 奨学金支援

家計支持者の死亡により修学を維持することが経済的に困難な学生の学費等を援助することを目的とした「修学援助奨学金制度」および家計急変により修学を継続することが経済的に困難となった学生の学費・生活費を援助することを目的とした「家計急変奨学金制度」等の奨学金事業に支援する。

(3) 広報・通信事業

広報・通信事業は、会報紙面の内容の充実、ホームページコンテンツの充実をはかる。

1 父母教育後援会だより(会報)の発行(年2回)

2 ホームページの充実

3 立命館大学父母教育後援会「入会のしおり」の配付

4 キャンパスカレンダーの配付

(4) 特別事業

1 立命館大学が主催する2010年度ホームカミングデーへの共催

学園創始140周年、学園創立110周年、APU創立10周年となる記念の年(2010年度)に、本学として初めてホームカミングデーを実施する。父母教育後援会では、春のオープンカレッジを同日に開催し、学生との交流や校友とのふれあいを通じて父母に「立命館」の理解を深める機会を提供する。

[日 時] 6月6日(日) 10:00～17:30

[場 所] 衣笠・BKC両キャンパス

[主 催] 立命館大学

2 「父母委員地域ブロック懇談会」(仮称)の試行的実施

父母教育後援会として更なる事業の充実をはかるためには、各地域の会員の意見をスムーズに吸い上げる仕組みとなる「父母委員地域ブロック懇談会」(仮称)を試行的に実施する。

開催(案)

地域ブロック	開催地	地域ブロック	開催地
北海道・東北ブロック	仙台市	中国ブロック	岡山市
九州・沖縄ブロック	福岡市	関東・甲信越ブロック	東京都
東海・北陸ブロック	名古屋市	四国ブロック	高松市

兵庫県 父母教育懇談会

5月30日(日)、神戸ポートピアホテルで、父母教育懇談会が開催されました。さわやかな五月晴れとなったこの日、300名以上の父母が出席。お子さまの学生生活と立命館大学への高い関心と期待の表れた懇談会となりました。

全体会

太田勝之兵庫県父母委員の司会で、全体会は進められました。立命館大学放送局(RBC)の学生が制作したVTRの中で、川口清史立命館総長・立命館大学長がメッセージを述べ、「本学は、国内有数の総合大学としてさまざまな学生を多様な分野・領域に輩出する使命を担っています。これからも学生の主体的参加をうながす教育を推進していきます」と、抱負を語りました。



大学代表あいさつ

池田 伸 教学部副部長・経営学部教授があいさつに立ち、まず立命館大学への高い関心と理解を示して下さるご父母の方々に感謝の意を表しました。「父母教育後援会事業の中では、特に『表彰制度』を大変ありがたく思っております。ご支援そのものはもちろん、表彰されることへの誇りが、学生の日々の学びの励みになっています」と述べました。また「本日は、ご父母の方々と直接お会いし、お声を聞ける貴重な機会です。大学へのご質問、ご要望をぜひうかがいたい」と、語られました。



来賓ごあいさつ

続いて辻 寛 兵庫県校友会会長が来賓を代表してごあいさつに登壇。今日の母校の隆盛に驚きと喜びを感じていることが語られました。立命館の発展の理由として「立命館の教学環境の充実、進取性、学際的な研究」「優秀な学生」そして、「卒業生の活躍」を挙げ、「立命館大学で意欲を持って学んでいるなら、この厳しい折の就職も、きっと大丈夫です」と、若い後輩に向けて励ましの言葉が送られました。



「兵庫県でも現在、1万8000名もの卒業生が多様な分野で活躍しています。年1回の校友の集いは、異年齢・異分野の校友の交流の場になっています。お子さまの卒業後には、ぜひ参加していただきたいと願っています」と締めくくられました。

父母教育後援会事業計画の報告

水野敏行兵庫県父母委員が、父母教育後援会の今年度の事業計画について報告しました。

就職状況報告

浅野昭人キャリアセンター次長から、最新の就職状況が報告されました。「従業員1000人以上の企業の採用が昨年の63.6%から53.5%に下がるなど、今年度も厳しい状況に変わりはありません。それでも全国平均と比較すると、本学の落ち込みは少ない方です」と、本学生の健闘ぶりを評価しました。その理由の一つとして、キャリアセンターの実態把握力の高さが挙げられました。学生の進路の把握率は、98.7%と、大規模大学としては異例の高さを誇ります。それだけ求人との高いマッチング、適切な支援ができることが示されました。また多様な学生が主体的に学び合う立命館の教学の仕組みとその結果が企業から高く評価されていることも説明。「就職活動は、学生生活の流れの一つです。



すなわち学生生活の充実こそが就活成功のポイントです」と語られました。さらに今年4月末時点での本学への求人数は、前年に比べて111.4%とむしろ増えていること、また内定時期が6月~12月と長期化していることも明かして、「まだ採用を得ていない学生も決してあきらめずに継続してほしい」と訴えました。

履修・学生生活説明

佐野芳尚教務課職員から、1年間の学びの流れや時間割、学生生活、留学制度やエクステンションセンターの活用法などについて説明されました。特にご父母にとっては理解しづらい単位や成績通知表の読みとり方について、詳細が伝えられました。



グループ別懇談会

昼食をはさんで午後からは、グループ別懇談会が行われました。文社系グループ3つと理系グループ1つの計4つに分かれ、それぞれ教員やキャリアセンター職員、就職を決めた学生が説明にあたりました。留学の必要性や就職への不安などご父母から出されたさまざまな質問に答えました。



就職活動体験談



国際関係学部 4回生 **中村朱希さん**

就職について考え始めたのは、3回生になって間もない頃。5月～8月は企業説明会やインターシップに参加し、実際の企業を見て理解を深めました。進路を民間企業に定めたのは、9月頃でしょうか。それからはWEB上で約150社にプレエントリーし、セミナーに参加。WEBで登録やセミナーへの予約など、常に情報を収集しなければならず、「就職活動は情報戦だな」と感じました。実際にエントリーしたのは、14社です。エントリーシートには、学生時代に自分が頑張ったことについて、その時何を考え、どのように行動し、そしていかに成長したかを明確に書くよう心がけました。

大変だったのは、スケジュールと体調の管理です。一日のうちに京都、大阪、東京へと移動することもしばしばで、心身ともに疲れ果てました。そんな時、友達やキャリアオフィスのスタッフに相談したり、課外活動でリフレッシュするなど、一人で抱え込まないようにしたことで、乗り切ることができました。



理工学研究科 博士課程前期課程 2回生 **石田勝通さん**

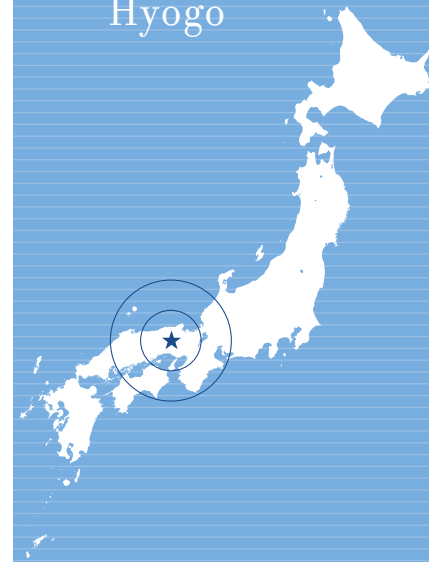
就職活動を始めたのは、今年の1月から。他の学生に比べると遅かったと思います。学会発表や研究に忙しく、就職活動だけに注力できなかった分、大学内で開催されるセミナーには積極的に参加しました。研究開発職志望だったため、面接では、研究室での役割や研究内容についても深く尋ねられました。論理的、かつ分かりやすく説明するのに、学会などで論文発表した経験が役立ちました。

面接試験が始まった当初は、いくつかの企業で不採用が相次ぎ、落ち込みました。そこで作成した自己PRを改めて見直すことからやり直しました。研究室のメンバーやキャリアセンターの職員の方など他の人にも読んでもらい、客観的に評価してもらったことが良かったです。その後は、面接でも好感触を得られるようになり、内定を得ることができました。私自身はアルバイトと奨学金を得て、自力で学ぶ環境をつくってきました。その自立心が企業からも評価されたのだと思います。

Social gathering

in

Hyogo



■お集まりいただきました父母の方々の声

Parents' Voice

宗さんご夫妻
産業社会学部 2回生



昨年も参加しました。毎回学生さんのお話には感銘を受けます。4年間を見すえながら学生生活を送ることが大切なのだと、子どもにも言って聞かせるつもりです。子どもは留学を考えている様子。本人がやりたいことを応援してあげたいと思っています。大学にも、今後とも学生が挑戦したいことに存分に取り組める環境を整えてほしいと期待しています。

Parents' Voice

中村さんご夫妻
経済学部 2回生



厳しいといわれる就職状況が心配で、参加しました。就職活動は、友達や先生、キャリアオフィスの職員の方々など多くの人と一緒に取り組む「団体戦」とお聞きしたことが心強かったです。子どもは、ゼミで鍋をしたりと、学生生活を楽しんでいるようです。人づきあいも勉強の一つ。さまざまな地域から来ている学生と友達になり、社会で役立つ力を育ててほしいと願っています。



長野県

都道府県
父母教育
懇談会

6月20日(日)、長野県松本市で都道府県父母教育懇談会が開かれました。松本城のほど近く、情緒豊かな古都での開催。80名近いご父母に県下からお集まりいただき、アットホームな雰囲気にあふれた会となりました。

全体会

北林芳枝長野県父母委員が進行役を務め、全体会が始まりました。冒頭で立命館大学を紹介するVTRを上映。学生生活の様子が映し出されるとともに、川口清史立命館総長・立命館大学長がご父母の方々にメッセージを送りました。「主体性を持って学ぶ学生を応援する仕組みの充実ぶりは全国有数です。お子さまの挑戦を応援してあげてください」と述べられました。



大学代表あいさつ

最初に上田 寛副総長が大学を代表してあいさつし、7700名近くに及ぶ新1回生を含めた学生が、衣笠キャンパス、BKCで元気に活動していることを伝えました。大学の活気背景には、立命館大学が正課だけでなく、課外自主活動も応援していることが挙げられます。「野球、アメリカンフットボール、陸上、囲碁、将棋など全国でも指折りの成績を残すクラブが数多くあります。それは本学が、学生の多様な能力を伸ばす総合的な教育を推進しているからです」と説明されました。またキャリアサポートの充実にもふれ、「頑張る学生を支える仕組みがあります。学生、ご父母の皆さまに『立命館を選んで良かった』と言っていただけるよう今後も一層の充実を図っていくつもりです」と述べられました。



年度の事業計画と予算案が議論され、承認されたことが伝えられました。

就職状況報告

大場茂生社会連携課課長が、ご父母にとっても懸念事項である就職状況について報告しました。中でも、ゼミに所属する学生と、所属しない学生との間に就職決定率に差があることが明かされ、「就職活動は一人でするものではありません。たとえばゼミなどの正課のコミュニティも大切にほしい。友達や教員から励ましやアドバイスを受けることが、力になるはずですよ」と述べられました。また98.7%もの割合で学生の就職状況を把握するなど、キャリアセンターの高い情報収集力とサポート体制に言及。求人数も昨年度比111.4%と回復の兆しが見えていること、長野県においても精密機械工業などを中心に採用状況が好転しつつあると伝えられました。



また企業が学生を判断するポイントとして「大学で何を身につけたか」を挙げ、「正課をベースに課外活動、留学、ボランティア活動など多様な経験が学生を成長させます」と、充実した学生生活を送ることが勧められました。

来賓ごあいさつ

昭和34年に経済学部を卒業された桑原政見長野県校友会会長から、各界で活躍する長野県の校友について語られました。またこの日は、同じ場所で長野県校友会創立30周年を記念した会も催されること。「若手校友の挑戦に期待しています。校友会も可能な限り応援していきたい」と述べ、立命館大学で青春を謳歌する学生の前途の活躍が祈願されました。



履修・学生生活説明

田中麻友産業社会学部事務室職員からは、学生生活について説明されました。1年間の学習の流れや留学や資格取得などのプログラムを解説。また遠方で暮らすお父さまを心配するご父母の声に応じて、保健センターや学生オフィス、サポートルームといった心身に関する相談窓口も紹介されました。



総会・オープンカレッジ報告

勝野恒彦長野県委員より、6月5日に開催された父母教育後援会総会、そして6日のオープンカレッジ、およびホームカミングデーについて報告されました。総会では、2009年度の事業と決算、および2010

グループ別懇談会

午後には、理系学部、文社系学部に分かれてグループ別懇談会が催されました。仕送りやアルバイトの必要性、また病気やけがをした時の大学のサポートについてなど、遠く京都で暮らすお子さまを気遣う質問が相次ぎました。また就職についての質問も多く寄せられました。大学職員だけでなく、参加されたご父母同士が親睦を深める和やかな時間となりました。



就職活動体験談



経済学部 4回生

市瀬未来さん

公認会計士試験を目指しながら、この春2社から内定をいただきました。入学当初、学内のエクステンションセンターで大原簿記専門学校の公認会計士講座を受講できると知って、自分に自信を持つ何かを得たい一心で受講。正課の授業の後、午後9時まで講座を受け、さらに夜11時まで学内に用意された専用の自習室で勉強を続けてきました。

3回生の冬からは、就職活動も始めました。学内でセミナーや筆記試験対策などを開催してもらえるので、会計士の勉強を続けながら就職活動の準備をすることができました。筆記試験、面接と試験が進むにつれて、迷うこともありました。そんな時には、ゼミの先生に相談したり、キャリアオフィスのスタッフの方にアドバイスを求めました。就職活動では、一人で悩まず、さまざまな人に相談しながら進めることが大切だと実感しました。また就職試験は、大阪や東京などで行われます。両親からの金銭的なサポートも心強かったです。



理工学研究科博士課程
前期課程 2回生

田中久弥さん

就職活動を始める前、結果的に内定をいただくことになった企業で、1週間インターンシップを経験しました。研究開発について講義を受けたり、プラントを見学したり、参加した学生とのグループワークもありました。企業の実態を垣間見れたことはもちろん、全国から集まったさまざまな学生と知り合ったことが収穫でした。

就職活動では特に、エントリーシートの作成に力を注ぎました。大切なのは自己を分析し、自分について深く知ること。幼い頃から一つひとつ振り返り、自分がどんな人間か、何が好きか、何に向いているかなどを明らかにしていきました。一つ上の兄が協力してくれたことも大きかったです。4年間、ラグビーサークルに打ち込んだことも糧になっています。また学生時代を学内の小さなコミュニティだけで過ごすのではなく、インターンシップなどに参加し、他の世界の人や年齢の異なる人と触れ合うことも重要だと実感しました。

Social gathering

in

Nagano



■お集まりいただきました父母の方々の声

Parents' Voice

柏木さんご夫妻
経済学部 1回生



今日は、大学について何うことと同時に、父母同士のつながりも得られたらと期待して参加しました。この春入学したばかりの息子は、充実した生活を送っている様子。さまざまなことを経験し、コミュニケーション力や自力で生活を築ける力を培ってほしいと願っています。大学には、大規模大学で子どもの個性が埋もれてしまわないよう、きめ細かい指導をお願いしたいものです。

Parents' Voice

小澤さんご夫妻
文学部 2回生



就職活動はどのように進めるのか、親はどんなサポートをしてやれるのか、知りたくて参加しました。今日は学生さんのお話も聞いて、非常に参考になりました。娘は今、オリター活動にやりがいを見出しているようです。その経験を自信にしてもらえたらと思っています。遠く京都で暮らす一人娘を思うと、心配は尽きません。大学としても目を配ってくださればありがたいです。



立命館大学ホームカミングデーが 開催されました



RITSU

6月6日(日)、立命館大学ホームカミングデーが開催されました。

当日は晴天の下、衣笠キャンパスに約7,000名、びわこ・くさつキャンパスに約6,000名が来場。

終日、ご父母、学生、卒業生、一般の方々の賑やかな声であふれました。

各キャンパスでは、学部・学科・研究科による企画や同窓会が実施されたほか、

過去のキャンパスを振り返る展示、「立命館のいま」を伝えるコーナーも設けられました。

また立命館にゆかりのある著名人の講演、各界で活躍する卒業生のステージショーなども行われました。

「京都太秦物語」トークセッション —山田洋次監督・海老瀬はなさん 学生と語る—

以学館では、立命館大学映像学部客員教授でもある山田洋次監督をお招きし、「産官学連携プロジェクト」の一環である最新作『京都太秦物語』について、主演女優や俳優、映画製作に携わった立命館大学の学生たちを交え、トークセッションが行われました。映画への思いや、作品の裏話などが飛び出し、和やかな講演会となりました。

映画作りで大事なのは、 良い人間関係を築く事

幅広い年代の聴講者で満席となった今回の講演会。大きな拍手に包まれながら山田洋次監督、主演の海老瀬はなさん、メインキャストの田中壮太郎さん、立命館大学の古寺綾香さん、縄手佑基さん、川崎隆博さんの6名が登場しました。司会進行は立命館大学法学部の卒業生で、フリーアナウンサーの飛鳥井雅和さんです。

飛鳥井 「商業映画」にこだわられたそうですね。

監督 映画というのは、経済行為であると同時に、娯楽であり芸術です。20世紀に生まれた極めて資本主義的な芸術であり、映画がもともと持っている矛盾であり、同時にそれだからこそ面白いところでもある。作って、宣伝して売る。商品化プロセスまでを勉強して欲しいと考えたんです。

古寺 お客さんの顔を想像して作るということの大切さは、商業映画だからこそ学べたことです。

川崎 現場では、スタッフの方々に厳しく接してもらって、それが逆に嬉しかったです。

監督 僕のスタッフが一つひとつ手を取って教えることから始めたので大変だったはず。でも学ぶ、習う、覚えるというのは大変だけど楽しい。教える側もまた楽しい、そういういい雰囲気だったと思います。



古寺 まず1年半かけて学生たちが店舗のリサーチをしたんです。監督に「面白いのは仕事場の奥」と言われたので、仕事場の奥へ行って掃除をしたり…怒られることもありました。

監督 叱られたり、断られたりを乗り越えて心がほどけていく、そういうプロセスを味わっていただきたいかった。

飛鳥井 本当の商店街の方々が登場していますね。

監督 俳優が一生懸命覚えて豆腐屋さんをやるのと、何十年もやり続けた豆腐の仕事しながらセリフを言うのとでは、自信みたいなものが全然違う。職業を持った人が自分の職場でお芝居をするというのは、可能だと思っています。

飛鳥井 どうやって出演を口説かれたんですか。

古寺 学生がずっとリサーチしていたから「引き受けてあげたい」と思っていたようです。

海老瀬 学生さんたちが時間をかけて商店街の方々と関係を築いて下さったのは大きくて、学生さんたちがいなくなったら、私もあんなに温かく迎えていただけなかったらろうし、仲良くなれなかったと思います。

飛鳥井 それぞれの役割は？

縄手 僕はメイキング担当でした。専門家の方が「映画作りで大事なものは人を見ること」だと仰っていて「起こっている出来事」ではなく、「誰がどんなことをしているのか」が分かるものを撮ろうと心がけました。

川崎 僕は美術部です。セットを作ったり、小道具を用意したり。具体的に「これ」じゃなくて、「(登場人物は)こういう人



だから」とだけ言われて、「これとこれを用意してくれ」と。戸惑うこともありました。

古寺 私は演出部でカチンコを担当していました。スタッフは50人くらいいるんですが、カチンコって全部のところと繋がっているんで、他人のことを考えて行動し、相手の気持ちを考えるという事を一番学びました。

川崎 僕は、人のお陰で自分の仕事が出来ているんだということを常々感じていました。

田中 学生の皆さんは、最初の方と後では、頼もしさが全然違っていったような印象があります。皆さん目がキラキラしていて、こちら心も洗われるような気持ちになりましたね。

監督 映画は集団で作るもの。その集団の中の一人となり、自分と他人との関係、他人同士の関係、その中で自分がどう生きるかを学ぶ。その人間関係が豊かであればあるからこそ、緊密であればあるからこそ、いい映画ができるということ、一番学んで欲しいかった。将来どんな仕事をするにせよ、ここで学んだ人間関係は必ず役に立つはずです。

PICK UP

1



MEIKAN UNIVERSITY HOMECOMING DAY 2010

井上由美子氏 講演&トークセッション

PICK UP

2

立命館大学文学部の卒業生であり、現在、職業をテーマにしたエンターテインメント作品から社会問題を題材にした硬派作品まで、幅広く話題作を手がけられている脚本家・井上由美子さんに、『ドラマティックに生きる』と題し、クリエイターならではの目線で「家族の在り方」「生き方」について語っていただきました。

『自分』という物語を ドラマティックに生きてほしい

立命館大学を卒業後、テレビドラマが大好きだった私は、「ホームドラマを創りたい」という強い思いからテレビ東京に入社しました。営業局の所属となったもののその思いは変わらず、制作の仕事求めて退社し、脚本家としてデビューしたのは1991年のことです。

子ども時代の私にとって、テレビはまさに夢の箱。さまざまな番組が生まれ、テレビがとても元気な時代でした。10歳の頃に2ヵ月ほど入院したのですが、テレビのある娯楽室で、患者の子どもたちとともに膝を寄せ合いながら『8時だよ！全員集合』を観ては、いかりや長介さんの「また来週〜」という言葉に勇気づけられたものです。この“テレビに勇気づけられる”体験が、テレビドラマを書いていくうえでの私の原点になっています。

そんな私がなぜ、「ホームドラマを創りたい」という強い思いを持ち続けてきたか。それは、家

族を描くホームドラマは、すべての人にとって他人事ではないと思うからです。誰もが家族を持ち、家族に癒されたり、家族に悩んだりしながら生きていくと感ずるからです。

かつてテレビが元気だった時代には、ホームドラマの人气が高く、テレビを支える存在でした。人气がなくなってきたのは、ちょうど私が脚本家になった頃からです。初めてトレンドドラマの仕事をしたとき、「トレンドドラマに家族はいらない、トレンドじゃなくなっちゃいますから」と言われ、「日本のテレビの中でホームドラマは死んでしまったんだ」と感じたことを覚えています。

ホームドラマの低迷と時を同じくして、日本人のテレビに対する興味も薄れていきました。その原因は、日本人の心の変化にあるのではないかと私は考えます。というのは、テレビの歴史と家族をめぐる事件を照らし合わせてみたところ、テレビの元気がなくなっていくにしたがって、逆に、家族内の哀しい事件が増えていっていることに気付いたからです。家族の中心が父親ではなくなり、いわゆる「お茶の間」もなくなって、テレビへの興味も薄れたことは、家族の崩壊にもつながっているのではないかと感じています。

そうした中、幸いにも私はホームドラマを書く機会に恵まれ、自分の信念に基づいて仕事を続けていくことができました。最近の作品に、不倫をテーマとした『同窓会〜ラブアゲイン症候群』がありますが、この中で描きたかったのも、実はヒロインたちの家族。視聴者の方からの反



響も家族に対するものが多く、やはり家族は大きな存在であること、そして、ホームドラマが今でも求められていることの証であるように感じました。

そんな私が今後、ホームドラマの中で若者を描くとすれば、それは、ドラマティックに生きる若者です。あらゆる問題を抱える現代社会では、思い切った行動や失敗を恐れる若者が増えていくようですが、あくまでもドラマは、ファーストシーンに登場した主人公が、ラストシーンでどれだけ変化し成長しているかを描くもの。変化を恐れずに行動し、ときには失敗して笑われるような主人公を描きたいと思います。こうした思いは、父母の方々がお子さんに対して抱く思いと通ずるところがあるのではないのでしょうか。

新たな学科を次々と設置するなど、常に進化し続けている立命館大学は、まさにドラマティックな大学です。これまで以上に、生きる力を培える環境を整えてくれることでしょうか。その中で学生たちが、“自分”というドラマの主人公として、自分自身の物語をドラマティックに生きられる人へと育ててくれることを願っています。



PICK UP

藤巻健史氏特別講演

日本の経済界で『伝説のカリスマディーラー』として有名な藤巻健史さんに、自身の成功の軌跡や日本経済の動向を踏まえ、求められる人材像について語っていただきました。

自分で生きる力と グローバルな視点が不可欠

私は大学卒業後、三井信託銀行に入行し、社費留学でMBAを取得してから、モルガン銀行東京支店に転職しました。当時東京市場唯一の外銀日本人支店長を5年間務め、退職した後は、書籍出版、テレビ出演、大学講師など、いろいろな人生を歩んできました。

私がなぜ成功できたのか。その第一の理由は、外銀に身を置いたことです。ディーラーとして勝つためには、売るか、買うか、休むかなんですが、上司はニューヨークにいるため、堂々と休むことができました。さらに、外銀の特徴でもあります



が、一つの商品に特化するのではなく、景気の動向を読み、株、債券、金利商品などの中から今扱うべき商品を判断し選べたことも大きかったと思います。

なぜ外銀に入ったかという、2年間の社費留学で、アメリカ人に対するコンプレックスがなくなったからです。なぜ留学できたかといえば、人と話すのが苦手な性分でありながら、必死で貸付信託の営業をこなしてトップを取り続け、2年に一人だけという留学生に選ばれたからです。さらに遡れば、大学受験、公認会計士試験への挑戦、社費留学と、かなり勉強もいたしました。私が何を信じて仕事をしてきたかと言えば、経済理論なのですが、そういう意味では特に、資格取得には至らなかったものの、公認会計士試験に向けて必死に勉強したことは非常に有益でした。どんなに優秀な人でも、運がなければ成功することは難しいと思いますが、私はその運を、自分で引き寄せたと自負しています。

学生のみなさんも、まずは経済の基礎的な知識を身につけ、自信の基盤となる



ものを築いてほしいと思います。また社会に出れば、さまざまな疑問を感じることもあるかと思いますが、やはり最初は、必死になって働くことが重要だというのが実感です。

現在の日本の財政赤字は、決して楽観視できない状況です。私自身は近い将来、市場がクラッシュして通貨安となり、輸出が伸びていくと予測しています。そんな中で求められるのは、国や企業に頼ることなく生きる力を備え、英語力やグローバルなものを見方を持つ人材。日本の常識は、世界の常識ではありません。仕事や財産を守るうえで判断を誤らないためにも、外国の情報にアクセスして、日本の外からものを見る目を養ってください。

高橋智隆氏 講演 「ロボット時代の創造」

ロボットクリエイターの高橋智隆氏が講演し、驚異の動きを実現した「ロピッド」のデモンストレーションを行いました。

クリエイティブなものづくりで 世界に誇る競争力を

ロボット科学を目指した原点は、子どもの頃に読んだマンガ『鉄腕アトム』。立命館大学産業社会学部卒業後、「ものづくり」への思いが膨らみ、京都大学工学部に再入学しました。京大1回生の時、プラモデルを改造したロボットを初めて完成させて以来、これまでに30種類のロボットを作ってきました。

ロボットはすべて手作り。一人で作るのも、精密な設計図もありません。設計図を描くと、角ばった面白みのないデザインに陥りがちです。私のロボットのごだわりは、「親しみやすさ」「格好良さ・かわいさ」「自然さ」「表現力」。2009年、ル・マンでの24時間耐久走行に成功し、ギネス

ブックに認定された「エボルタ」では、ロボットが体を左右に揺らしながら3輪車を漕ぐ動作を工夫しました。キャラクター性のある動きが見る者に親近感を与え、思わず応援したくなる。そんな風に感情移入できるところが人型ロボットの魅力です。最新作は、完成までに2年半を費やした「ロピッド」。これは、より自然な動作で飛んだり、走ったりでき、呼びかけにも反応する自律型ロボットです。

今、新しいロボットの時代が幕を開けようとしています。将来、人間とコミュニケーションを取り、家中の機械製品をコントロールするインターフェースとなるヒューマノイドロボットが普及するでしょう。日本が世界で競争力を持ち続けるためには、安価な製品を大量生産するのではなく、遊び心のあるクリエイティブな「もの

PICK UP

4

づくり」に徹していく必要があると考えています。そのためにも、今後好奇心旺盛な若い人材が育つことを期待しています。



Parents' Voices

春のオープンカレッジに参加された父母の皆さまにお伺いしました

衣笠

娘のスウェーデン短期留学が決まっています。どんな準備が必要なのか、留学を通してどんなスキルアップができるのかを知りたくて、留学とスキルアップ説明会に参加しました。引っ込み思案な子が自ら決めた留学なので、後押ししたいと思っています。お話を聞いて、留学にはコミュニケーション能力が必要だと痛感。娘にも積極的にいろんなことを体験してほしいと思いました。大学での学びを生かして、卒業後は長く続けられ、誰かの役に立つ仕事に就いてほしいものです。



片山さん
産業社会学部2回生の母

衣笠

4月の入学時以来めっきり連絡が少なくなったので、昨日は娘の顔を見に、今日は他の学生がどんな生活をしているのか知るために参加しました。学生生活講演会で体験談を披露してくれた学生がしっかりしているのに驚きました。娘はまだのんびりしていますが、サークルに参加し、友人もできて楽しく過ごしているようです。授業も遅くまであり、忙しそうですね。大学には良い学問と、社会に出てから困らない社会人を学生に授けていただくよう期待しています。



末永さんご夫妻
文学部1回生の父母

衣笠

息子は映像学部1期生。まだ卒業生がいないので、どんな就職支援をしていたのか、また昔とどれほど就職状況が様変わりしているのか知りたくて参加しました。キャリアオフィスの方の具体的なお話は大変参考になりましたし、特に「就職活動を通して人間的に成長する姿を応援してほしい」と仰っていたのが印象的でした。学生と真剣に向き合い、精神的にもサポートしてくれていると感じました。息子が今後どのように成長していくのか、見守りたいと思います。



四宮さんご夫妻
映像学部4回生の父母

衣笠

娘はまだ1年生ですが、将来弁護士を目指すなら、今のうちからロースクールについて情報収集をする必要があると考え、大学院進学説明会に参加しました。先生のお話や院生の声を聞いて、気になっていた経済的な面についての問題は、本人の努力次第である程度解決できることが分かりました。また大学院生活は、志を高く持たなければ大変だということもリアルに感じることができました。娘にはこれから色んな人と出会い、オールマイティな人間になってほしいです。



三田村さんご夫妻
法学部1回生の父母

BKC

就職活動を終えた長男からのアドバイスもあり、入学当初は4年で卒業して就職すると言っていた次男が、大学院への進学を考えるようになりました。大学院がどういふところなのかを知りたくて参加したのですが、大学院で学ぶ意義なども分かって良かったです。まだ将来のビジョンが明確になっていない次男ですが、ぜひ目的を絞り込んだ上で進学してほしいと感じました。就職活動に際しては、大学から学生に向けて、少しでも多くの情報を提供していただきたいと思っています。



川井さんご夫妻
理工学部3回生の父母

BKC

大学が送ってくださる資料を見て、大学について理解しておきたいと思い立ち、参加しました。留学に関しては漠然としたイメージしかありませんでしたが、学生さんの体験談から具体的な内容を知ることができました。費用など気になる点についても説明を聞いて不安が解消され、とても有意義だったと感じています。大学が充実した環境を提供してくださることを改めて実感した1日でした。息子には、あらゆる仕組みを上手に活用しながら学生生活を送ってほしいと思います。



坂中さんご夫妻
経済学部1回生の父母

BKC

息子が進学も視野に入れていたのですが、大学院ではどんなことを勉強するのか知りたくて、参加しました。大学院進学説明会で話を聞いて、立命館大学の学ぶ環境のすばらしさを改めて感じました。ロボットが好きで、高専からロボティクス学科に転入学した息子。研究室に配属され、勉強や研究にずいぶんがんばっている様子です。進学するにせよ、就職するにせよ、息子が選んだ道を応援してやりたい。大学にはこれからも手厚いサポートを続けていただきたいと思っています。



清水さんご夫妻
理工学部4回生の父母

BKC

今日は留学説明会や学生生活講演会に出席しました。発表した学生さんの話を聞いて、目的を持って課外活動やスキルアップに励んでいる姿に感心しました。子どもが小さかった頃にこうした話を聞いたら、教育も変わったのではないかなと思うほどです。その分これからしっかりサポートしたいと思います。息子にも学業だけでなく、課外活動も充実させてほしい。サークル活動にも熱心に取り組んでいるようなので、そのなかで人とかかわり方を学んでほしいと思っています。



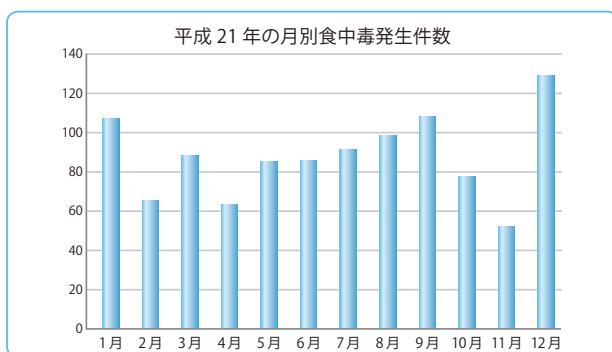
賀来さんご夫妻
理工学部2回生の父母

保健センターから父母の皆様へ

食中毒の予防は一年を通して必要です

1. 食中毒の発生状況

平成21年度には1,048件(20,249人の患者)の食中毒が発生しています。食中毒は一年を通して発生し、意外にも12月がもっとも件数が多いと報告されています。食中毒は梅雨時や夏季の湿度が多い時だけではないのです。件数としてもっとも多い施設(発生場所)は飲食店562件(53.6%)ですが、家庭でも95件(9.1%)発生しています。どうかご家庭における予防対策にご留意ください。



2. 食中毒の予防について

食中毒予防の3原則は「付けない、増やさない、やっつける」と言われています。

家庭でできる食中毒予防の6つのポイント

point 1 食品の購入

寄り道しないでまっすぐ帰ろう

消費期限などの表示をチェック!

肉・魚はそれぞれ分けて包む

point 2 家庭での保存

買ったらずく冷蔵庫へ!

入れるのは7割程度に

冷蔵庫は10℃以下に維持

冷凍庫は-15℃以下に維持

肉・魚は汁がもれないように包んで保存

point 3 下準備

冷凍食品の解凍は冷蔵庫で

タオルやふきんは清潔なものに交換

ゴミはこまめに捨てる

こまめに手を洗う

生肉・魚を切ったら洗って熱湯をかけておく

井戸水を使っていたら水質に注意

生肉・魚は生で食べるものから離す

野菜もよく洗う

包丁などの器具、ふきんは洗って消毒

厚生労働省が推奨する家庭でできる食中毒予防の6つのポイントを図に示します。自炊をしているお子様にご指導ください。

3. 非加熱の肉類は危険です

1,048件の食中毒のうち536件(51%)は細菌性の胃腸炎です。もっとも多い原因はカンピロバクターで、345件(64%)が報告されています。

カンピロバクター食中毒の原因の多くは鳥肉の生食や加熱不十分な鶏料理(鶏の刺身、湯引き等)によって引き起こされています。潜伏期間が1~7日間と長いため、原因が特定されないことも珍しくありません。腹痛・下痢・嘔吐、発熱、倦怠感、頭痛など他の細菌性食中毒と酷似します。

件数は少ないながら、腸管出血性大腸菌(O157)による食中毒は侮ることができません。汚染された牛肉などを加熱不十分な状態で摂食することで発病します。無症状から軽い腹痛や下痢のみで終わるもの、さらには頻回の水様便、激しい腹痛、著しい血便とともに重篤な合併症を起こし、時には死に至るものまで様々ですが、発症した約7%の人が初発症状の数日~2週間以内(多くは5~7日後)に溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などの重症合併症を発症するといわれています。

通常の加熱調理(中心部を75℃以上で1分間以上加熱)を行えばカンピロバクターや腸管出血性大腸菌(O157)などは死滅します。しっかり「やっつけて」から食べるようにしましょう。

4. 冬季に注意すべき食中毒

12月と1月の食中毒事件の約7割はノロウイルスによる急性胃腸炎です。

潜伏期間は24～48時間。主症状は吐き気、嘔吐、下痢、腹痛。発熱は軽度です。感染しても発症しない場合や、軽い風邪のような症状の場合もあります。ノロウイルスは手指や食品(特に二枚貝)などを介して口から感染します。食品の中心温度85℃以上で1分間以上の加熱をすれば、感染した二枚貝であっても問題はないと言われていますので、十分加熱してから食べるようにしてください。

患者の吐物・便などから少量のウイルスでも感染することが分かっているため、吐物・便を処理する際にはマスク・手袋を着用の上で飛び散らさないよう注意してください。塩素系の消毒剤も有効です。手洗いが大切なことは言うまでもありません。

5. 急性腸炎・下痢をしている時の注意

下痢や嘔吐が続くと水分や電解質が失われます。スポーツドリンクを薄めて飲むと有効です。経口摂取が

できない場合は点滴治療が必要です。医師にご相談ください。

炭酸飲料・牛乳などの冷たい飲み物、油料理、繊維質の多い物、刺激物などは症状を悪化させるおそれがあります。消化の良い、温かいものを食べるようにしましょう。

血便が出る場合は速やかに受診してください。

「止痢剤(下痢止め)」は症状を悪化させる恐れがあるため、安易な服用は危険です。

6. 海外旅行の際の注意

日本の水は「軟水」です。ミネラル含有量が多い「硬水」を飲み慣れていない人が海外の水道水を飲むと下痢をすることが珍しくありません。衛生状態の良い国であっても水道水は飲まない方が無難です。

衛生状態の良くない国では、ミネラルウォーターを飲むようにしてください。野菜サラダ・カットフルーツなど非加熱の食品は危険です。しっかり加熱された料理を選びましょう。また、A型肝炎の予防接種をしておくこともお勧めします。7ヶ月間に3回接種が必要です。海外渡航の前には早めに医師にご相談ください。

詳しくは、下記の保健センターのホームページをご覧ください。

※立命館保健センター

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/hoken/>

立命館大学ホームページ→各センター等→保健センター





SPORTS スポーツ

[問い合わせ先]
スポーツ強化センター：075-465-7863

陸上競技部

第17回世界大学クロスカントリー選手権大会で竹中理沙さんが4位入賞

(4月13日 カナダ・オンタリオ州キングストン)

第17回世界大学クロスカントリー選手権大会において、女子の部(5キロ)は、女子陸上競技部の竹中理沙さん(経営3)が4位、田中華絵さん(経済3)が13位となった。

織田幹雄記念国際陸上競技大会

男子100m決勝で小谷優介さんが2位入賞

(4月29日 広島広域公園陸上競技場)

日本グランプリシリーズ第3戦となる織田幹雄記念国際陸上競技大会(兼第16回アジア競技



大会代表選手選考競技会)において、男子陸上競技部の小谷優介さん(経済3)が男子100m決勝で2位入賞を果たした。

決勝では2009年のベルリン世界陸

上代表選手から日本のトップ選手を抑え準優勝に輝いた。

重量挙げ部

全日本学生ウエイトリフティング選抜大会女子53kg級で鎔谷綾子さんが優勝

(4月25日 さいたま市記念総合体育館)

第7回全日本学生ウエイトリフティング選抜大会の女子53kg級において、体育会重量挙げ部の鎔谷綾子さん(産社4)がトータル164キロで優勝した。

全日本女子学生選手権大会63kg級で木下ちひろさんが優勝

(5月14日～16日 羽曳野市羽曳野コロシアム)

第22回全日本女子学生選手権大会の女子63kg級において、木下ちひろさん(産社3)がトータル175キロで優勝した。

水泳部(シンクロ)

日本選手権で小林・乾ペアがデュエットで優勝、ジャパンオープン2010において日本勢最高の3位

(5月5日 東京辰巳国際水泳場)

第86回日本選手権水泳競技大会シンクロナイズドスイミング競技 日本選手権兼ジャパンオープン2010の決勝が行われ、小林千紗さん(校友・2010年経済卒)、松本千尋さん(経営4)、上南侑生さん(経済3)、乾友紀子さん(経営2)が出場した。



日本選手権では、デュエットにおいて、小林・乾ペアが優勝。チー

ム(8人での演技)においても優勝に輝いた。

海外選手も含めたジャパンオープンでは、デュエットで3位、チームで3位、日本勢トップの結果を残した。

この結果を受け、9月のワールドカップ、11月のアジア大会のデュエット日本代表に小林・乾ペアが決定した。

柔道部

柔道部女子、関西学生女子柔道優勝大会において3連覇達成

(5月23日 尼崎市記念公園総合体育館)

第18回関西学生女子柔道優勝大会において、柔道部女子が見事優勝し、3連覇を成し遂げた。女子5人制での3連覇は初の快挙となる。



CULTURE/ART 文化・芸術

[問い合わせ先]
学生オフィス：075-465-8167

バトントワリング部

全日本バトントワリング選手権大会でグランプリ獲得、世界大会に出場決定!

(3月20日～22日 広島県立総合体育館)

第35回全日本バトントワリング選手権大会のフリースタイルチームの部で、バトントワリング部の立命館バトンチームが優勝した。

この結果を受け8月にノルウェーで行われる第30回世界バトントワリング選手権大会への出場が決定した。

また個人でも、スリーバトン部門で渡辺翔太さん(文4:当時)がグランプリを獲得した。



写真部

仁和寺の四季を写真部が記録

(4月21日 仁和寺)

世界遺産・仁和寺の四季折々の表情をカメラに収める活動を写真部が始めた。

仁和寺には、出版社や旅行会社から写真の貸し出し依頼が頻繁にあり、学生に寺の歴史を学びながら腕を磨く機会を提供しようと、寺から呼び掛けがあった。



将棋研究部

第39回全国支部将棋名人戦にて優勝

(5月2日 東京将棋会館)

第39回全国支部将棋名人戦の東西決戦が開催され、西地区代表で出場した将棋研究会の横山大樹さん(産社2)が初優勝を飾った。

横山さんは今年度内に開催されるアマチュア名人戦の全国大会に招待される。



かるた会

小倉百人一首団体対抗かるた選手権大会において優勝

(5月9日 福岡県柳井神社)



第45回西日本新聞社杯小倉百人一首団体対抗かるた選手権大会のA級において、かるた会Aチームが

優勝を果たした。全6チームがリーグ戦を行い、決勝戦では広島県たるた協会と対戦。4勝1敗で勝利を収め、優勝に輝いた。

CAMPUS ACTIVITIES 学生活動

[問い合わせ先]
学生オフィス：075-465-8167

第42回草津宿場まつり立命館大学課外活動団体が多数参加

(4月24日、25日 JR草津駅周辺)

このイベントは、毎年、草津地域の方々によって開催されるもので、東海道と中山道が出合う旧草津宿の歴史や伝統を身近に感じ、楽しむことができる草津市の春の風物詩としても知られている。当日は晴天にも恵まれ、7万名を超える多くの観客で賑わった。

街道では、多彩なパフォーマンスが行われ、立命館大学からも11の課外活動団体、100名を超える学生が参加した。



びわこ・くさつキャンパス(BKC)で「新歓祭典」を開催!!

(4月25日 びわこ・くさつキャンパス)

今年のテーマは「新歓祭典～君が動くと祭が動く～」このテーマには、新歓祭典を通して新入生に主体的な姿勢を持ってもらいたいという願いが込められている。

当日は天候にも恵まれ、例年よりも多くの来場者で賑わった。キャンパス内には、新入生による模擬店が出されたほか、各ステージ上では、観客を巻き込んだエネルギーあふれるパフォーマンスが繰り広げられた。



学園トピックス

学生の活躍

政策科学部生が外国人向けガイドブック「日本酒のふるさと、伏見を楽しもう!」を発行

外国人が伏見の歴史や酒文化について高い興味を持つ一方で、英語での観光文献が少ないことを確認し、英語学習ゼミ(担当: 田林葉教授)の学生11名が英語の情報冊子Enjoy Fushimi, Home of Sake Breweries(日本酒のふるさと、伏見を楽しもう!)を発行しました。

誌面では伏見の名所、酒造りの文化、日本酒の特徴に加え、伏見酒造組合の協力も得て伏見の名酒が紹介されています。同内容はWebサイト(<http://decodingkyoto.policy-science.jp/fushimi/>)でも閲覧でき、冊子のPDF版もダウンロードできます。



産業社会学部学生が 御室エリア「多言語観光ぐるっとマップ」を発行

京都への外国人観光客の数が今後、急増することが予想されている一方で、そのニーズに応える情報の提供が十分でない現状に問題意識をもち、小澤亘ゼミに所属する「外国人観光プロジェクト」チームの学生6名が御室エリア「多言語観光ぐるっとマップ」を発行しました。今後、他エリアのマップも制作していく予定です。

大学と地域の連携による新しい外国人観光のあり方を目指して、京都市内においてマップの無料配布を行っています。

■ 配布場所

京福電鉄「四条大宮」駅、仁和寺・妙心寺内

※発行部数には限りがございます。



映画「京都太秦物語」が公開

5月22日(土)、MOVIX京都で映画「京都太秦物語」が公開されました。この映画は映像学部客員



阿部監督、海老瀬はなさんと映像学部学生

教授の山田洋次監督が映像学部の学生22名とともに2年の歳月をかけて作り上げたもので、大映通り商店街(京都太秦)の人々も出演しています。第60回ベルリン国際映画祭や第34回香港国際映画祭にも出品されました。

「キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)全国大会」にて、経営学部学生チームが審査委員会特別賞を受賞

3月30日(水)、東京・飯田橋にて「第6回キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)全国大会」が行われました。

今回の大会では、垣内俊哉さん(経営2)、民野剛郎さん(経営2)、城村伊織さん(経営2)の経営学部



※学生の回生は2009年度当時

学生チーム(※アントレプレナー教育プログラム受講生)が「らくらく大学ナビー-自宅で手軽にオープンキャンパス-」というビジネスプランを発表。バリアフリー情報を加えた大学ごとのマップを作成。大学の障害者支援体制やバリアフリーに関するランク付けを行い、ウェブでも公開するというプランで、審査委員会特別賞を受賞しました。

※アントレプレナー教育プログラムとは

自立的かつ創造的に起業家精神(アントレプレナーシップ)に満ちた人材の輩出を目的とした経済・経営・理工・情報理工の4学部共通プログラムであり、講師派遣やインターンシップの受け入れなど協力企業の支援のもとで展開しています。

教育・研究の成果

今中忠行・総合理工学院生命科学部 生物工学科教授が「紫綬褒章」を受賞

今中忠行・総合理工学院生命科学部教授は、「微生物工学」の研究成果が評価され、「紫綬褒章」を受賞しました。

微生物工学の分野において、独自のアイデアでタンパク質安定化の新しい原理を発見するとともに、超好熱始原菌が有する多数の新規酵素・代謝経路を解明するなど先駆的な業績をあげられました。また超好熱始原菌と菌由来酵素の有用性を見出し、極限環境微生物学の進展と応用に多大な貢献をされています。



今中忠行教授

民秋均教授・溝口正准教授の研究グループが参加した共同研究の成果が英科学誌ネイチャーに掲載

民秋均・総合理工学院薬学部教授、溝口正・総合理工学院生命科学部准教授の研究グループが参加した共同研究の成果が4月19日付けで英科

学誌ネイチャー(オンライン版)に掲載されました。

この研究は名古屋大学大学院生命農学研究科の野亦次郎研究員と藤田祐一准教授の研究グループと大阪大学蛋白質研究所の木村則文研究員と栗栖源嗣教授の研究グループが中心となり、立命館大学の研究グループと共同で、葉緑素が作られる最終段階、葉緑素が緑色になるための反応の仕組みを明らかにしたものです。民秋均教授・溝口正准教授の研究グループは「葉緑素(クロロフィル)の分子科学」の領域で研究成果に貢献しました。



民秋均教授



溝口正准教授

学園の取り組み

立命館中学校・高等学校 長岡京市への移転を決定

小学校から大学までの一貫教育の新たな展開を進めるために、立命館中学校・高等学校



を、2013年9月を目処に現在の京都市伏見区から長岡京市へ移転することを決定しました。

今年、創立105年を迎える立命館中学校・高等学校は「サイエンス教育」「国際教育」をキーワードに特徴的なプログラムを展開しており、同時に、生徒の自主的活動を柱にした豊かな人間性を育む教育を重視しています。

今回のキャンパス移転は、各コースでのきめ細やかな教育に対応するための最先端の教育環境の整備や教室数の確保を実現する立命館一貫教育における大きな意味を持つ事業となります。

金融経済教育プログラム・授業教材の発行および教材支援サイトを開設

立命館大学と野村證券株式会社は、「『高等学校における金融・ファイナンス教育開発プロジェクト』の推進に関する協定」を2007年5月に締結し、連携した



取り組みを行ってきました。この取り組みの成果として「サブテキスト:身の回りから考える金融経済とキャリア・デザイン」、「授業計画案・ワークシート」を発行しました。高等学校の教育現場における社会科や家庭科、またキャリア教育を担当する先生方を主な対象にした、金融経済教育の教材となっています。同時に、金融経済教育プログラムの教材支援サイトも開設いたしました。教材は立命館大学のホームページよりダウンロードできます(<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/cg/manabi-station/r-n-pj/index.html>)。

こんな場合はここへ

各種取扱い窓口のご紹介

事項	内容例	取扱い窓口	概要
カリキュラムについては	卒業に必要な単位が知りたい	各学部事務室/教学課	学部則で定めています。
	成績について知りたい		セメスターごとに成績発表をし、成績通知表を公布します。
	教員免許状をとるためには(教職課程の履修について)		取得できる免許の種類等は学部則で定めています。1回生からの計画的履修と自主的自発的な努力が必要です。
各種変更届出は	学生の現住所・電話番号などの変更	【衣笠】各学部事務室 【BKC】学びステーション 077-561-4972	CampusWebより、学生本人が随時更新してください。
	保証人または学費請求先の変更(住所、姓名など)		学生本人が窓口にて所定の変更届を提出してください。保証人のみの情報変更についても、左記の窓口で受け付けますのでご注意ください。
学籍や進路に関する相談は	休学	各学部事務室 / 教学課	病気などやむを得ない理由で継続して2ヶ月以上就学することができなくなったとき、「休学願」を提出して許可を得る必要があります。
	復学		復学を願う者は、「復学願」を提出して許可を得る必要があります。
	退学		退学を願う者は、「退学願」を提出して許可を得る必要があります。
	再入学		退学・除籍となった学期の最終日から起算して2年以内であれば再入学を出願することができます。
	転籍	国際教育センター 【衣笠】075-465-8229 【BKC】077-561-3038	募集がある場合、所定の期間内に出願すれば、選考の結果許可されることがあります。
	海外留学したい		海外留学プログラムの相談窓口、募集要項の配布、協定校の情報。
	卒業後も勉学を続けたい		大学院進学相談・資料請求ができます。また、聴講生・科目等履修生の制度もあります。
	就職について相談したい		キャリアオフィス 【衣笠】075-465-8172 【BKC】文系 077-561-3942 理系 077-561-2626
難関国家試験・資格試験等に備えたい	エクステンションセンター 【衣笠】075-465-8297 【BKC】077-561-2853 【朱雀】075-813-8285	各種試験対策講座や、スキルアップのための講座を開講しています。	
学費や経済的な相談は	学費納入方法についての問い合わせ	財務経理課 075-813-8164	郵送される「学費案内」に同封の振込用紙で銀行からお振込ください。納入期限にご注意ください。
	学費納入が困難なとき	学生オフィスまたは各学部事務室 / 教学課	お早めにご相談ください。
	奨学金を受けたい	学生オフィス 【衣笠】075-465-8168 【BKC】077-561-2854	日本学生支援機構奨学金をはじめ、学内奨学金その他民間奨学財団奨学金等があります。

■ 各学部事務室/教学課

法学部事務室	075-465-8175	経済学部事務室	077-561-3940
産業社会学部事務室	075-465-8184	経営学部事務室	077-561-3941
国際関係学部事務室	075-465-1211	理工学部教学課	077-561-2625
政策科学部事務室	075-465-7877	情報理工学部教学課	077-561-5202
文学部事務室	075-465-8187	生命科学部・薬学部教学課	077-561-5021
映像学部事務室	075-465-1990	スポーツ健康科学部事務室	077-561-3760

お子さまの学生生活について、疑問やご相談にお応えする窓口をケース別にご紹介します。
 お子さまがお悩みの際には以下の取扱い窓口に行くようご助言ください。



事項	内容例	取扱い窓口	概要
通学方法の相談は	通学定期購入のための証明	各学部事務室 / 教学課	通学定期は「通学証明書」または学生証で購入できます。「通学証明書」は各学部事務室 / 教学課で発行します。
	バイク通学の登録	キャンパスインフォメーション 【衣笠】075-465-8144 【BKC】077-561-2621	バイクで通学する場合は必ず登録してください。
課外活動について	課外活動上の問題など	学生オフィス 【衣笠】075-465-8168 【BKC】077-561-3952	入・退部や練習・合宿などの日常の問題はキャプテンまたは先輩などに相談してください。相談しにくい問題は部長・顧問の先生または学生オフィスやスポーツ強化オフィスにご相談ください。
事故・事件・トラブルなどの相談は	交通事故、訪問販売、盗難、災害などのトラブルに見舞われたとき	学生オフィス 【衣笠】075-465-8168 【BKC】077-561-2854	秘密厳守で相談にのります。
からだやこころの相談は	けが、病気になったとき	保健センター 【衣笠】075-465-8231 【BKC】077-561-2635	保健センターは診療所を併設し、診療や応急処置を行っています。診察には保険証が必要です。
	こころとからだに悩みがあるとき		どんな小さな問題でも相談に応じます。他の病院への紹介もします。
	悩みや相談があるとき	学生サポートルーム 【衣笠】075-465-8168 【BKC】077-561-2854	スタッフが相談者の立場に立って一緒に考えます。秘密は厳守します。サポートルーム又は学生オフィスで予約をしてください。
その他	落し物をした・落し物をひろった	キャンパスインフォメーション 【衣笠】075-465-8144 【BKC】077-561-2621	毎日、非常に多くの落し物があります。所持品の管理には十分ご注意ください。
	学生証の再発行	【衣笠】各学部事務室 【BKC】学びステーション 077-561-4972	再発行手数料2,000円。カラー写真1枚、印鑑が必要です。紛失したときは、警察もしくは近くの交番へも必ず届けてください。 ※手数料は証紙発行券売機で購入して持参してください。
	父母が本学の図書館を利用したい	【衣笠】衣笠図書館 075-465-8217 【BKC】メディアセンター 077-561-2634 メディアライブラリー 077-561-3943	父母教育後援会会員であることを条件に、図書館の利用が可能です。利用手続きについては、衣笠図書館またはメディアセンター・メディアライブラリーへお問い合わせください。
	入学試験の問い合わせ	入学センター 075-465-8351 入学センター・テレフォンサービス 075-465-8111	入試に関する情報を提供しています。オープンキャンパス、入試相談会などを行っています。
	学生生活いろいろ	立命館生協 【衣笠センター】075-465-8280 【BKCセンター】077-561-3918	下宿、学生総合共済、立命館オリジナルグッズなど様々なものを扱っています。入学式の写真などを収めたフレッシュブック、卒業アルバムのお問い合わせもこちらです。
	平和について知りたい・学びたいとき	国際平和ミュージアム 国際平和メディア資料室 075-465-8151	国際平和ミュージアム:戦争と平和の歴史や、今、私たちが平和のためにできることを展示で紹介。メディア資料室:展示内容やテーマをもっと詳しく知りたい、調べたい人のために2万冊を超える図書とメディアの蔵書があります。課題の調査にも便利です。

■ 保健センター

保健センターの各キャンパスの診療日程は、年度途中に医師の都合等により変更になる可能性があります。また、4月の健康診断期間中、夏期および春期休暇中の窓口時間、診療日程は、開講期間中と異なります。別途ホームページや窓口の掲示で確認してください。

衣笠キャンパス

科 別	曜日	各科受付時間		
		午前	午後	
窓口時間	月～金	9:30～11:30	12:30～18:00	
	休暇期間	9:30～17:00		
診察・健康相談	内科医師担当	月・水・金	9:30～11:30	
		火	—	
		木	—	
	精神科医師担当(予約制)	月	9:30～11:30	13:00～16:30
		火	—	14:00～17:00
		木	—	13:00～16:30
		金	—	13:30～16:30
X線撮影	火・木	—	13:00～15:30	
禁煙外来(予約制)	月・火	—	16:00～17:00	
レディース外来(予約制)	木	9:30～11:30	—	

びわこ・くさつキャンパス

科 別	曜日	各科受付時間	
		午前	午後
窓口時間	月～金	9:30～11:30	12:30～18:00
	休暇期間	9:30～17:00	
診察・健康相談	内科医師担当	月・水・金	9:30～11:30
		火・木	—
	精神科医師担当(予約制)	火	—
		水	9:30～11:30
	禁煙外来(予約制)	月・火・金	—
レディース外来(予約制)	月	9:30～11:30	—

立命館大阪オフィス後期公開講座のご案内

◎2010年度 大阪・京都文化講座(後期)「大阪・京都の地宝と考古学」のご案内

コーディネーター：永田 靖(大阪大学文学研究科教授)、桂島 宣弘(立命館大学文学部教授)

[定員] 各80名
 [受講料] 1回2,000円(7回以上一括申込みの場合、13,000円)
 [お問い合わせ・申込み先] 立命館大阪オフィス TEL:06-6201-3610

[会場] 立命館アカデミア@大阪 6階 6Aセミナールーム
 [時間] 14:00~15:40(講演90分、質疑応答10分)
 [共催] 大阪大学21世紀懐徳堂、立命館大学文学部、立命館大阪オフィス

	開催日	プログラム	講師名
第1回	10月 5日(火)	京都の先史時代	矢野健一(立命館大学 文学部 教授)
第2回	10月19日(火)	武器と先史社会 -大阪の稲・鉄・戦争-	寺前直人(大阪大学 文学研究科 助教)
第3回	10月26日(火)	摂河泉の王者たち	下垣仁志(立命館大学 文学部 講師)
第4回	11月 2日(火)	弥生・古墳時代における近畿地域の生産・流通構造の発展	長友朋子(大阪大学 文学研究科 招聘研究員)
第5回	11月16日(火)	日本海の弥生王墓と巨大前方後円墳	福永伸哉(大阪大学 文学研究科 教授)
第6回	11月30日(火)	京・嵯峨野の古墳群	和田晴吾(立命館大学 文学部 教授)
第7回	12月 7日(火)	大阪の飛鳥時代	高橋照彦(大阪大学 文学研究科 准教授)
第8回	12月14日(火)	京都の古代寺院と秦氏	高 正龍(立命館大学 文学部 教授)

◎2010年度 立命館大阪オフィス講座

「立命館大阪オフィス講座」は1999年の開講初年度以来、大阪府民・市民の皆様を“知のプロムナード”に誘(いざな)い続けて12年目を迎えました。本年も、実業、人文・社会・自然の各々の分野において第一線でご活躍中の学識経験者・研究者をお招きして、皆様を科学の世界へご案内いたします。(全21回)

※ 講座内容・会場等については、[大阪オフィス講座](http://www.ritsumei.jp/life-09/e09_04_j.html) http://www.ritsumei.jp/life-09/e09_04_j.html

[定員] 各90名
 [受講料] 1回1,000円(17回以上一括申込みの場合、17,000円)
 [時間] 14:00~15:40(講演90分、質疑応答10分)
 [お問い合わせ・申込み先] 立命館大阪オフィス TEL:06-6201-3610

国際平和ミュージアム展覧会情報

世界報道写真展2010 - WORLD PRESS PHOTO 2010 -

お問合せ TEL 075-465-8151 / FAX 075-465-7899
<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/>

世界報道写真展は、オランダに本部を置く世界報道写真財団が毎年開催している世界報道写真コンテスト入賞作品(約200点)で構成した写真展です。いま、この地球上で起こっている世界の様々な側面を、写真を通して来場者の方に知っていただくことで、社会のあり方とは、平和とは何かについて、思いをめぐらせていただく機会となるべく開催するものです。

※詳しくは→<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/event/special/index.html>

[京都会場] 立命館大学国際平和ミュージアム **会期** 2010年 9月22日(水) ~ 10月16日(土)
 [大分会場] 立命館アジア太平洋大学コンベンションホール **会期** 2010年10月19日(火) ~ 11月 7日(日)
 [滋賀会場] 立命館大学びわこ・くさつキャンパス エポックホール **会期** 2010年11月10日(水) ~ 11月23日(火)



[世界報道写真大賞]
 ビエトロ・マストゥルツォ / イタリア
 2009年6月24日、テヘランの建物の屋上からイランの現体制への抗議を叫ぶ女性

堂本印象美術館展覧会情報

こころをかたちに - 新造形の誕生 -

お問合せ TEL 075-463-0007 / FAX 075-465-3099
<http://www2.ocn.ne.jp/~domoto/>

堂本印象-東洋の古典に西洋画を取り入れた具象絵画から、戦後の抽象絵画にいたるまで幅広い画業の展開は、日本画家のなかにおいても特異であるといえます。本展では、この世に存在するもののかたちを超えて、こころの内側を表現することに徹した1960年代以降の作品を紹介します。

※詳しくは→<http://www2.ocn.ne.jp/~domoto/plan/2010/p02/index.htm>

会期 2010年6月18日(金) ~ 2010年10月24日(日)



公費助成の取り組みへお礼と協力をお願い

私学助成は1970年に補助金制度が創設されたときから始まり、私学関係者や保護者からの要求と運動によって1975年に成立した私立学校振興助成法には「経常的経費の2分の1以内を補助することができる」ことが明記されています。しかし近年、私学の経常費に占める補助金の割合は10%程度にとどまっているだけでなく、国立大学と私立大学への公的な補助についての大きな格差があります。その結果、家計に占める教育費負担の割合も大変高くなっています。

このような状況のなか、立命館大学では、1971年から学内の関係パートによる「公費助成のための立命館大学全学連絡協議会（通称：全学公助連）」を組織し、これ以降、保護者負担の軽減、教育・研究の充実等のため公費助成の増額を求める取り組みを進めてきました。

2009年度も保護者のみなさまに署名へのご協力をお願いしてきましたが、学生・院生や教職員による署名とあわせて全体で9万筆以上の署名を集めることができました。改めて御礼申し上げます。

2009年度の活動報告

1) 学習会

教職員、学生・院生が公費助成に関する情勢や必要性を共有できるよう、公費助成に関する学習会を実施しました。

2) 署名活動

学内では、各職場や小集団クラスにおいて署名用紙を配布し、その意義の説明とあわせて署名への協力をお願いしました。また11月には学生・院生と教職員が協力して全学署名デーを実施し、キャンパス内の学生・院生、教職員に署名を呼びかけました。

3) 中央要請行動

2009年11月20日（金）に、全国の私大関係者ととともに私大助成中央要請行動を行いました。本学からは教職員と学生が参加し、衆参両議院の国会議員等を訪問し、署名用紙を届けるとともに、公費助成の増額や必要性について訴えました。また、日本商工会議所も訪問し、就職難や就職活動に関する取り組みについて、学生が直接状況を説明しました。政権交代の影響もあってか、例年より多くの議員や関係者の方が学生等の説明に熱心に耳を傾けていただき、多くの共感を得ることができました。



2010年度の予定

今年度も2009年度に引き続き、学生・院生や教職員に対して公費助成に関する理解を広めるとともに、署名活動や請願活動に取り組む予定にしています。

今年度についても、1～3回生の保護者のみなさまに署名用紙をお送りいたします。引き続きご協力をお願いいたします（郵送は8月上旬、返送締め切りは9月中旬の予定です）。

秋のオープンカレッジ・アカデミック京都ウォッチング開催のご案内

秋のオープンカレッジ

2010年11月20日(土)

[場所] 衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス [内容] 講演会・学部別懇談会



アカデミック京都ウォッチング

2010年11月21日(日)



■ 父母教育後援会会員様には別途ご案内を送付いたします(10月上旬発送予定)。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

RITSUMEIKAN GOODS

掲載している以外にも様々なグッズを販売しています。その他のグッズについては下記までお問い合わせください。



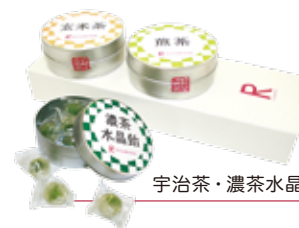
Rマグカップ



Tシャツ



みかさ



宇治茶・濃茶水晶飴詰合せ

[インターネットでのご注文]

下記アドレスにアクセスください。

<http://www.ritsumei-shop.com/>

[FAXでのご注文]

下記事項をご記載のうえ、FAXでご注文ください。

- 必要事項: お名前、ご住所、電話番号、FAX番号、希望お支払い方法
- 商品情報: 希望商品名(色・サイズ)、単価、個数

FAX 075-463-9045

[電話でのご注文]

下記までご連絡ください。

(株)クレオテックリベルテ

TEL 075-463-9740

父母教育後援会ホームページのご案内

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/fubo/index.htm>

立命館大学のホームページアドレスからは…
「保護者の皆さまへ」▶「立命館大学父母教育後援会」をクリック

会報が複数届いた方へ

ご兄弟で立命館大学に通われている場合、父母教育後援会の会費1名様分をご返金させていただいております。本誌が2通届いた方は事務局までご連絡ください。申請用紙を送付させていただきます。

■ 会員様の住所変更について

本誌は、登録されている学生の保証人住所に送付しております。住所を変更された場合は、学生本人による住所変更の手続きが必要です。お子様に学生証をお持ちの上、所属の学部事務室(BKCは学びステーション)まで届け出ていただきますようお願いいたします。

■ 立命館大学夏期一斉休暇のお知らせ

8月13日(金)～8月20日(金)まで夏期一斉休暇のため、閉室いたします。

*最近、立命館や、関係団体等の名前を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会を学外には一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。

立命館大学父母教育後援会だより 2010年度 夏号

2010年8月発行 立命館大学父母教育後援会 〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1 Tel. 075-813-8261 Fax. 075-813-8262